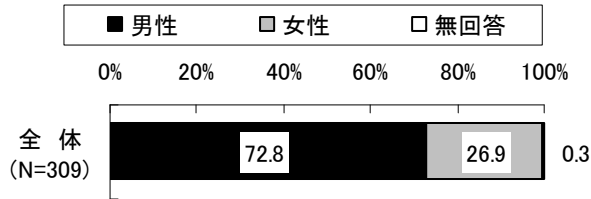

第9章

発達障がい児・者調査

第9章 発達障がい児・者調査

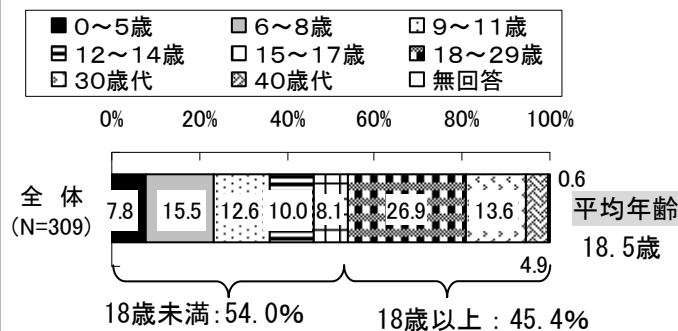
1. 基本属性

【図表9-1 性別】



男性（72.8%）の方が多く、7割強を占めている。

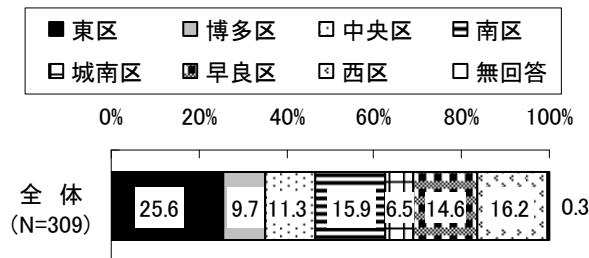
【図表9-2 年齢】



「18～29歳」（26.9%）が最も多く、次いで「6～8歳」（15.5%）となっている。

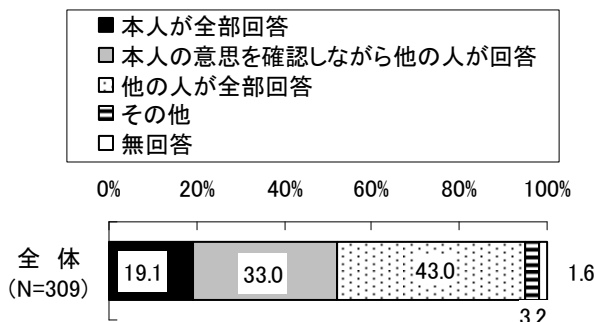
また、18歳未満（発達障がい児）が54.0%、18歳以上（発達障がい者）が45.4%となっている。

【図表9-3 居住地区】



居住地区としては、「東区」（25.6%）が最も多く、次いで「西区」（16.2%）となっている。

【図表9-4 調査の回答者】

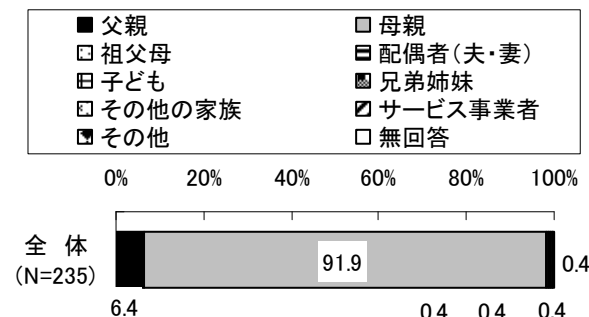


「他の人が全部回答」（43.0%）が最も多く、次いで「本人の意思を確認しながら他の人が回答」（33.0%）となっている。

「本人が全部回答」（19.1%）・「本人の意思を確認しながら他の人が回答」（33.0%）をあわせると、本人の意思に基づく回答が5割強（52.1%）となっている。

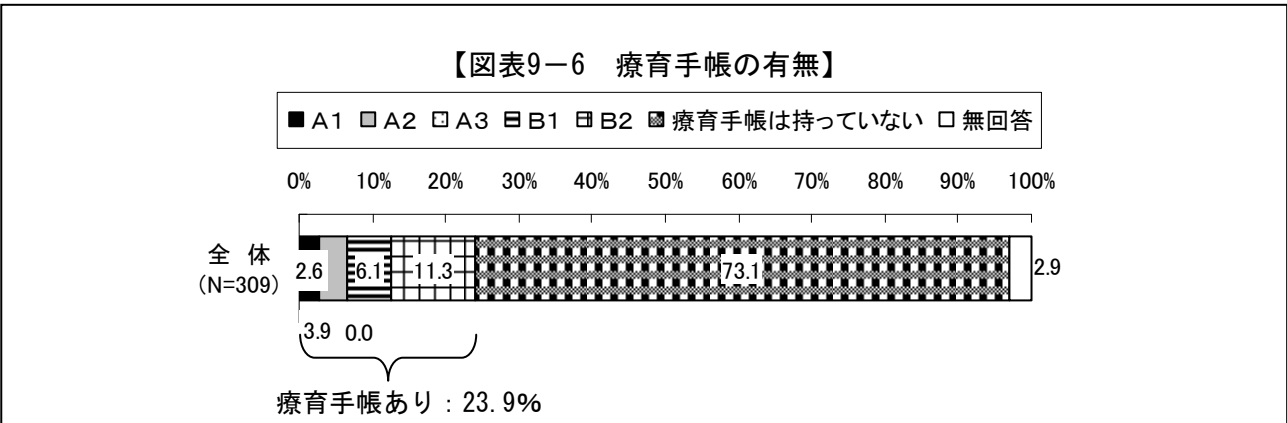
「本人の意思を確認しながら他の人が回答」または「他の人が全部回答」した場合の回答者の続柄は「母親」（91.9%）が最も多く、9割を超えている。

【図表9-5 調査回答者の続柄】



2. 障がいの状況について

(1) 療育手帳の有無



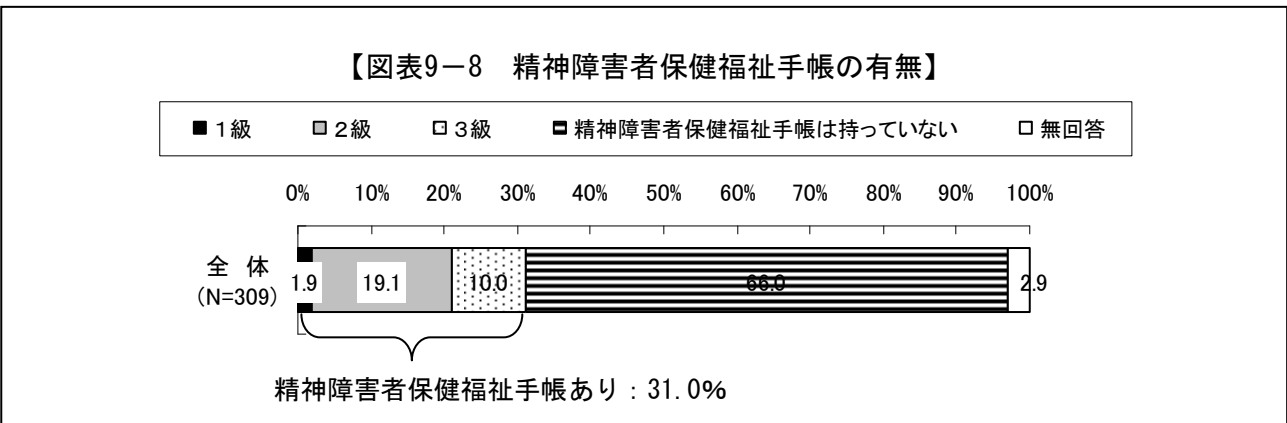
療育手帳所持者は2割強（23.9%）であり、内訳は重度（A1-3）：6.5%、中度（B1）：6.1%、軽度（B2）：11.3%となっている。

年齢別にみると、療育手帳所持者の割合は0～5歳と12歳～20歳代で3割を超えており、特に0～5歳では過半数（54.1%）と高い。また、12歳～29歳ではA判定の重度者が1割を超えている。

【図表9-7 年齢別 療育手帳の有無】（%）

		調査数 (人)	療育手帳の有無						
			A1	A2	A3	B1	B2	持っていない	無回答
全体		309	2.6	3.9	-	6.1	11.3	73.1	2.9
年齢	0～5歳	24	-	-	-	20.8	33.3	45.8	-
	6～8歳	48	-	2.1	-	2.1	4.2	91.7	-
	9～11歳	39	-	-	-	2.6	7.7	87.2	2.6
	12～14歳	31	3.2	9.7	-	-	25.8	61.3	-
	15～17歳	25	12.0	4.0	-	8.0	16.0	60.0	-
	18～29歳	83	4.8	6.0	-	9.6	10.8	66.3	2.4
	30歳代	42	-	2.4	-	2.4	2.4	81.0	11.9
	40歳代	15	-	6.7	-	6.7	-	80.0	6.7
	無回答	2	-	-	-	-	-	100.0	-

(2) 精神障害者保健福祉手帳の有無



精神障害者保健福祉手帳所持者は3割強（31.0%）であり、このうち、「2級」（19.1%）が最も多く、2割を占めている。

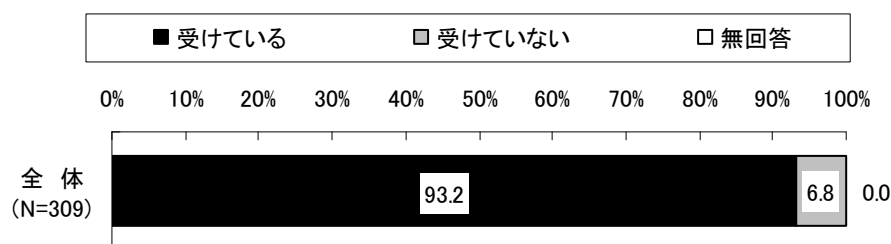
年齢別にみると、精神障害者保健福祉手帳所持者は17歳以下の児童では1割前後であるが、18歳以上になると所持者が増加し、18歳～29歳と40歳代の過半数、30歳代の6割強が所持している。

【図表9-9 年齢別 精神障害者保健福祉手帳の有無】(%)

	調査数 (人)	精神障害者保健福祉手帳の有無				
		1級	2級	3級	て福精 い祉神 な手障 い帳害 は者 持保 つ健	無 回 答
全 体	309	1.9	19.1	10.0	66.0	2.9
年 齢						
0～5歳	24	-	4.2	4.2	87.5	4.2
6～8歳	48	2.1	-	-	97.9	-
9～11歳	39	-	7.7	7.7	79.5	5.1
12～14歳	31	-	6.5	3.2	90.3	-
15～17歳	25	4.0	12.0	8.0	76.0	-
18～29歳	83	1.2	31.3	18.1	45.8	3.6
30歳代	42	7.1	45.2	14.3	28.6	4.8
40歳代	15	-	33.3	20.0	40.0	6.7
無回答	2	-	-	-	100.0	-

(3) 発達障がいの診断の有無

【図表9-10 発達障がいの診断の有無】



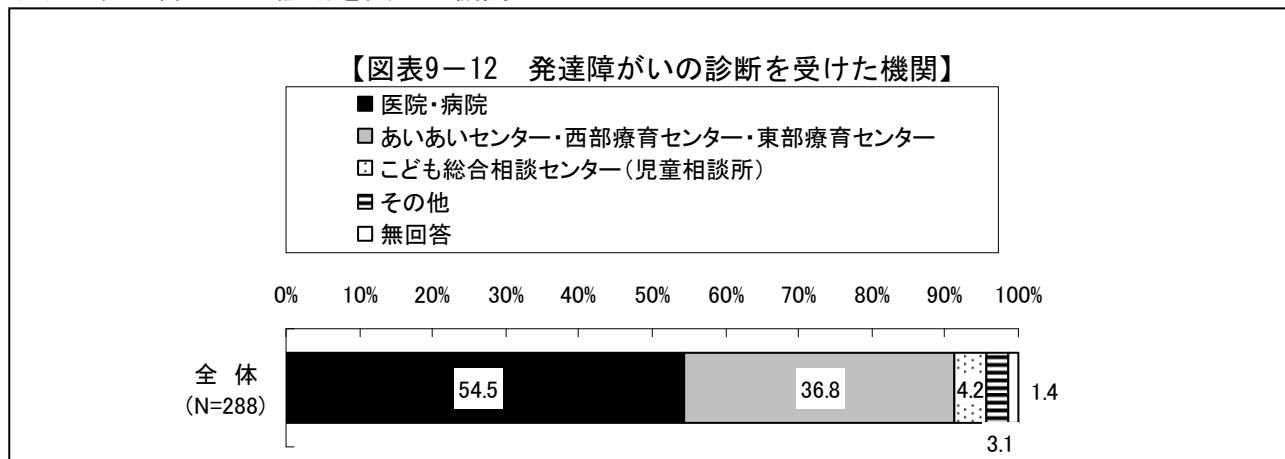
回答者の9割強（93.2%）が発達障がいの診断を受けている。

年齢別にみると、30・40歳代では他の年代に比べて診断を受けていない人の割合が高く、2割前後を占めている。

【図表9-11 年齢別 発達障がいの診断の有無】(%)

	(人) 調査数	発達障がいの診断の有無		
		受 け て い る	い 受 け て い な い	無 回 答
全 体	309	93.2	6.8	-
年 齢				
0～5歳	24	100.0	-	-
6～8歳	48	93.8	6.3	-
9～11歳	39	84.6	15.4	-
12～14歳	31	100.0	-	-
15～17歳	25	100.0	-	-
18～29歳	83	97.6	2.4	-
30歳代	42	83.3	16.7	-
40歳代	15	80.0	20.0	-
無回答	2	100.0	-	-

(4) 発達障がいの診断を受けた機関



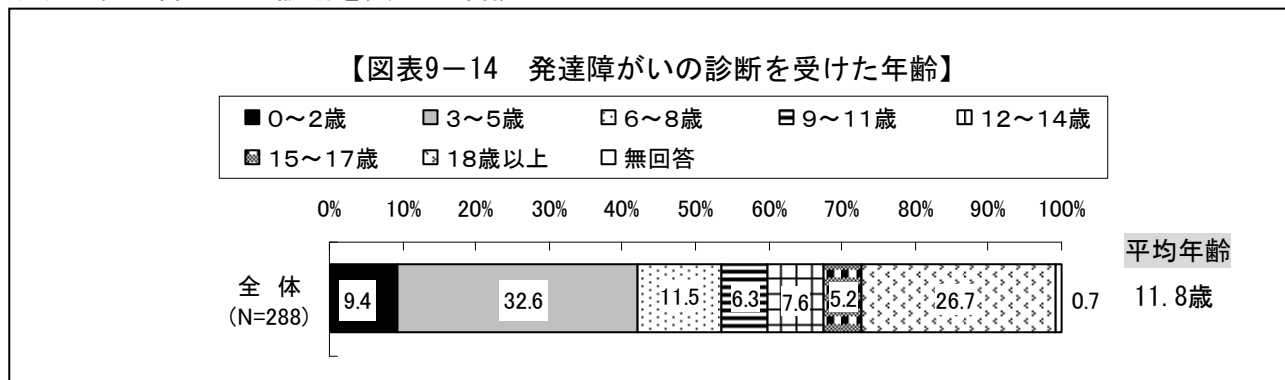
発達障がいの診断を受けている人に診断を受けた機関をたずねたところ、「医院・病院」(54.5%)が最も多く、次いで「あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」(36.8%)となっている。

年齢別にみると、8歳までは「あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」、9歳以上では「医院・病院」の割合が高い。

【図表9-13 年齢別 発達障がいの診断を受けた機関】(%)

	調査数(人)	発達障がいの診断を受けた機関				
		医院・病院	あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター	こども総合相談センター(児童相談所)	その他	無回答
全体	288	54.5	36.8	4.2	3.1	1.4
年齢	0～5歳	24	4.2	87.5	-	8.3
	6～8歳	45	26.7	64.4	2.2	2.2
	9～11歳	33	54.5	39.4	6.1	-
	12～14歳	31	48.4	41.9	9.7	-
	15～17歳	25	60.0	24.0	4.0	4.0
	18～29歳	81	70.4	21.0	6.2	1.2
	30歳代	35	77.1	17.1	-	2.9
	40歳代	12	91.7	-	-	8.3
	無回答	2	50.0	50.0	-	-

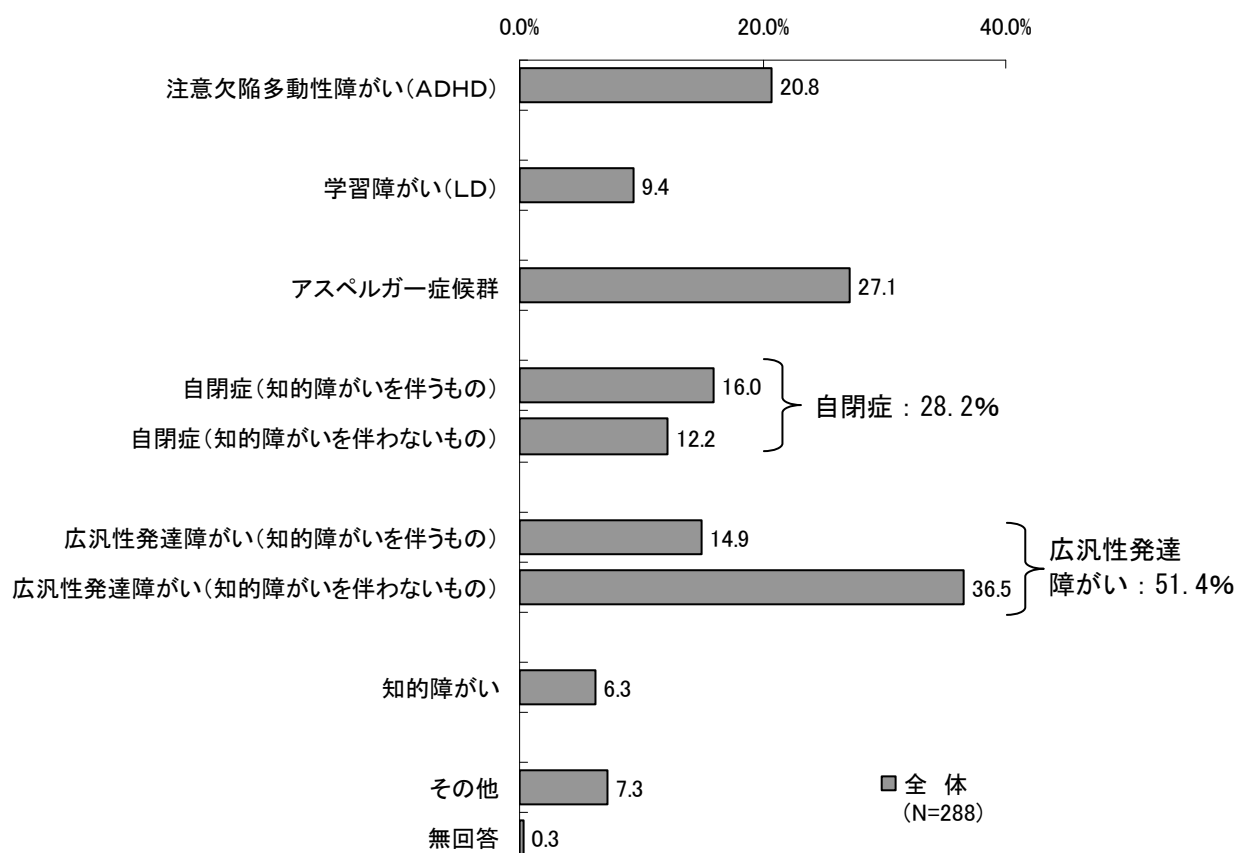
(5) 発達障がいの診断を受けた年齢



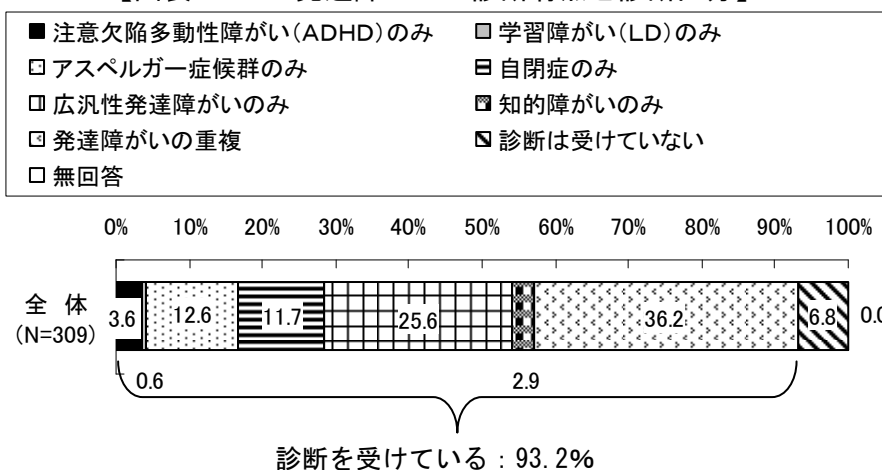
発達障がいの診断を受けている人に診断を受けた年齢をたずねたところ、「3～5歳」(32.6%)が3割を超えて最も多く、次いで「18歳以上」(26.7%)、「6～8歳」(11.5%)となっており、平均年齢は11.8歳である。

(6) 発達障がいの診断名

【図表9-15 発達障がいの診断名】(複数回答)



【図表9-16 発達障がいの診断有無と診断区分】



発達障がいの診断を受けている人に診断名を複数回答形式でたずねたところ、「広汎性発達障がい(知的障がいを伴わないもの)」(36.5%)が4割弱と最も多く、次いで「アスペルガー症候群」(27.1%)、「注意欠陥多動性障がい(ADHD)」(20.8%)となっている。また、知的障がいあり・なしを合計すると、自閉症は28.2%、広汎性発達障がいは51.4%となる。

診断有無と診断名を集約すると、「発達障がいの重複」(36.2%)が最も多く、次いで「広汎性発達障がいのみ」(25.6%)、「アスペルガー症候群のみ」(12.6%)となっている。

年齢別にみると、11歳までは「広汎性発達障がい」の割合が高く、知的障がいを伴うものと伴わないものをあわせると6割を超えている。一方、18歳以上では「アスペルガー症候群」の割合が高く、4割前後から6割弱を占めている。

【図表9-17 年齢別 発達障がいの診断名、診断有無と診断区分】(%)

		調査数（人）	発達障がいの診断名									
			（注意欠陥多動性障がい（ADHD））	学習障がい（LD）	アスペルガー症候群	自閉症（知的障がいを伴うもの）	自閉症（知的障がいを伴わないもの）	広汎性発達障がい（知的障がいを伴うもの）	広汎性発達障がい（知的障がいを伴わないもの）	知的障がい	その他	無回答
全 体		288	20.8	9.4	27.1	16.0	12.2	14.9	36.5	6.3	7.3	0.3
年 齢	0～5歳	24	8.3	8.3	—	16.7	4.2	54.2	29.2	8.3	4.2	—
	6～8歳	45	28.9	2.2	13.3	6.7	17.8	13.3	51.1	2.2	13.3	—
	9～11歳	33	51.5	18.2	24.2	6.1	15.2	9.1	45.5	—	6.1	—
	12～14歳	31	29.0	19.4	25.8	32.3	6.5	25.8	29.0	9.7	9.7	—
	15～17歳	25	28.0	16.0	20.0	28.0	24.0	8.0	16.0	20.0	8.0	—
	18～29歳	81	4.9	8.6	37.0	17.3	6.2	12.3	29.6	7.4	7.4	1.2
	30歳代	35	14.3	2.9	40.0	8.6	17.1	2.9	54.3	2.9	2.9	—
	40歳代	12	25.0	—	58.3	25.0	8.3	—	25.0	—	—	—
	無回答	2	—	—	—	—	50.0	—	50.0	—	—	—

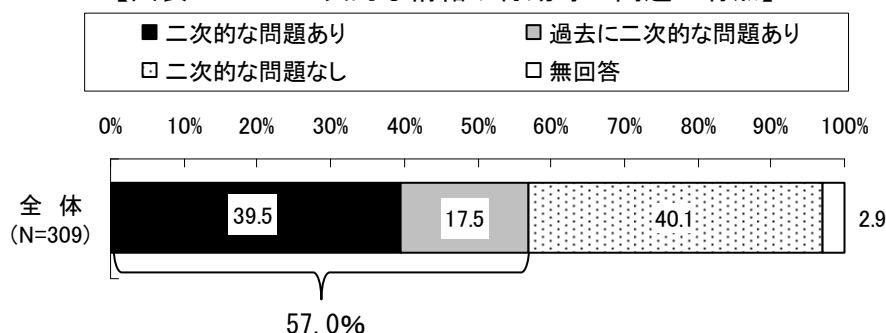
		調 査 数 （ 人 ）	発達障がいの診断有無と診断区分									
			診 断 を 受 け て い る	注 意 欠 陥 多 動 性 障 が い （ A D H D ） の み	学 習 障 が い （ L D ） の	ア ス ペ ル ガ ー 症 候 群 の	自 閉 症 の み	広 汎 性 発 達 障 が い の み	知 的 障 が い の み	発 達 障 が い の 重 複	診 断 は 受 け て い な い	無 回 答
全 体		309	93.2	3.6	0.6	12.6	11.7	25.6	2.9	36.2	6.8	—
年 齢	0～5歳	24	100.0	4.2	—	—	4.2	54.2	4.2	33.3	—	—
	6～8歳	48	93.8	4.2	—	6.3	4.2	31.3	8.3	39.6	6.3	—
	9～11歳	39	84.6	5.1	5.1	7.7	5.1	15.4	—	46.2	15.4	—
	12～14歳	31	100.0	—	—	9.7	16.1	22.6	—	51.6	—	—
	15～17歳	25	100.0	12.0	—	8.0	24.0	4.0	4.0	48.0	—	—
	18～29歳	83	97.6	2.4	—	21.7	14.5	26.5	3.6	28.9	2.4	—
	30歳代	42	83.3	—	—	16.7	9.5	33.3	—	23.8	16.7	—
	40歳代	15	80.0	6.7	—	20.0	20.0	—	—	33.3	20.0	—
	無回答	2	100.0	—	—	—	50.0	50.0	—	—	—	—

(7) 二次的な情緒や行動等の問題の有無

問7 あなたは、本来抱えている困難さとは別の二次的な情緒や行動等の問題を抱えていますか。(○は1つだけ)

※「不登校」「ひきこもり」「いじめ」「自傷・他傷」「破壊行動」などの問題を抱えていたり、PTSD・うつ・解離性障がい・適応障がいなどの、発達障がいとは別の症状を抱えていること。

【図表9-18 二次的な情緒や行動等の問題の有無】



「二次的な問題あり」(39.5%)・「過去に二次的な問題あり」(17.5%)をあわせると、6割弱(57.0%)の人が、発達障がい以外の二次的な情緒や行動等の問題を抱えたことがある。

年齢別にみると、「二次的な問題あり」の割合は年齢が高いほど高く、40歳代では7割を超えている。

発達障がいの診断別にみると、「二次的な問題あり」の割合は、他に比べてアスペルガー症候群のみの人(53.8%)等で高い。

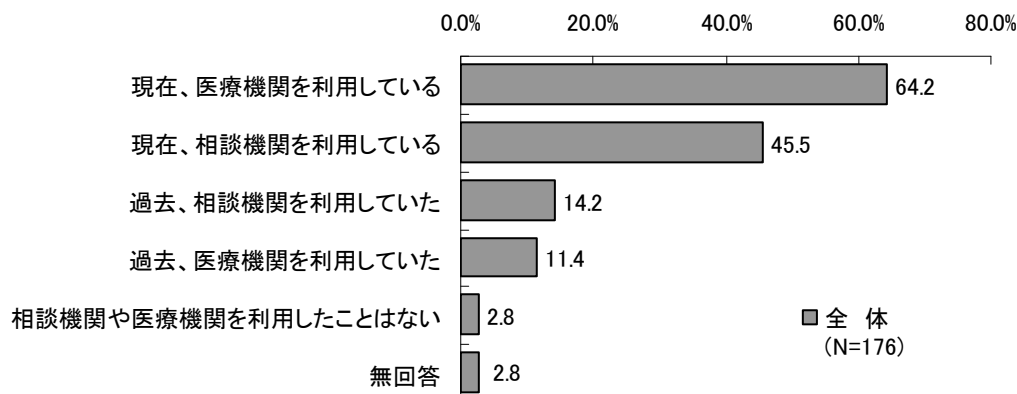
【図表9-19 年齢別、発達障がいの診断別 二次的な情緒や行動等の問題の有無】(%)

		調査数 (人)	二次的な情緒や行動等の問題			
			あり 二次 的な 問題	な 過 去 に 二 次 的 な 問題 あり	なし 二 次 的 な 問題	無 回 答
全 体		309	39.5	17.5	40.1	2.9
年 齢	0～5歳	24	20.8	—	75.0	4.2
	6～8歳	48	16.7	10.4	70.8	2.1
	9～11歳	39	25.6	17.9	56.4	—
	12～14歳	31	35.5	16.1	41.9	6.5
	15～17歳	25	48.0	32.0	16.0	4.0
	18～29歳	83	48.2	24.1	25.3	2.4
	30歳代	42	57.1	16.7	23.8	2.4
	40歳代	15	73.3	13.3	6.7	6.7
無回答		2	50.0	—	50.0	—
全 体		309	39.5	17.5	40.1	2.9
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	40.6	17.0	39.2	3.1
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	18.2	9.1	54.5	18.2
	学習障がい(LD)のみ	2	50.0	—	50.0	—
	アスペルガー症候群のみ	39	53.8	15.4	28.2	2.6
	自閉症のみ	36	50.0	16.7	33.3	—
	広汎性発達障がいのみ	79	26.6	20.3	48.1	5.1
	知的障がいのみ	9	22.2	22.2	55.6	—
	発達障がいの重複	112	46.4	16.1	35.7	1.8
	診断は受けていない	21	23.8	23.8	52.4	—
無回答		—	—	—	—	—

(8) 二次的な問題に関する相談機関や医療機関の利用状況

問7-2 二次的な問題について、相談機関や医療機関の利用状況を教えてください。(○はあてはまるものすべて)

【図表9-20 二次的な問題に関する相談機関や医療機関の利用状況】



発達障がい以外の二次的な情緒や行動等の問題を抱えたことがある人に、相談機関や医療機関の利用状況をたずねると、「現在、医療機関を利用している」(64.2%)が最も多く、次いで「現在、相談機関を利用している」(45.5%)となっている。

年齢別にみても大きな違いは見られない。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳(知的障がい)がある人はない人に比べて「現在、相談機関を利用している」(63.0%)の割合が高く、6割強を占めている。

【図表9-21 年齢別、療育手帳の有無別

二次的な問題に関する相談機関や医療機関の利用状況】(%)

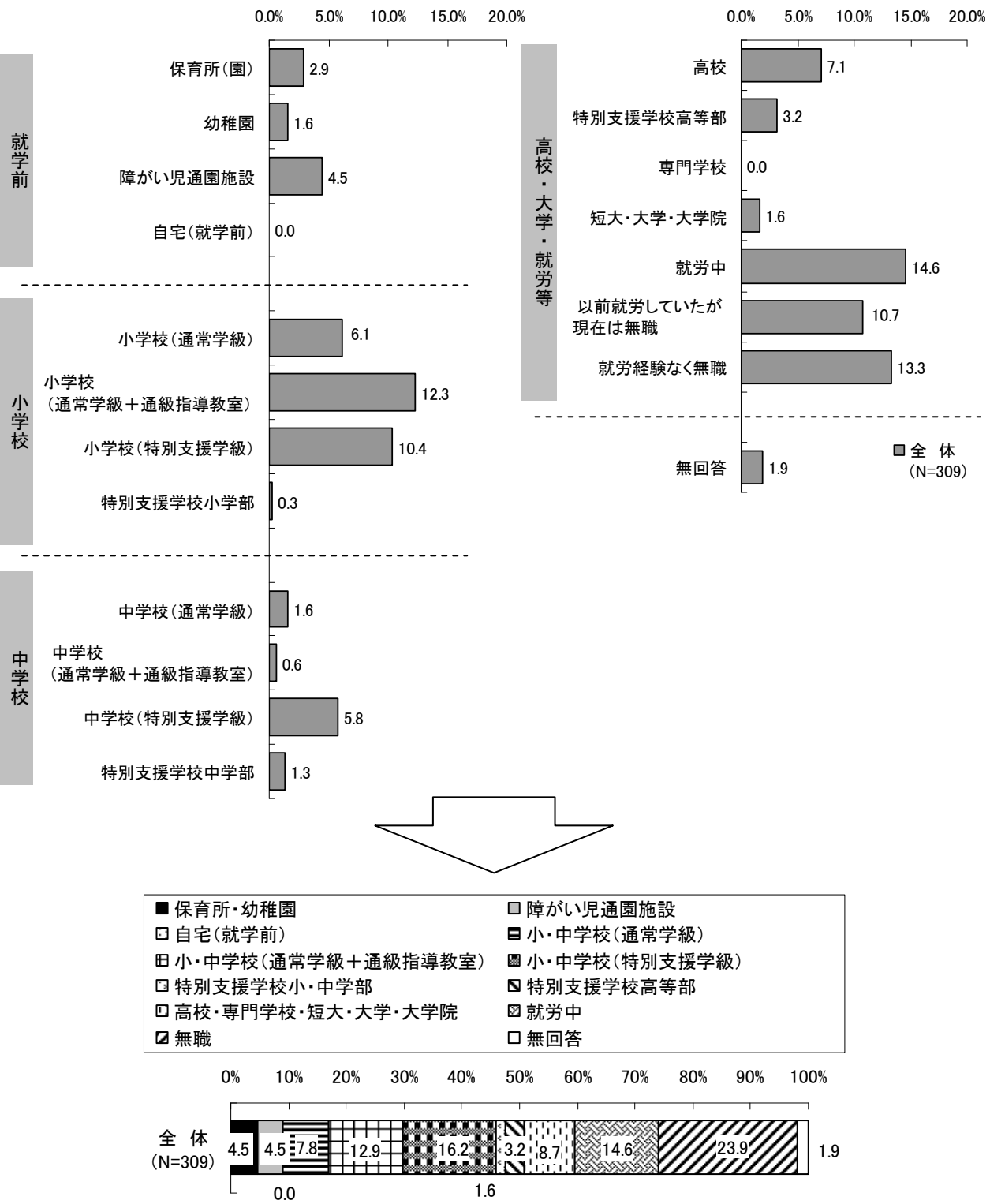
		調査数 (人)	二次的な問題に関する相談機関や医療機関の利用状況					
			を現在 利用、 し医療 機関 利用	を現在 利用、 し相談 機関 利用	を過去 利用、 し相談 機関 利用	を過去 利用、 し医療 機関 利用	この機 関と相 談は機 関を利 用し医 療	無 回 答
全 体		176	64.2	45.5	14.2	11.4	2.8	2.8
年 齢	0～5歳	5	20.0	80.0	-	-	-	-
	6～8歳	13	53.8	46.2	23.1	-	7.7	7.7
	9～11歳	17	64.7	47.1	29.4	11.8	5.9	-
	12～14歳	16	62.5	62.5	6.3	6.3	6.3	-
	15～17歳	20	75.0	60.0	5.0	10.0	-	-
	18～29歳	60	65.0	41.7	18.3	13.3	-	3.3
	30歳代	31	64.5	32.3	9.7	19.4	3.2	3.2
	40歳代	13	69.2	30.8	7.7	7.7	7.7	7.7
無回答		1	100.0	100.0	-	-	-	-
全 体		176	64.2	45.5	14.2	11.4	2.8	2.8
療育手帳の有無	療育手帳あり	46	63.0	63.0	8.7	8.7	-	2.2
	療育手帳なし	125	63.2	40.0	16.8	12.8	4.0	3.2
	無回答	5	100.0	20.0	-	-	-	-

3. 生活状況について

(1) 通園・通学・就労等の状況

問8 あなたの所属を教えてください。(○は1つだけ)

【図表9-22 通園・通学・就労等の状況】



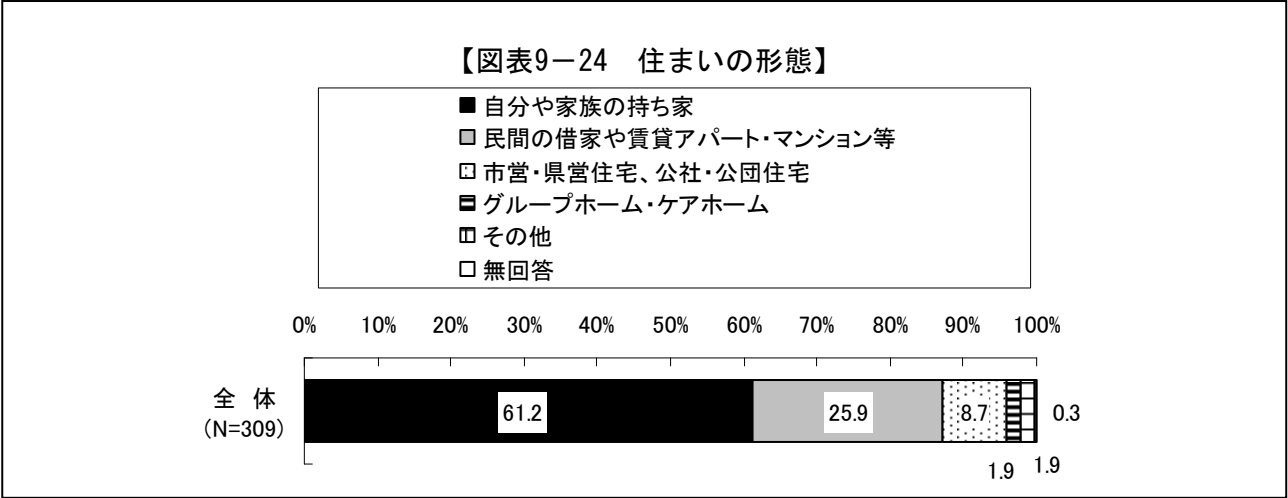
通園・通学・就労等の状況を集約すると「無職」(23.9%)が最も多く、次いで「小・中学校(特別支援学級)」(16.2%)、「就労中」(14.6%)、「小・中学校(通常学級+通級指導教室)」(12.9%)となっている。

通園・通学・就労等の状況と発達障がいの診断の関係をみると、小・中学校（通常学級＋通級指導教室）や小・中学校（特別支援学級）では「発達障がいの重複」の割合が半数弱、障がい児通園施設では「広汎性発達障がい」（57.1％）の割合が6割弱と、それぞれ他に比べて高くなっている。また、小・中学校（通常学級）と無職の人では「アスペルガー症候群のみ」の割合が2割を超えて高くなっている。

【図表9－23 通園・通学・就労等の状況別 発達障がいの診断有無と診断区分】（％）

		調査数（人）	発達障がい診断の有無と診断区分									診断を受けていない	無回答
			診断を受けている										
				注意欠陥多動性障がい（ADHD）のみ	学習障がい（LD）のみ	アスペルガー症候群のみ	自閉症のみ	広汎性発達障がいのみ	知的障がいのみ	発達障がいの重複			
全 体		309	93.2	3.6	0.6	12.6	11.7	25.6	2.9	36.2	6.8	-	
通園・通学・就労等の状況	保育所・幼稚園	14	100.0	14.3	-	-	-	42.9	14.3	28.6	-	-	
	障がい児通園施設	14	100.0	-	-	-	7.1	57.1	-	35.7	-	-	
	自宅(就学前)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	小・中学校(通常学級)	24	95.8	-	4.2	25.0	12.5	16.7	-	37.5	4.2	-	
	小・中学校(通常学級+通級指導教室)	40	82.5	7.5	2.5	7.5	-	10.0	7.5	47.5	17.5	-	
	小・中学校(特別支援学級)	50	98.0	-	-	2.0	10.0	36.0	2.0	48.0	2.0	-	
	特別支援学校小・中学部	5	100.0	-	-	-	40.0	20.0	-	40.0	-	-	
	特別支援学校高等部	10	100.0	-	-	-	50.0	10.0	-	40.0	-	-	
	高校・専門学校・短大・大学・大学院	27	100.0	7.4	-	14.8	11.1	25.9	3.7	37.0	-	-	
	就労中	45	88.9	2.2	-	15.6	11.1	26.7	4.4	28.9	11.1	-	
無職	74	90.5	2.7	-	24.3	12.2	21.6	-	29.7	9.5	-		
無回答	6	100.0	16.7	-	-	50.0	33.3	-	-	-	-		

(2) 住まいの形態



「自分や家族の持ち家」(61.2%)に住んでいる人が6割強で最も多く、次いで「民間の借家や賃貸アパート・マンション等」(25.9%)、「市営・県営住宅、公社・公団住宅」(8.7%)となっている。

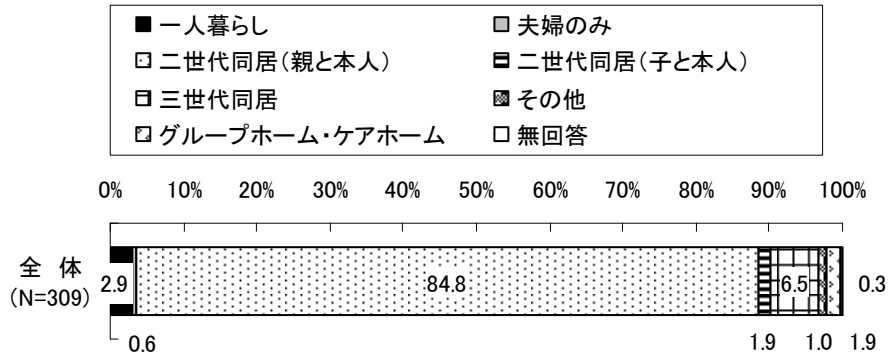
年齢別にみると、0～5歳や9～11歳、15～17歳では「民間の借家や賃貸アパート・マンション等」の割合が3割を超えて高い。

【図表9-25 年齢別 住まいの形態】(%)

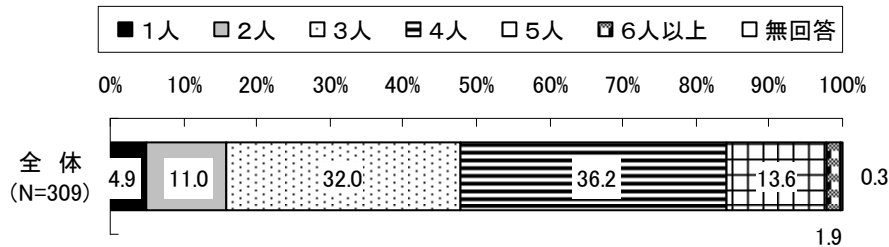
		調査数 (人)	住まいの形態					無回答
			自分や家族の持ち家	民間の借家や賃貸アパート・マンション等	市営・県営住宅、公社・公団住宅	グループホーム・ケアホーム	その他	
全 体		309	61.2	25.9	8.7	1.9	1.9	0.3
年 齢	0～5歳	24	45.8	37.5	12.5	—	4.2	—
	6～8歳	48	54.2	27.1	14.6	—	4.2	—
	9～11歳	39	53.8	38.5	7.7	—	—	—
	12～14歳	31	67.7	19.4	12.9	—	—	—
	15～17歳	25	56.0	32.0	12.0	—	—	—
	18～29歳	83	68.7	21.7	4.8	2.4	1.2	1.2
	30歳代	42	64.3	23.8	4.8	4.8	2.4	—
	40歳代	15	66.7	6.7	6.7	13.3	6.7	—
無回答		2	100.0	—	—	—	—	—

(3) 同居家族の状況

【図表9-26 世帯の状況】



【図表9-27 本人を含む同居家族の人数】



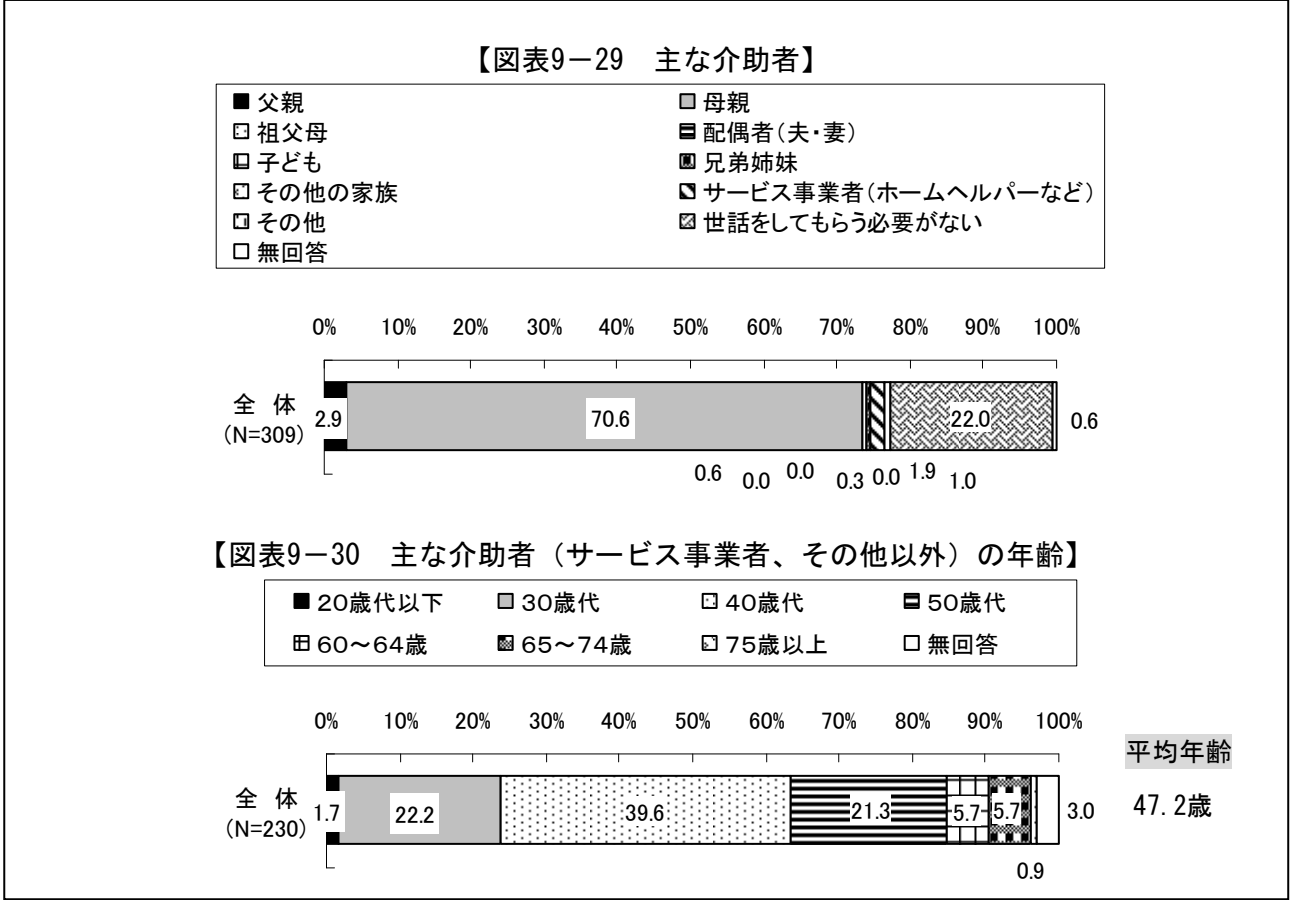
同居家族の続柄から世帯の状況を集約したところ、「二世帯同居（親と本人）」（84.8%）が8割を超えて最も多くなっている。また、家族人数は、「4人」（36.2%）が最も多く、次いで「3人」（32.0%）となっている。

世帯の状況を年齢別にみると、18歳以上でも過半数が親との二世帯同居世帯である。

【図表9-28 年齢別 世帯の状況】 (%)

		調 査 数 （ 人 ）	世帯の状況							
			一人暮らし	夫婦のみ	二世帯同居（親と本人）	二世帯同居（子と本人）	三世帯同居	その他	グループホーム・ケアホーム	無回答
全 体		309	2.9	0.6	84.8	1.9	6.5	1.0	1.9	0.3
年 齢	0～5歳	24	－	－	91.7	－	4.2	4.2	－	－
	6～8歳	48	－	－	89.6	－	8.3	－	－	2.1
	9～11歳	39	－	－	89.7	－	10.3	－	－	－
	12～14歳	31	－	－	93.5	－	6.5	－	－	－
	15～17歳	25	－	－	96.0	－	4.0	－	－	－
	18～29歳	83	2.4	2.4	86.7	－	3.6	2.4	2.4	－
	30歳代	42	14.3	－	64.3	7.1	9.5	－	4.8	－
	40歳代	15	6.7	－	53.3	20.0	6.7	－	13.3	－
	無回答	2	－	－	100.0	－	－	－	－	－

(4) 主な介助者の状況



介助者は「母親」(70.6%) が7割と最も多く、次いで「世話をしてもらう必要がない」(22.0%) となっている。

また、主な介助者の平均年齢は47.2歳で、「40歳代」(39.6%) が4割を占めて最も多く、次いで「30歳代」(22.2%)、「50歳代」(21.3%) がそれぞれ2割台で続いている。

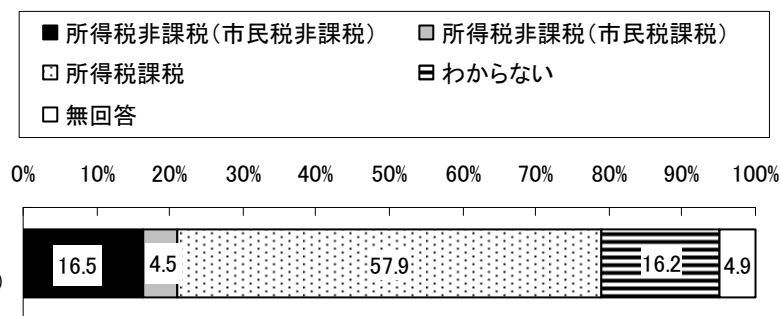
障がい者本人の年齢別にみると、「母親」の割合は年齢が低いほど高く、0～5歳では9割弱(87.5%)を占めている。また、18歳以上では「世話をしてもらう必要がない」の割合が3割を超えている。

【図表9-31 年齢別 主な介助者】(%)

		調査数（人）	主な介助者										
			父親	母親	祖父母	配偶者（夫・妻）	子ども	兄弟姉妹	その他の家族	サービス事業者（ホームヘルパーなど）	その他	世話をしてもらう必要がない	無回答
全 体		309	2.9	70.6	0.6	－	－	0.3	－	1.9	1.0	22.0	0.6
年 齢	0～5歳	24	8.3	87.5	4.2	－	－	－	－	－	－	－	－
	6～8歳	48	2.1	77.1	－	－	－	－	－	－	2.1	18.8	－
	9～11歳	39	－	92.3	－	－	－	－	－	－	－	7.7	－
	12～14歳	31	－	93.5	－	－	－	－	－	－	－	6.5	－
	15～17歳	25	－	84.0	－	－	－	－	－	－	－	16.0	－
	18～29歳	83	2.4	59.0	1.2	－	－	－	－	2.4	1.2	32.5	1.2
	30歳代	42	4.8	42.9	－	－	－	2.4	－	7.1	2.4	38.1	2.4
	40歳代	15	13.3	33.3	－	－	－	－	－	6.7	－	46.7	－
無回答		2	－	100.0	－	－	－	－	－	－	－	－	

(5) 世帯の課税状況

【図表9-32 世帯の課税状況】



「所得税課税」(57.9%)が最も多い。また、「所得税非課税(市民税非課税)」が16.5%、「所得税非課税(市民税課税)」が4.5%であり、これらをあわせると所得税非課税世帯が2割強(21.0%)となっている。

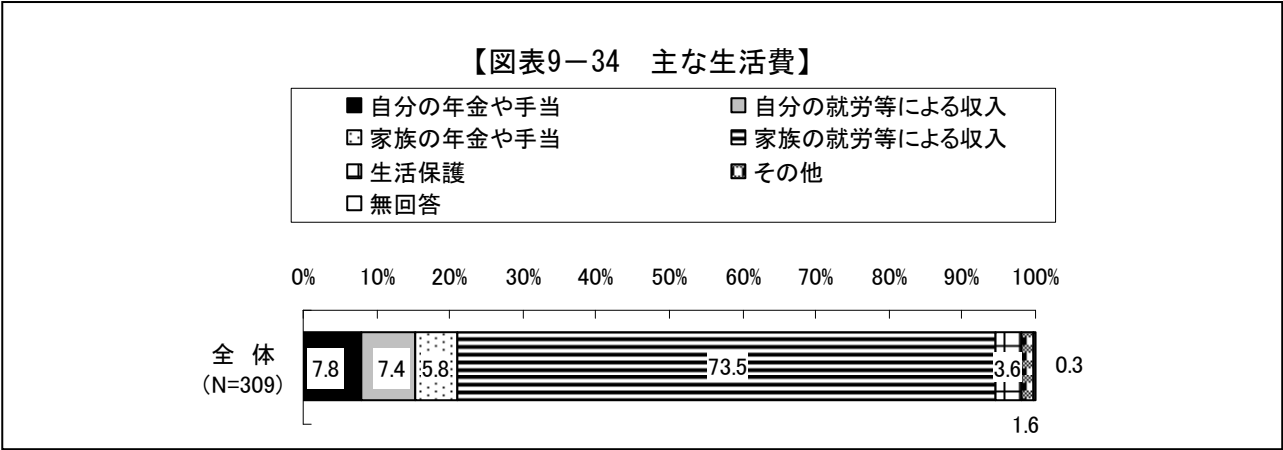
年齢別にみると、15～17歳では他に比べて「所得税課税」(76.0%)の割合が7割を超えて高くなっている。

世帯状況別にみると、一人暮らしの人では「所得税非課税(市民税非課税)」(66.7%)の割合が7割弱と高くなっている。

【図表9-33 年齢別、世帯状況別 世帯の課税状況】(%)

		調査数 (人)	世帯の課税状況				
			民 所 得 税 非 課 税 (市 民 税 非 課 税)	民 所 得 税 非 課 税 (市 民 税 課 税)	所 得 税 課 税	わ か ら な い	無 回 答
全 体		309	16.5	4.5	57.9	16.2	4.9
年 齢	0～5歳	24	8.3	—	66.7	16.7	8.3
	6～8歳	48	16.7	2.1	60.4	12.5	8.3
	9～11歳	39	20.5	2.6	59.0	15.4	2.6
	12～14歳	31	19.4	—	67.7	12.9	—
	15～17歳	25	4.0	—	76.0	12.0	8.0
	18～29歳	83	16.9	6.0	50.6	21.7	4.8
	30歳代	42	21.4	7.1	50.0	16.7	4.8
	40歳代	15	20.0	26.7	40.0	13.3	—
	無回答	2	—	—	100.0	—	—
全 体		309	16.5	4.5	57.9	16.2	4.9
世 帯 状 況	一人暮らし	9	66.7	11.1	—	22.2	—
	夫婦のみ	2	—	—	50.0	50.0	—
	二世帯同居(親と本人)	262	15.3	3.8	62.2	13.7	5.0
	二世帯同居(子と本人)	6	16.7	—	50.0	33.3	—
	三世帯同居	20	15.0	5.0	50.0	25.0	5.0
	その他	3	—	—	66.7	33.3	—
	グループホーム・ケアホーム	6	16.7	33.3	—	33.3	16.7
	無回答	1	—	—	—	100.0	—

(6) 主な生活費



「家族の就労等による収入」(73.5%)が7割を超えて最も多くなっている。
年齢別にみると、18歳以上では「自分の年金や手当」や「自分の就労等による収入」がそれぞれ1～2割台を占めている。

【図表9-35 年齢別 主な生活費】(%)

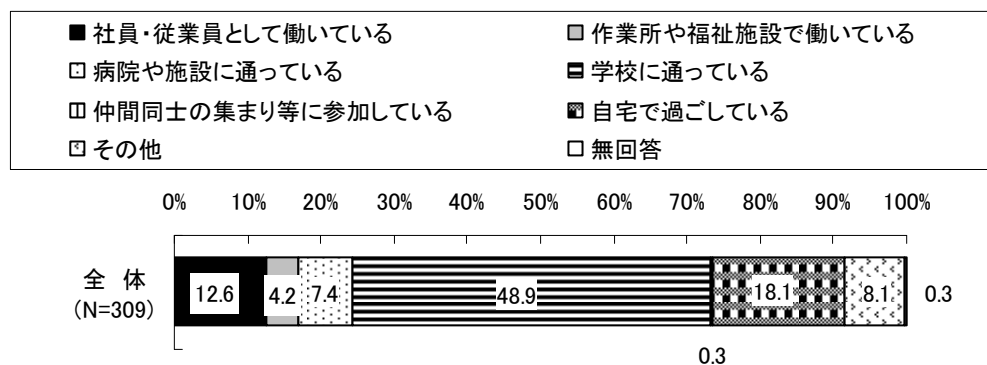
		調査数 (人)	主な生活費						
			自分の 年金や 手当	自 分の 就 労 等 に よ る 収 入	家 族 の 年 金 や 手 当	自 分の 就 労 等 に よ る 収 入	家 族 の 就 労 等 に よ る 収 入	生 活 保 護	そ の 他
全 体		309	7.8	7.4	5.8	73.5	3.6	1.6	0.3
年 齢	0～5歳	24	—	—	4.2	87.5	8.3	—	—
	6～8歳	48	2.1	—	—	91.7	2.1	2.1	2.1
	9～11歳	39	2.6	—	—	92.3	2.6	2.6	—
	12～14歳	31	3.2	—	3.2	87.1	6.5	—	—
	15～17歳	25	—	—	—	96.0	4.0	—	—
	18～29歳	83	12.0	15.7	2.4	66.3	2.4	1.2	—
	30歳代	42	21.4	14.3	19.0	38.1	2.4	4.8	—
	40歳代	15	13.3	26.7	40.0	13.3	6.7	—	—
無回答		2	—	—	—	100.0	—	—	—

4. 日中の過ごし方や外出の状況等について

(1) 主な日中の過ごし方

問14 あなたは、日中、主に何をして過ごしていますか。(○は1つだけ)

【図表9-36 主な日中の過ごし方】



全体では「学校に通っている」(48.9%)が半数弱を占めて最も多く、次いで「自宅で過ごしている」(18.1%)となっている。

年齢別にみると、18歳以上では「自宅で過ごしている」が3割を超えて最も多いほか、「社員・従業員として働いている」人も2～3割となっている。また、6～17歳では「学校に通っている」人の割合が8割を超えて高くなっている。

発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの方は他に比べて「自宅で過ごしている」(41.0%)の割合が高く、自閉症のみの方は「病院や施設に通っている」(16.7%)や「作業所や福祉施設で働いている」(13.9%)の割合が他に比べて高くなっている。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、現在、二次的な問題がある人はない人に比べて「自宅で過ごしている」(32.0%)の割合が顕著に高く、3割を超えている。

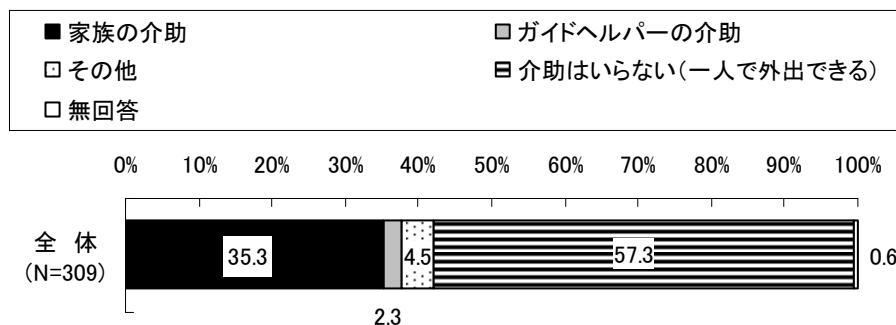
【図表9-37 年齢別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
主な日中の過ごし方】(%)

		調査数 (人)	主な日中の過ごし方							
			社員・従業員として働いている	作業所や福祉施設で働いている	病院や施設に通っている	学校に通っている	仲間同士の集まり等に 参加している	自宅で過ごしている	その他	無回答
全 体		309	12.6	4.2	7.4	48.9	0.3	18.1	8.1	0.3
年 齢	0～5歳	24	—	—	29.2	25.0	—	—	45.8	—
	6～8歳	48	—	—	—	97.9	—	—	2.1	—
	9～11歳	39	—	—	—	92.3	—	7.7	—	—
	12～14歳	31	—	—	—	90.3	—	9.7	—	—
	15～17歳	25	—	—	—	80.0	—	16.0	4.0	—
	18～29歳	83	30.1	9.6	10.8	12.0	1.2	30.1	4.8	1.2
	30歳代	42	26.2	7.1	11.9	7.1	—	35.7	11.9	—
	40歳代	15	20.0	13.3	13.3	—	—	40.0	13.3	—
	無回答	2	—	—	—	50.0	—	—	50.0	—
全 体		309	12.6	4.2	7.4	48.9	0.3	18.1	8.1	0.3
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	11.8	4.5	7.6	49.3	0.3	17.7	8.3	0.3
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	9.1	—	—	45.5	—	27.3	9.1	9.1
	学習障がい(LD)のみ	2	—	—	—	100.0	—	—	—	—
	アスペルガー症候群のみ	39	17.9	2.6	2.6	28.2	2.6	41.0	5.1	—
	自閉症のみ	36	11.1	13.9	16.7	52.8	—	—	5.6	—
	広汎性発達障がいのみ	79	12.7	5.1	8.9	45.6	—	16.5	11.4	—
	知的障がいのみ	9	22.2	—	—	77.8	—	—	—	—
	発達障がいの重複	112	8.9	2.7	7.1	55.4	—	17.0	8.9	—
	診断は受けていない	21	23.8	—	4.8	42.9	—	23.8	4.8	—
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—
全 体		309	12.6	4.2	7.4	48.9	0.3	18.1	8.1	0.3
二 次 的 情 緒 や 行 動 等 の 問 題 有 無	二次的な問題あり	122	9.8	8.2	7.4	32.0	0.8	32.0	9.8	—
	過去に二次的な問題あり	54	20.4	1.9	9.3	50.0	—	11.1	7.4	—
	二次的な問題なし	124	12.1	1.6	7.3	65.3	—	5.6	7.3	0.8
	無回答	9	11.1	—	—	44.4	—	44.4	—	—

(2) 外出時に必要な介助

問15 あなたが外出するときに必要な介助はどれですか。(○は1つだけ)

【図表9-38 外出時に必要な介助】



「介助はいらない」(57.3%)が6割弱と最も多く、次いで「家族の介助」(35.3%)となっている。年齢別にみると、8歳以下では「家族の介助」を必要とする人の割合が他の年代に比べて高い。

発達障がいの診断別にみると、「家族の介助」の割合は、自閉症のみの人(44.4%)や発達障がいの重複者(42.0%)で他に比べて高く、4割を超えている。

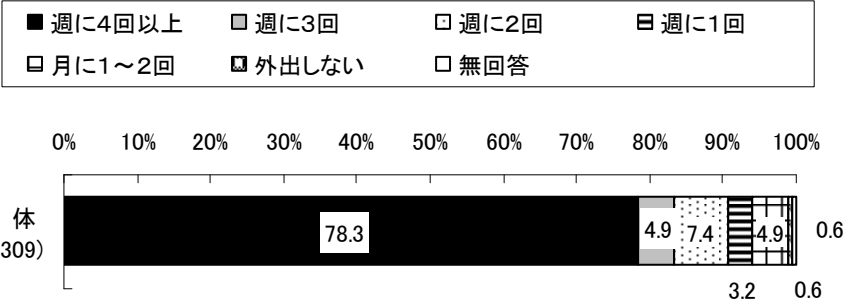
【図表9-39 年齢別、発達障がいの診断別 外出時に必要な介助】(%)

		調査数 (人)	外出時に必要な介助				
			家族の 介助	のガイ ドヘル パー	その他	きへ介 助人は でい外 ら出な でい	無回 答
全 体		309	35.3	2.3	4.5	57.3	0.6
年 齢	0～5歳	24	95.8	-	-	-	4.2
	6～8歳	48	58.3	-	2.1	37.5	2.1
	9～11歳	39	23.1	-	5.1	71.8	-
	12～14歳	31	45.2	-	9.7	45.2	-
	15～17歳	25	32.0	8.0	-	60.0	-
	18～29歳	83	22.9	4.8	4.8	67.5	-
	30歳代	42	11.9	2.4	4.8	81.0	-
	40歳代	15	13.3	-	6.7	80.0	-
無回答		2	50.0	-	50.0	-	-
全 体		309	35.3	2.3	4.5	57.3	0.6
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	37.2	2.4	4.9	54.9	0.7
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	9.1	-	-	81.8	9.1
	学習障がい(LD)のみ	2	-	-	-	100.0	-
	アスペルガー症候群のみ	39	25.6	-	-	74.4	-
	自閉症のみ	36	44.4	11.1	8.3	36.1	-
	広汎性発達障がいのみ	79	38.0	1.3	3.8	57.0	-
	知的障がいのみ	9	33.3	-	11.1	44.4	11.1
	発達障がいの重複	112	42.0	1.8	6.3	50.0	-
	診断を受けていない	21	9.5	-	-	90.5	-
無回答		-	-	-	-	-	-

(3) 外出の頻度

問16 あなたは、通勤や通学、通所、買い物、通院、レジャーなどの外出を1ヶ月にどのくらいしていますか。付き添い者と一緒に外出する場合も含めてお答えください。
(○は1つだけ)

【図表9-40 外出の頻度】



「週に4回以上」(78.3%)が8割弱を占めて最も多く、その他はいずれも1割未満となっている。

年齢別にみると、年齢が高くなるほど、「週に4回以上」の高頻度層の割合が低下し、外出頻度が低下する傾向にある。

発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの人では他に比べて「週に4回以上」(64.1%)の割合が低い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「週に4回以上」(68.0%)の高頻度層の割合が低く7割弱に留まり、その他の外出頻度が低い層の割合が高くなっている。

【図表9-41 年齢別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
外出の頻度】(%)

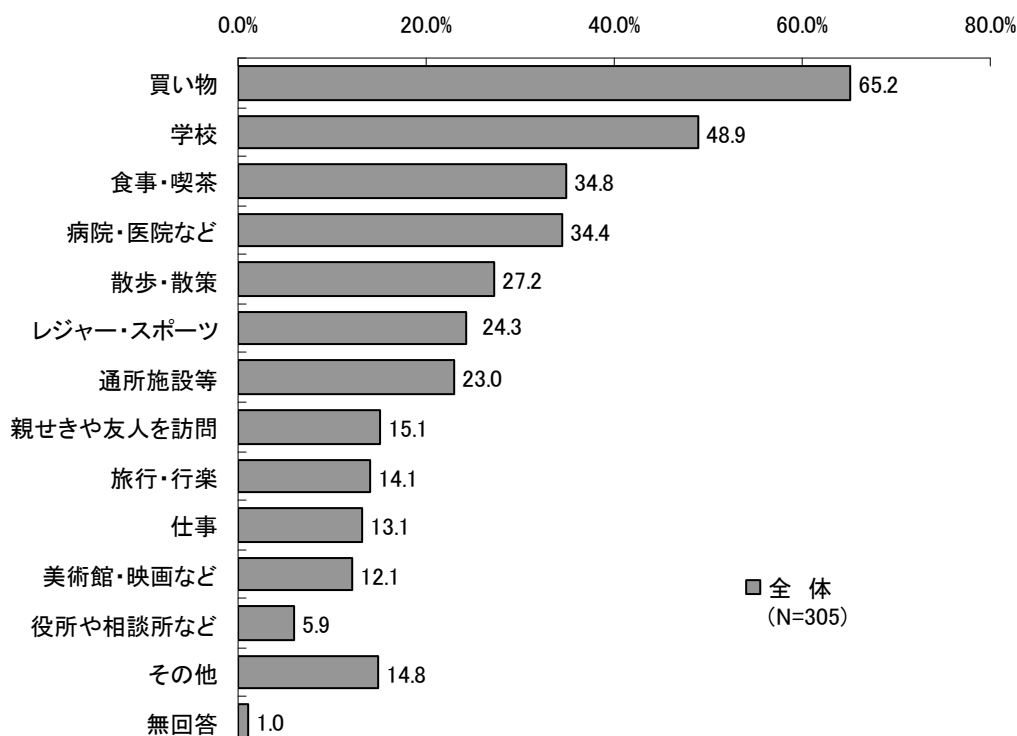
		調査数 (人)	外出の頻度						
			週に4回以上	週に3回	週に2回	週に1回	月に1~2回	外出しない	無回答
全 体		309	78.3	4.9	7.4	3.2	4.9	0.6	0.6
年 齢	0~5歳	24	95.8	-	-	4.2	-	-	-
	6~8歳	48	97.9	2.1	-	-	-	-	-
	9~11歳	39	87.2	2.6	7.7	2.6	-	-	-
	12~14歳	31	83.9	-	12.9	3.2	-	-	-
	15~17歳	25	84.0	-	4.0	4.0	8.0	-	-
	18~29歳	83	66.3	8.4	10.8	2.4	9.6	1.2	1.2
	30歳代	42	66.7	4.8	11.9	4.8	9.5	-	2.4
	40歳代	15	46.7	20.0	6.7	13.3	6.7	6.7	-
	無回答	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-
全 体		309	78.3	4.9	7.4	3.2	4.9	0.6	0.6
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	78.8	4.5	7.3	3.1	4.9	0.7	0.7
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	72.7	9.1	-	9.1	9.1	-	-
	学習障がい(LD)のみ	2	100.0	-	-	-	-	-	-
	アスペルガー症候群のみ	39	64.1	5.1	10.3	5.1	10.3	2.6	2.6
	自閉症のみ	36	83.3	2.8	5.6	-	8.3	-	-
	広汎性発達障がいのみ	79	77.2	6.3	8.9	2.5	3.8	-	1.3
	知的障がいのみ	9	100.0	-	-	-	-	-	-
	発達障がいの重複	112	82.1	3.6	7.1	3.6	2.7	0.9	-
	診断は受けていない	21	71.4	9.5	9.5	4.8	4.8	-	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体		309	78.3	4.9	7.4	3.2	4.9	0.6	0.6
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題 の 有 無	二次的な問題あり	122	68.0	4.9	10.7	4.9	9.0	1.6	0.8
	過去に二次的な問題あり	54	81.5	5.6	9.3	-	3.7	-	-
	二次的な問題なし	124	88.7	4.8	4.0	1.6	-	-	0.8
	無回答	9	55.6	-	-	22.2	22.2	-	-

(4) 主な外出先

[問16で「1」～「5」を選ばれた方におたずねします]

問16-1 どのようなところに外出することが多いですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-42 主な外出先】



月に1回以上外出する人に主な外出先をたずねたところ、「買い物」(65.2%)が最も多く、次いで「学校」(48.9%)、「食事・喫茶」(34.8%)、「病院・医院など」(34.4%)、「散歩・散策」(27.2%)、「レジャー・スポーツ」(24.3%)となっている。

年齢別にみると、18歳～40歳代では、「仕事」や「通所施設等」が他の年代に比べて高い。また、「通所施設等」の割合については0～5歳でも66.7%と高くなっている。

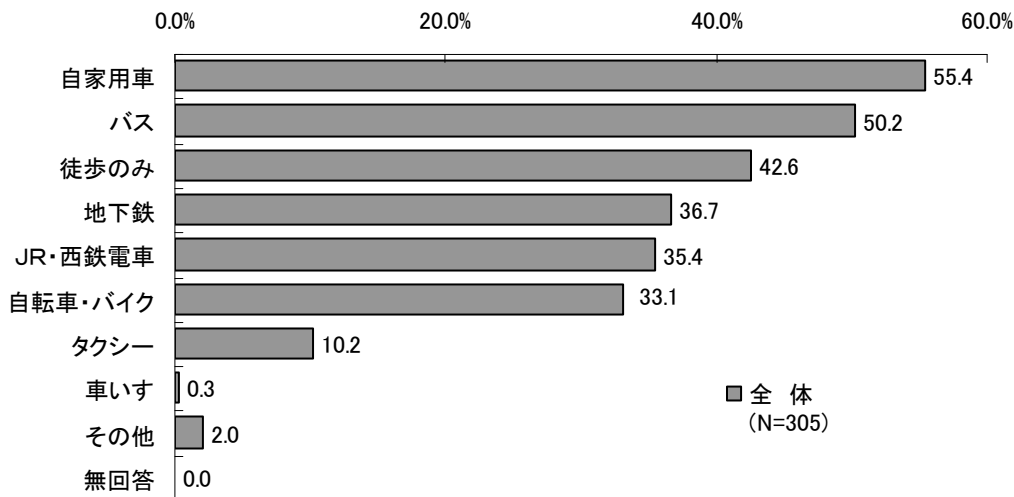
【図表9-43 年齢別 主な外出先】(%)

		調査数（人）	主な外出先													
			買い物	学校	食事・喫茶	病院・医院など	散歩・散策	レジャー・スポーツ	通所施設等	親せきや友人を訪問	旅行・行楽	仕事	美術館・映画など	役所や相談所など	その他	無回答
全 体		305	65.2	48.9	34.8	34.4	27.2	24.3	23.0	15.1	14.1	13.1	12.1	5.9	14.8	1.0
年 齢	0～5歳	24	70.8	25.0	41.7	16.7	29.2	37.5	66.7	20.8	20.8	－	－	4.2	20.8	－
	6～8歳	48	58.3	97.9	39.6	20.8	22.9	37.5	8.3	20.8	27.1	－	10.4	－	10.4	－
	9～11歳	39	48.7	87.2	35.9	25.6	15.4	23.1	10.3	23.1	17.9	－	10.3	－	12.8	－
	12～14歳	31	61.3	87.1	19.4	25.8	25.8	29.0	6.5	16.1	16.1	－	9.7	3.2	16.1	－
	15～17歳	25	64.0	92.0	28.0	48.0	20.0	16.0	－	20.0	16.0	－	12.0	4.0	8.0	－
	18～29歳	81	74.1	11.1	38.3	42.0	34.6	18.5	33.3	11.1	4.9	34.6	16.0	11.1	17.3	－
	30歳代	41	65.9	4.9	26.8	43.9	39.0	14.6	29.3	7.3	9.8	24.4	12.2	9.8	17.1	2.4
	40歳代	14	78.6	－	42.9	57.1	14.3	28.6	35.7	－	7.1	14.3	28.6	14.3	7.1	14.3
	無回答	2	100.0	50.0	100.0	50.0	－	－	－	－	－	－	－	－	50.0	－

(5) 外出時の移動手段

[問16で「1」～「5」を選ばれた方におたずねします]
問16-2 どのような方法で、あるいはどのような移動手段を使って外出しますか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表9-44 外出時の移動手段】



月に1回以上外出する人に外出時の移動手段をたずねたところ、「自家用車」(55.4%)と「バス」(50.2%)が過半数であり、「徒歩のみ」(42.6%)が4割強で続いている。

年齢別にみると、15～29歳と40歳代では他の年代に比べて「バス」の割合が高く、6割前後の人が利用している。また、年齢が低いほど「自家用車」の割合が高く、0～5歳では9割弱(87.5%)となっている。

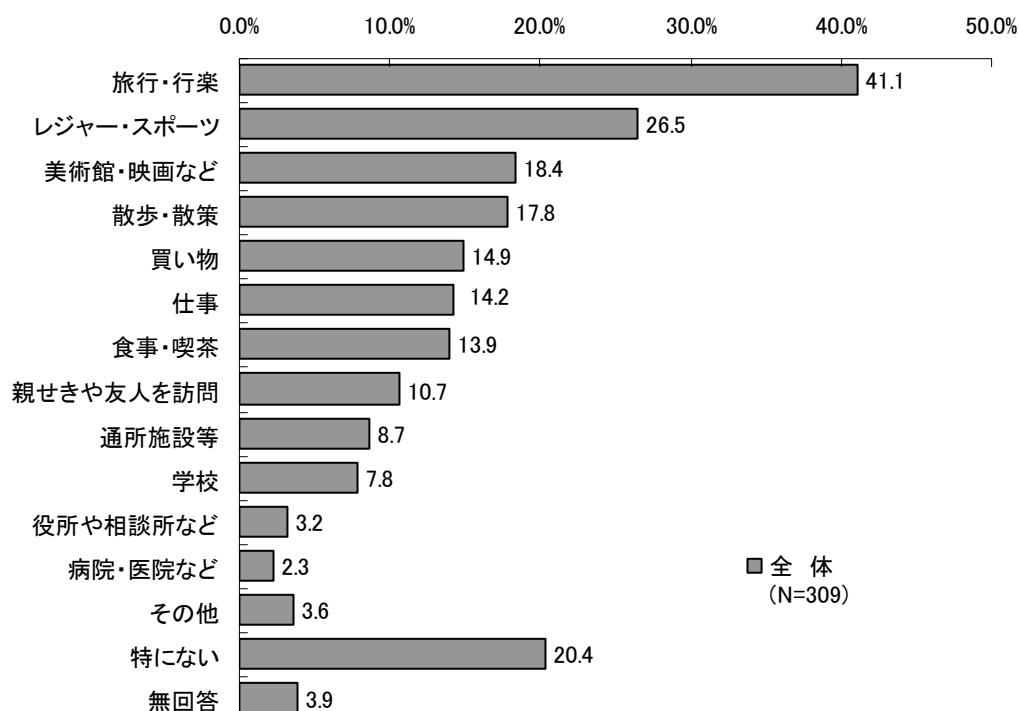
【図表9-45 年齢別 外出時の移動手段】(%)

		調査数(人)	外出時の移動手段									
			自家用車	バス	徒歩のみ	地下鉄	JR・西鉄電車	自転車・バイク	タクシー	車いす	その他	無回答
全体		305	55.4	50.2	42.6	36.7	35.4	33.1	10.2	0.3	2.0	-
年齢	0～5歳	24	87.5	41.7	29.2	16.7	12.5	20.8	-	-	4.2	-
	6～8歳	48	70.8	47.9	60.4	31.3	35.4	20.8	22.9	-	-	-
	9～11歳	39	64.1	33.3	56.4	25.6	15.4	35.9	-	-	2.6	-
	12～14歳	31	67.7	48.4	51.6	32.3	32.3	29.0	12.9	-	-	-
	15～17歳	25	60.0	60.0	32.0	40.0	44.0	24.0	12.0	-	4.0	-
	18～29歳	81	42.0	60.5	34.6	44.4	44.4	39.5	11.1	1.2	2.5	-
	30歳代	41	26.8	43.9	36.6	46.3	41.5	48.8	-	-	2.4	-
	40歳代	14	42.9	57.1	35.7	50.0	50.0	28.6	21.4	-	-	-
	無回答	2	100.0	100.0	-	50.0	50.0	50.0	50.0	-	-	-

(6) 外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ

問17 あなたが、今後、外出の回数を増やしたいところや、新たに外出したいところはどのようなところですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-46 外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ】



外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところとしては、「旅行・行楽」(41.1%)が最も多く、次いで「レジャー・スポーツ」(26.5%)、「美術館・映画など」(18.4%)、「散歩・散策」(17.8%)となっている。

年齢別にみると、0～5歳では、「散歩・散策」(33.3%)、9～11歳では「親せきや友人を訪問」(23.1%)、12～14歳では「美術館・映画など」(35.5%)と「学校」(22.6%)、18～29歳と30歳代では「仕事」(18～29歳：28.9%、30歳代：26.2%)がそれぞれ他に比べて高くなっている。

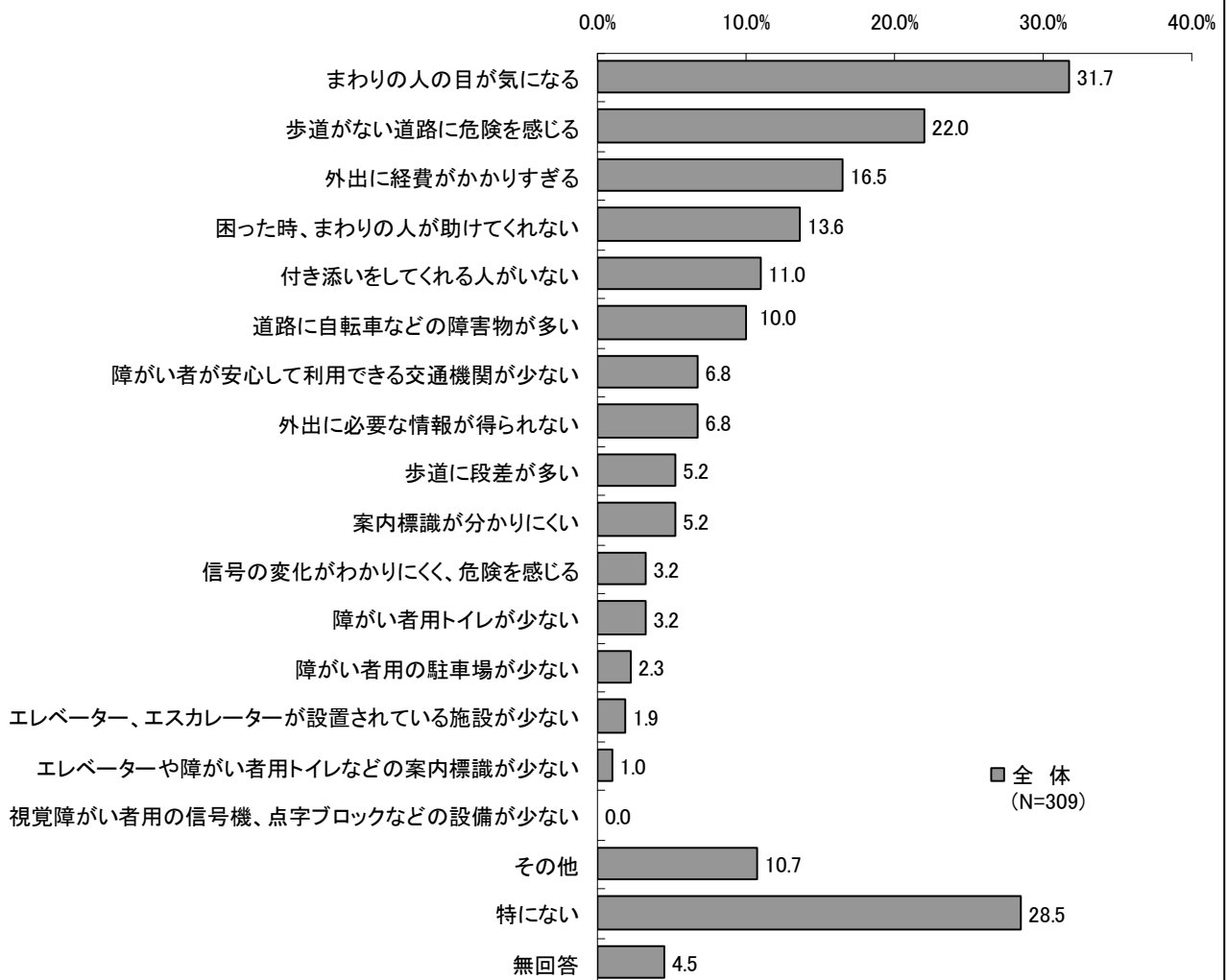
【図表9-47 年齢別 外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ】(%)

		調 査 数 （人）	外出の回数を増やしたいところ・新たに外出したいところ														
			旅行・行楽	ツレジャー・スポー	美術館・映画など	散歩・散策	買い物	仕事	食事・喫茶	問親せきや友人を訪	通所施設等	学校	役所や相談所など	病院・医院など	その他	特にない	無回答
全 体		309	41.1	26.5	18.4	17.8	14.9	14.2	13.9	10.7	8.7	7.8	3.2	2.3	3.6	20.4	3.9
年 齢	0～5歳	24	45.8	37.5	20.8	33.3	20.8	4.2	16.7	4.2	8.3	4.2	－	8.3	－	29.2	－
	6～8歳	48	27.1	25.0	10.4	10.4	10.4	2.1	6.3	12.5	6.3	6.3	－	－	2.1	31.3	8.3
	9～11歳	39	38.5	33.3	12.8	15.4	12.8	2.6	17.9	23.1	－	12.8	－	2.6	－	33.3	2.6
	12～14歳	31	41.9	35.5	35.5	19.4	9.7	3.2	12.9	9.7	6.5	22.6	6.5	－	3.2	12.9	3.2
	15～17歳	25	48.0	32.0	24.0	24.0	24.0	12.0	16.0	8.0	12.0	12.0	－	4.0	8.0	8.0	－
	18～29歳	83	44.6	25.3	16.9	20.5	16.9	28.9	13.3	8.4	12.0	4.8	2.4	1.2	3.6	14.5	3.6
	30歳代	42	45.2	16.7	19.0	9.5	11.9	26.2	21.4	9.5	11.9	2.4	9.5	－	4.8	21.4	2.4
	40歳代	15	40.0	－	13.3	20.0	20.0	13.3	6.7	－	13.3	－	13.3	13.3	13.3	－	13.3
無回答	2	50.0	50.0	50.0	－	－	－	－	50.0	－	－	－	－	－	50.0	－	

(7) 外出時に不便や困難を感じること

問18 あなたは、外出する時、どのようなことに不便や困難を感じますか。(〇は5つまで)

【図表9-48 外出時に不便や困難を感じること】



「まわりの人の目が気になる」(31.7%)が3割強を占めて最も多く、次いで「歩道がない道路に危険を感じる」(22.0%)、「外出に経費がかかりすぎる」(16.5%)、「困った時、まわりの人が助けてくれない」(13.6%)となっている。また、「特にない」(28.5%)は3割弱である。

年齢別にみると、12～14歳では他の年代に比べて「まわりの人の目が気になる」(51.6%)の割合が高い。また、「まわりの人の目が気になる」と「外出に経費がかかりすぎる」の割合は、11歳以下に比べて12歳以上で高まる傾向がある。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「まわりの人の目が気になる」(45.1%)や「外出に経費がかかりすぎる」(24.6%)、「困った時、まわりの人が助けてくれない」(18.0%)等の割合が高い。

【図表9-49 年齢別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別

外出時に不便や困難を感じること】(%)

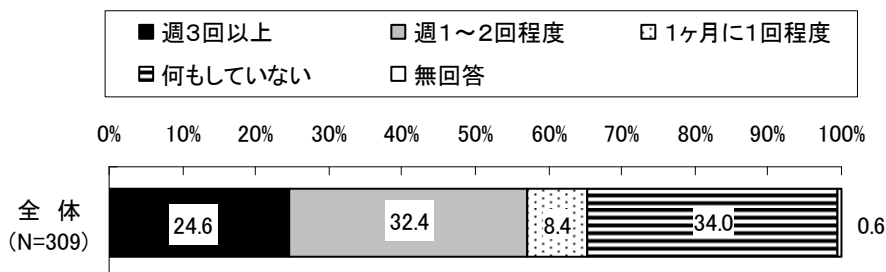
		調査数（人）	外出時に不便や困難を感じること									
			るまわりの人の目が気にな	感じる歩道がない道路に危険を	る外出に経費がかかりすぎ	困った時、まわりの人が助けてくれない	付き添いをしてくれる人がいない	物が多い	道路に自転車などの障害	障がい者が安心して利用できる交通機関が少ない	外出に必要な情報が得られない	歩道に段差が多い
全 体		309	31.7	22.0	16.5	13.6	11.0	10.0	6.8	6.8	5.2	5.2
年 齢	0～5歳	24	16.7	62.5	8.3	29.2	8.3	29.2	16.7	4.2	8.3	4.2
	6～8歳	48	20.8	33.3	6.3	10.4	6.3	12.5	4.2	2.1	4.2	－
	9～11歳	39	7.7	23.1	10.3	17.9	5.1	10.3	5.1	10.3	2.6	7.7
	12～14歳	31	51.6	9.7	19.4	22.6	16.1	6.5	3.2	3.2	－	12.9
	15～17歳	25	36.0	28.0	20.0	8.0	24.0	16.0	16.0	12.0	4.0	－
	18～29歳	83	45.8	14.5	19.3	9.6	13.3	4.8	8.4	10.8	8.4	4.8
	30歳代	42	33.3	9.5	26.2	9.5	9.5	7.1	2.4	2.4	7.1	4.8
	40歳代	15	26.7	6.7	26.7	6.7	6.7	6.7	－	－	－	13.3
無回答		2	－	50.0	－	50.0	－	－	－	50.0	－	－
全 体		309	31.7	22.0	16.5	13.6	11.0	10.0	6.8	6.8	5.2	5.2
題 動 情 二 の 等 緒 次 有 の や 的 無 問 行 な	二次的な問題あり	122	45.1	21.3	24.6	18.0	17.2	7.4	9.8	9.0	4.9	5.7
	過去に二次的な問題あり	54	35.2	18.5	18.5	11.1	11.1	7.4	7.4	11.1	11.1	1.9
	二次的な問題なし	124	17.7	25.0	8.1	10.5	4.0	12.9	4.0	3.2	3.2	6.5
	無回答	9	22.2	11.1	11.1	11.1	22.2	22.2	－	－	－	－

		調査数（人）	外出時に不便や困難を感じること									
			く、信号の危険を感じる	い障がい者用トイレが少ない	障がい者用の駐車場が少ない	る施設が少ない	エレベーターが設置されていない	エレベーターが少ない	用エレベーターなどの案内標識	設備が少ない	視覚障がい者用の信号機、点字ブロックなどの	その他
全 体		309	3.2	3.2	2.3	1.9	1.0	—	10.7	28.5	4.5	
年 齢	0～5歳	24	4.2	4.2	8.3	4.2	—	—	4.2	8.3	4.2	
	6～8歳	48	6.3	—	—	2.1	—	—	6.3	45.8	—	
	9～11歳	39	—	—	2.6	2.6	—	—	5.1	35.9	7.7	
	12～14歳	31	6.5	—	—	6.5	3.2	—	9.7	29.0	—	
	15～17歳	25	4.0	12.0	4.0	4.0	—	—	12.0	24.0	4.0	
	18～29歳	83	3.6	6.0	3.6	—	—	—	16.9	22.9	6.0	
	30歳代	42	—	—	—	—	—	—	9.5	23.8	9.5	
	40歳代	15	—	6.7	—	—	6.7	—	13.3	40.0	—	
無回答		2	—	—	—	—	50.0	—	50.0	—	—	
全 体		309	3.2	3.2	2.3	1.9	1.0	—	10.7	28.5	4.5	
題 動 情 二 の 等 緒 次 有 の や 的 無 問 行 な	二次的な問題あり	122	5.7	7.4	3.3	3.3	2.5	—	10.7	15.6	7.4	
	過去に二次的な問題あり	54	3.7	—	—	—	—	—	20.4	25.9	1.9	
	二次的な問題なし	124	—	0.8	2.4	1.6	—	—	7.3	41.9	3.2	
	無回答	9	11.1	—	—	—	—	—	—	33.3	—	

(8) スポーツの頻度

問19 あなたは、どの程度スポーツ（散歩やランニング程度のものを含む）をしていますか。
（○は1つだけ）

【図表9-50 スポーツの頻度】



「何もしていない」(34.0%)が最も多い。スポーツをしている人では、「週1～2回程度」(32.4%)が最も多く、次いで「週3回以上」(24.6%)、「1ヶ月に1回程度」(8.4%)となっている。

年齢別にみると、15歳以上では他の年代に比べて「何もしていない」の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの人では「何もしていない」人が半数弱(48.7%)を占めている。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「何もしていない」(41.8%)の割合が高い。

【図表9-51 年齢別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
スポーツの頻度】(%)

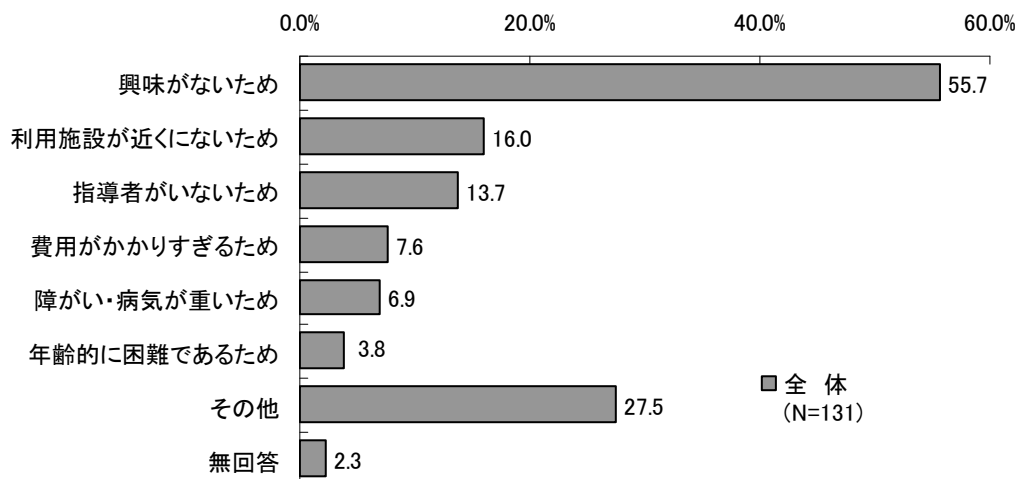
		調査数(人)	スポーツの頻度				
			週3回以上	週1～2回程度	1ヶ月に1回程度	何もしていない	無回答
全 体		309	24.6	32.4	8.4	34.0	0.6
年 齢	0～5歳	24	29.2	29.2	4.2	37.5	—
	6～8歳	48	33.3	47.9	2.1	16.7	—
	9～11歳	39	25.6	56.4	2.6	15.4	—
	12～14歳	31	22.6	32.3	16.1	29.0	—
	15～17歳	25	24.0	24.0	12.0	40.0	—
	18～29歳	83	20.5	16.9	15.7	45.8	1.2
	30歳代	42	23.8	31.0	4.8	38.1	2.4
	40歳代	15	6.7	33.3	—	60.0	—
	無回答	2	100.0	—	—	—	—
全 体		309	24.6	32.4	8.4	34.0	0.6
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	24.7	31.9	9.0	33.7	0.7
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	36.4	27.3	—	36.4	—
	学習障がい(LD)のみ	2	50.0	50.0	—	—	—
	アスペルガー症候群のみ	39	17.9	28.2	5.1	48.7	—
	自閉症のみ	36	22.2	33.3	11.1	33.3	—
	広汎性発達障がいのみ	79	24.1	36.7	7.6	30.4	1.3
	知的障がいのみ	9	33.3	44.4	—	22.2	—
	発達障がいの重複	112	25.9	28.6	12.5	32.1	0.9
	診断は受けていない	21	23.8	38.1	—	38.1	—
	無回答	—	—	—	—	—	—
全 体		309	24.6	32.4	8.4	34.0	0.6
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題 の 有 無	二次的な問題あり	122	20.5	24.6	11.5	41.8	1.6
	過去に二次的な問題あり	54	25.9	33.3	11.1	29.6	—
	二次的な問題なし	124	29.8	41.1	3.2	25.8	—
	無回答	9	—	11.1	22.2	66.7	—

(9) スポーツをしていない理由

[問19で「3」「4」を選ばれた方におたずねします]

問19-1 それはなぜですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表9-52 スポーツをしていない理由】

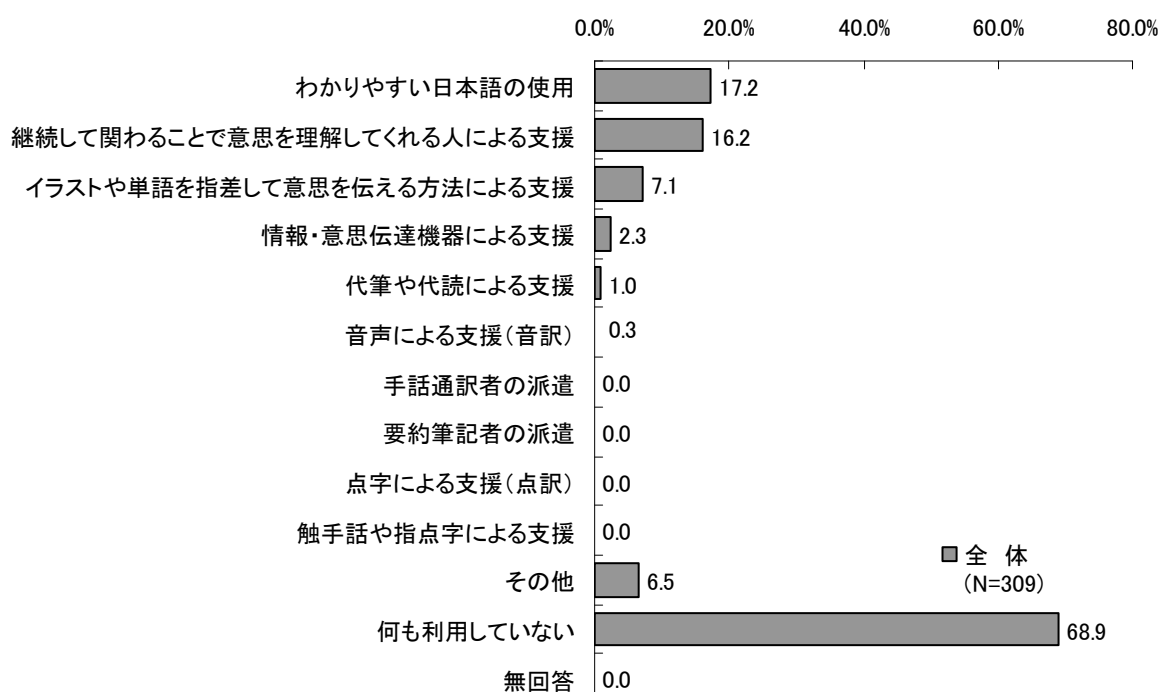


スポーツをしていない人、及び1ヶ月に1回程度しかしない人に、その理由をたずねたところ、「興味がないため」(55.7%)が半数を超えて最も多く、このほか「利用施設が近くにないため」(16.0%)や「指導者がいないため」(13.7%)が1割台となっている。

(10) 利用しているコミュニケーション支援

問20 あなたは、普段、どのようなコミュニケーション（意思疎通）の支援を利用していますか。（○はあてはまるものすべて）

【図表9-53 利用しているコミュニケーション支援】



コミュニケーション支援を「何も利用していない」(68.9%)が7割弱を占めている。利用しているものとしては、「わかりやすい日本語の使用」(17.2%)と「継続して関わることで意思を理解してくれる人による支援」(16.2%)がそれぞれ1割を超えている。その他はいずれも1割未満となっている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳あり（知的障がいあり）では療育手帳なし（知的障がいなし）に比べて全ての項目において利用している人の割合が高くなっている。

発達障がいの診断別にみると、自閉症のみの人では他に比べて「継続して関わることで意思を理解してくれる人による支援」(33.3%)や「イラストや単語を指差して意思を伝える方法による支援」(22.2%)の割合が高い。また、自閉症のみの人や広汎性発達障がいのみの人、知的障がいのみの人では「わかりやすい日本語の使用」の割合が3割前後と高くなっている。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「継続して関わることで意思を理解してくれる人による支援」(23.8%)の割合が高い。

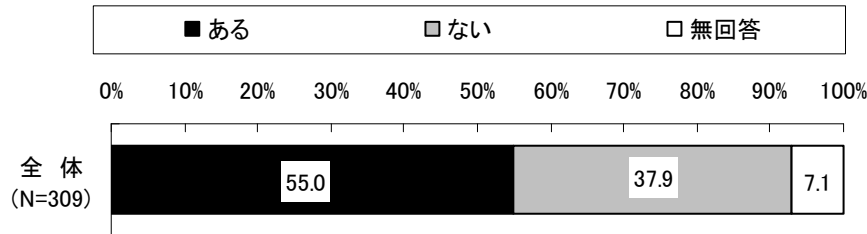
【図表9-54 療育手帳の有無別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
利用しているコミュニケーション支援】(%)

		調査数(人)	利用しているコミュニケーション支援												何 も 利 用 し て い な い	無 回 答
			わ か り や す い 日 本 語 の 使 用	継 続 し て く れ る 人 に よ る 支 援	伝 え る 方 法 に よ る 支 援	イ ラ ス ト や 単 語 を 指 差 し て 意 思 を	情 報 ・ 意 思 伝 達 機 器 に よ る 支 援	代 筆 や 代 読 に よ る 支 援	音 声 に よ る 支 援 (音 訳)	手 話 通 訳 者 の 派 遣	要 約 筆 記 者 の 派 遣	点 字 に よ る 支 援 (点 訳)	触 手 話 や 指 点 字 に よ る 支 援	そ の 他		
全 体		309	17.2	16.2	7.1	2.3	1.0	0.3	-	-	-	-	-	6.5	68.9	-
療育手 帳の有 無	療育手帳あり	74	37.8	28.4	23.0	6.8	1.4	1.4	-	-	-	-	-	14.9	37.8	-
	療育手帳なし	226	11.1	12.4	2.2	0.9	0.9	-	-	-	-	-	-	3.5	78.8	-
	無回答	9	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	77.8	-
全 体		309	17.2	16.2	7.1	2.3	1.0	0.3	-	-	-	-	-	6.5	68.9	-
発達障 がいの 診断	診断を受けている	288	18.4	17.4	7.6	2.4	1.0	0.3	-	-	-	-	-	6.6	67.0	-
	注意欠陥多動性障がい (ADHD)のみ	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	学習障がい(LD)のみ	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0	-
	アスペルガー症候群のみ	39	-	10.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	89.7	-
	自閉症のみ	36	25.0	33.3	22.2	2.8	-	-	-	-	-	-	-	13.9	41.7	-
	広汎性発達障がいのみ	79	26.6	16.5	6.3	1.3	2.5	-	-	-	-	-	-	7.6	59.5	-
	知的障がいのみ	9	33.3	-	-	11.1	-	-	-	-	-	-	-	11.1	55.6	-
	発達障がいの重複	112	17.9	18.8	8.0	3.6	0.9	0.9	-	-	-	-	-	6.3	69.6	-
	診断は受けていない	21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4.8	95.2	-
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体		309	17.2	16.2	7.1	2.3	1.0	0.3	-	-	-	-	-	6.5	68.9	-
二次 的情 緒 や 行 動 等 の 有 無	二次的な問題あり	122	18.0	23.8	9.8	3.3	1.6	-	-	-	-	-	-	7.4	63.1	-
	過去に二次的な問題あり	54	14.8	9.3	5.6	1.9	-	-	-	-	-	-	-	11.1	70.4	-
	二次的な問題なし	124	18.5	12.9	5.6	1.6	0.8	0.8	-	-	-	-	-	3.2	72.6	-
	無回答	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	11.1	88.9	-

(11) コミュニケーションで困っていることの有無

問21 あなたは、コミュニケーション（意思疎通）する上で、困っていることがありますか。
（○は1つだけ）

【図表9-55 コミュニケーションで困っていることの有無】



「ある」(55.0%)が過半数であり、「ない」(37.9%)を上回っている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳あり（知的障がいあり）では療育手帳なし（知的障がいなし）に比べてコミュニケーションで困っていることがある人の割合が高く、7割弱（68.9%）を占めている。

発達障がいの診断別にみると、自閉症のみの人では他に比べて「ある」(77.8%)の割合が8割弱と高い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「ある」(65.6%)の割合が高い。

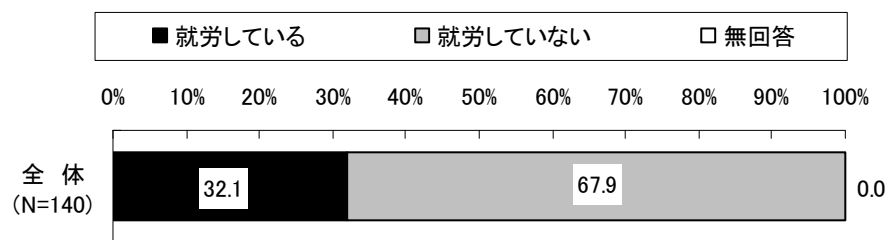
【図表9-56 療育手帳の有無別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
コミュニケーションで困っていることの有無】(%)

		調査数 (人)	コミュニケーションで困っていること の有無		
			ある	ない	無回答
全 体		309	55.0	37.9	7.1
有 帳 無 の 手 帳	療育手帳あり	74	68.9	24.3	6.8
	療育手帳なし	226	49.6	42.9	7.5
	無回答	9	77.8	22.2	-
全 体		309	55.0	37.9	7.1
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	56.3	36.1	7.6
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	45.5	54.5	-
	学習障がい(LD)のみ	2	-	100.0	-
	アスペルガー症候群のみ	39	46.2	43.6	10.3
	自閉症のみ	36	77.8	19.4	2.8
	広汎性発達障がいのみ	79	57.0	38.0	5.1
	知的障がいのみ	9	44.4	33.3	22.2
	発達障がいの重複	112	55.4	34.8	9.8
	診断は受けていない	21	38.1	61.9	-
全 体		309	55.0	37.9	7.1
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題	二次的な問題あり	122	65.6	27.0	7.4
	過去に二次的な問題あり	54	63.0	35.2	1.9
	二次的な問題なし	124	43.5	48.4	8.1
	無回答	9	22.2	55.6	22.2

5. 就労の状況について

(1) 就労の有無、就労形態

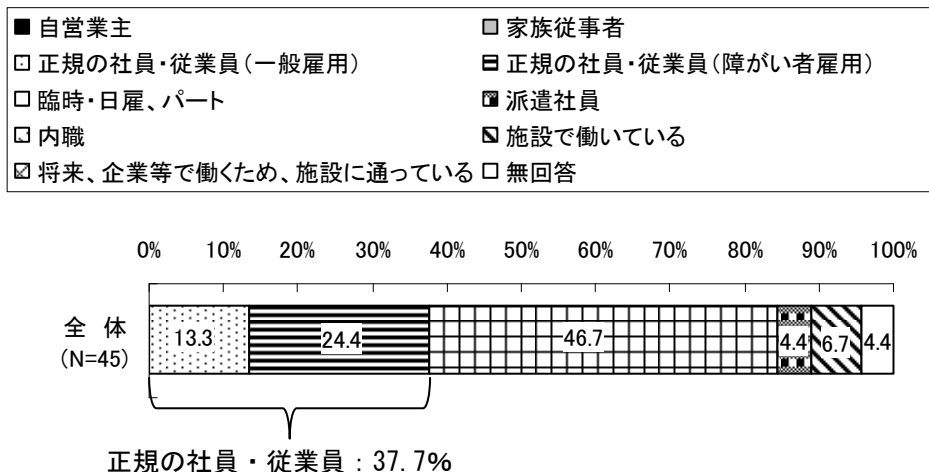
【図表9-57 就労の有無】



[現在就労している方のみお答えください]

問22 あなたの就労形態は何ですか。(○は1つだけ)

【図表9-58 就労形態】



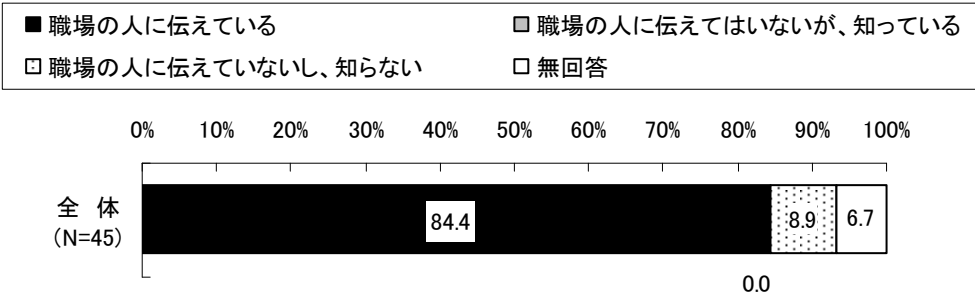
仕事をしている人は45人で17歳未満を除いた回答者(140人)の32.1%にあたる。

将来企業等で働くために施設で訓練等を受けている人を含めて就労形態をみると、「臨時・日雇い、パート」(46.7%)が半数弱と最も多く、次いで「正規の社員・従業員(障がい者雇用)」(24.4%)、「正規の社員・従業員(一般雇用)」(13.3%)が続いており、これらをあわせると正社員として就労している人が37.7%となっている。

(2) 職場への障がいの報告

[現在就労している方のみお答えください]
問 2 3 職場にあなたの障がいのことを伝えてありますか。あるいは職場の人はあなたの障がいのことを知っていますか。(○は1つだけ)

【図表9-59 職場への障がいの報告】

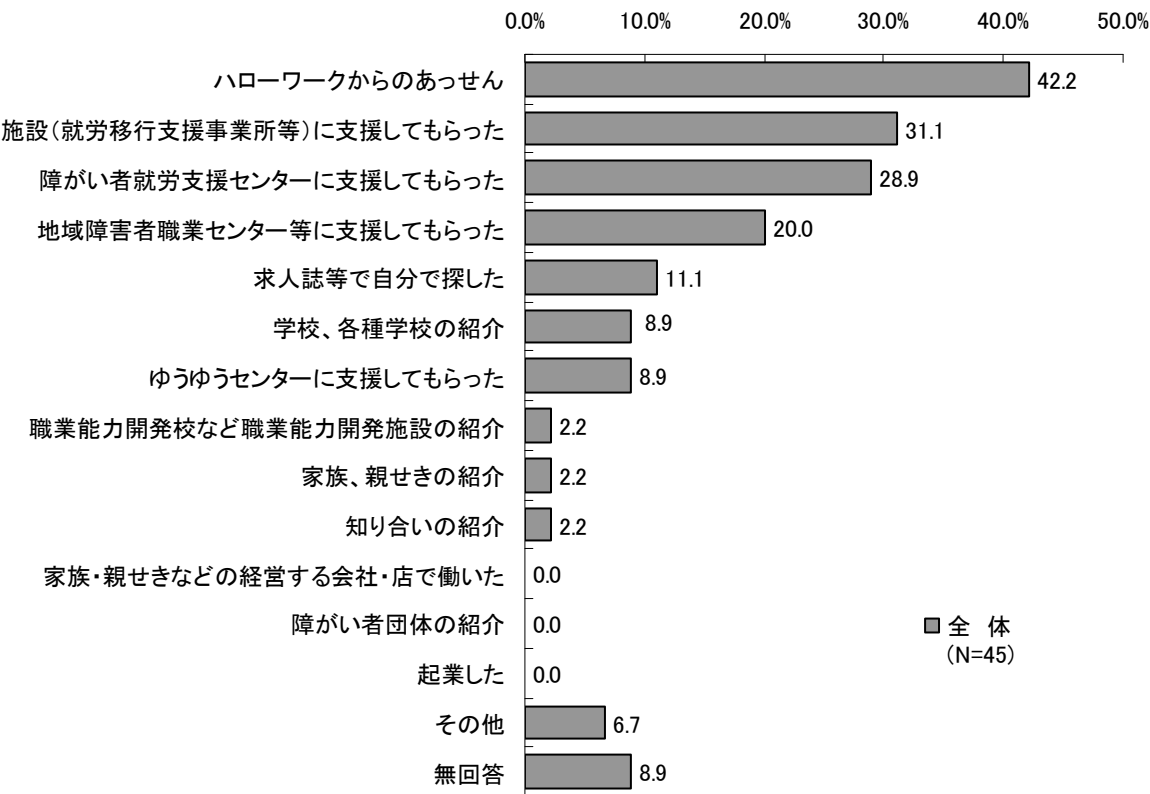


現在、就労している人に職場に自分の障がいのことを伝えているか（職場の人は障がいのことを知っているか）たずねたところ、伝えている人が8割強（84.4%）、「職場の人に伝えていないし、知らない」が1割未満（8.9%）となっており、就労者の大半は職場の人に障がいのことを伝えている。

(3) 仕事を探した方法

[現在就労している方のみお答えください]
問 2 4 どのような方法で仕事を探しましたか。(○はあてはまるものすべて)

【図表9-60 仕事を探した方法】



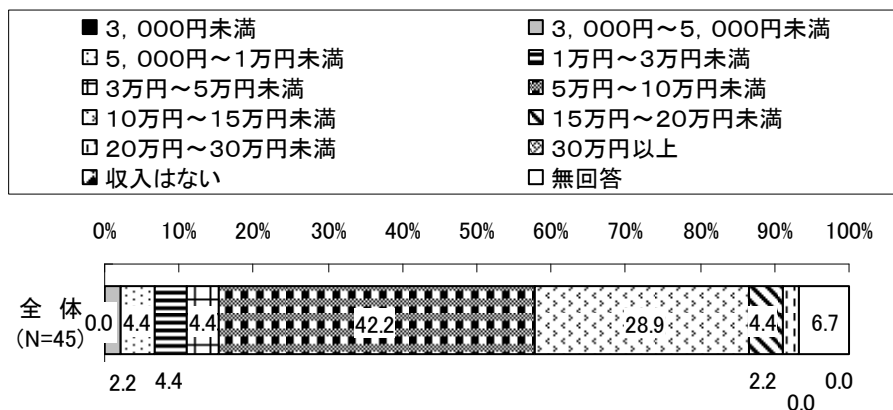
就労している人に仕事を探した方法をたずねたところ、「ハローワークからのあっせん」（42.2%）が最も多く、次いで「施設（就労移行支援事業所等）に支援してもらった」（31.1%）、「障がい者就労支援センターに支援してもらった」（28.9%）、「地域障害者職業センター等に支援してもらった」（20.0%）となっている。

(4) 月収

[現在就労している方のみお答えください]

問25 あなたの、ふだんの月収（手取り額）はどのくらいですか。賞与などの臨時的に支給されるものは除きます。（○は1つだけ）

【図表9-61 月収】

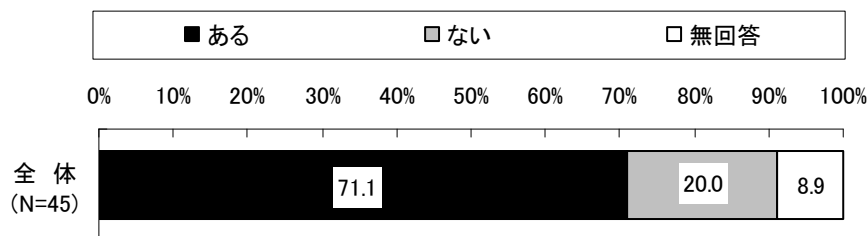


就労による月収は「5万円～10万円未満」が42.2%、「10万円～15万円未満」が28.9%と、10万円前後に7割強（71.1%）が集中している。

(5) 仕事上の困りごとや心配なことの有無

問26 あなたは、仕事を続けていく上で困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。（○は1つだけ）

【図表9-62 仕事上の困りごとや心配なことの有無】



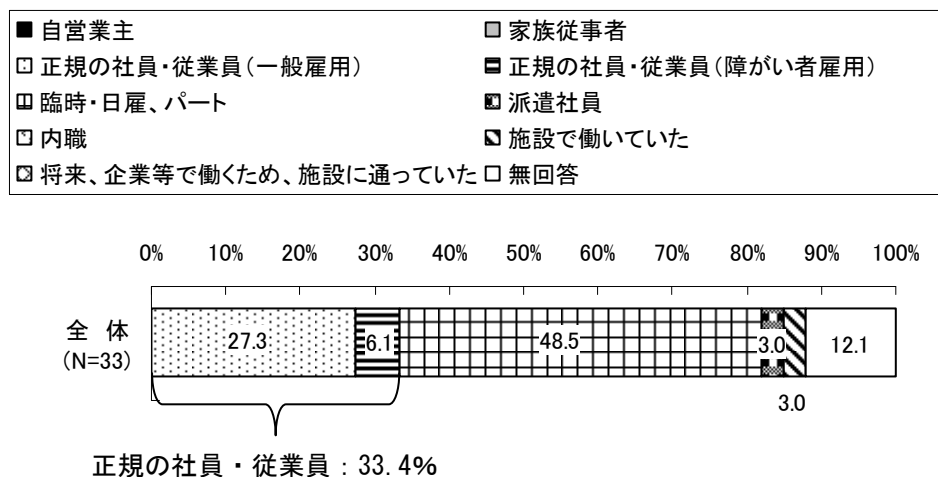
仕事上の困りごとや心配なことの有無は、「ある」（71.1%）が7割強を占めており、「ない」（20.0%）を大きく上回っている。

(6) 以前就労していた時の就労形態

[以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください]

問27 以前働いていた就労形態は何ですか。(○は1つだけ)

【図表9-63 以前就労していた時の就労形態】



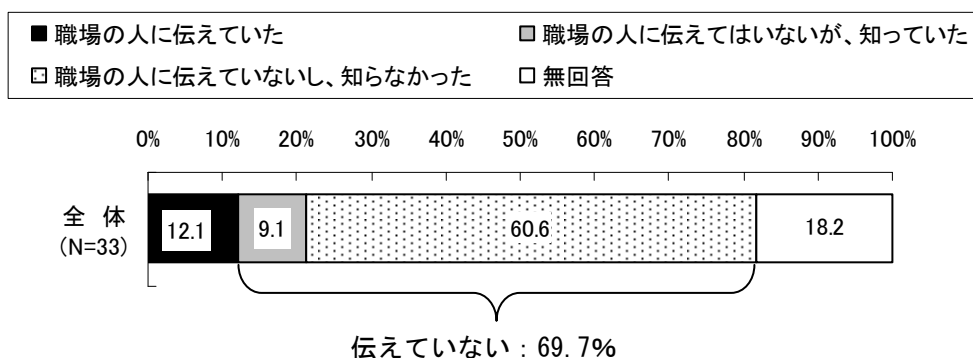
以前就労していたが仕事をやめた人は33人で18歳未満を除いた回答者（140人）の23.6%にあたる。
 以前就労していた時の就労形態では、「臨時・日雇い、パート」（48.5%）が半数弱を占めて最も多い。
 一般雇用・障がい者雇用をあわせた「正規の社員・従業員」が3割強（33.4%）、「派遣社員」と「施設で働いていた」がそれぞれ3.0%である。

(7) 以前の職場への障がいの報告

[以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください]

問28 職場にあなたの障がいのことを伝えていましたか。あるいは職場の人はあなたの障がいのことを知っていましたか。(○は1つだけ)

【図表9-64 以前の職場への障がいの報告】



以前働いていたが仕事をやめた人に職場に自分の障がいのことを伝えていたか（職場の人は障がいのことを知っていたか）たずねたところ、「職場の人に伝えていないし、知らなかった」（60.6%）が6割を占めて最も多く、これに「職場の人に伝えてはいないが、知っていた」（9.1%）をあわせると、伝えていなかった人が7割（69.7%）となっている。現在就労中の人では伝えている人が8割強（84.4%）となっていたが、逆の結果となっている。

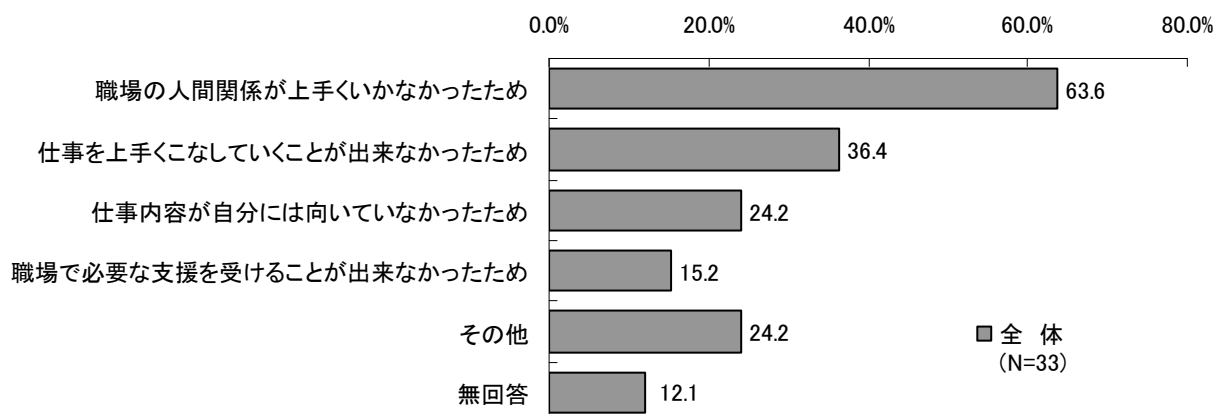
職場に自分の障がいのことを伝えていなかった人（23人）にその理由を自由記述形式でたずねたところ、「知られたくないから」や「理解されないから」との回答が挙がっていた。

(8) 仕事をやめた原因

[以前働いていたが仕事をやめた方のみお答えください]

問29 仕事をやめた原因は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-65 仕事をやめた原因】



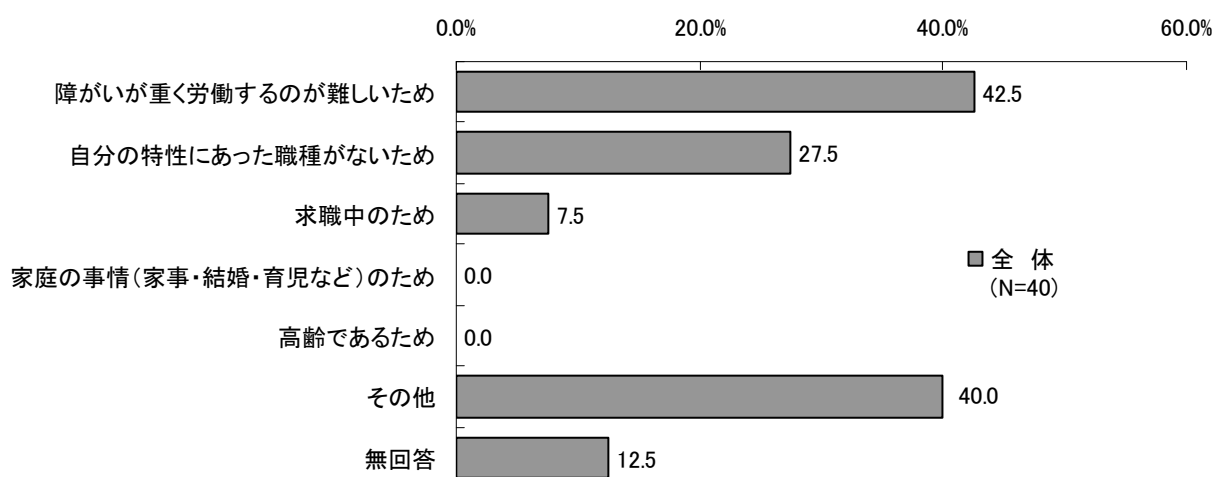
以前就労していたが仕事をやめた人に仕事をやめた原因をたずねたところ、「職場の人間関係が上手くいかなかったため」(63.6%)が6割を超えて最も多く、次いで「仕事を上手くこなしていくことが出来なかったため」(36.4%)、「仕事内容が自分には向いていなかったため」(24.2%)となっている。

(9) 働いたことがない理由

[就労経験がない方のみお答えください]

問30 働いたことがない理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-66 働いたことがない理由】



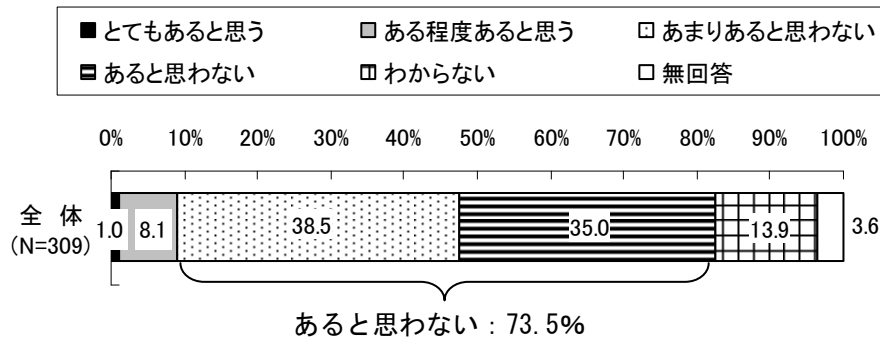
就労経験がない人は40人で18歳未満を除いた回答者(140人)の28.6%にあたる。

就労経験がない人にその理由をたずねたところ、「障がいが高く労働するのが難しいため」(42.5%)が4割を超えて最も多く、次いで「自分の特性にあった職種がないため」(27.5%)となっている。

(10) 発達障がい者の就労に対する社会の理解度

問3 1 発達障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思いますか。
(○は1つだけ)

【図表9-67 発達障がい者の就労に対する社会の理解度】



発達障がい者の就労に対する社会の理解度については「あまりあると思わない」(38.5%)・「あると思わない」(35.0%)の順で多く、これらをあわせた『理解があると思わない』人(73.5%)が7割強を占めている。一方、「とてもあると思う」(1.0%)・「ある程度あると思う」(8.1%)をあわせた『理解があると思う』人(9.1%)は1割に満たない。

年齢別にみると、いずれの年代も『理解があると思わない』人が7割前後を占めている。

発達障がいの診断別にみると、『理解があると思わない』人の割合は発達障がいの重複者(79.4%)や自閉症のみの人と知的障がいのみの人(それぞれ77.8%)等で他に比べてやや高い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「あると思わない」の割合が高く、半数弱(46.7%)を占めている。

【図表9-68 年齢別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
発達障がい者の就労に対する社会の理解度】(%)

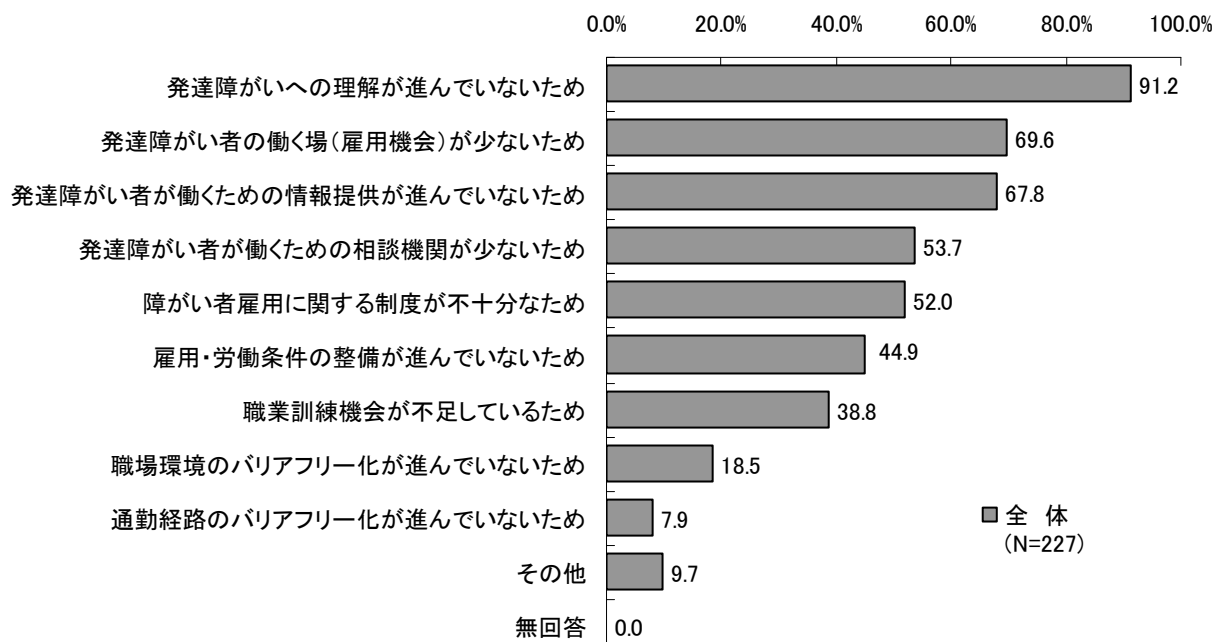
		調査数(人)	発達障がい者の就労に対する社会の理解度					
			とてもあると思う	ある程度あると思う	あまりあると思わない	あると思わない	わからない	無回答
全 体		309	1.0	8.1	38.5	35.0	13.9	3.6
年 齢	0～5歳	24	4.2	8.3	25.0	41.7	12.5	8.3
	6～8歳	48	-	8.3	47.9	29.2	10.4	4.2
	9～11歳	39	-	-	46.2	41.0	7.7	5.1
	12～14歳	31	-	3.2	38.7	35.5	19.4	3.2
	15～17歳	25	-	8.0	40.0	32.0	12.0	8.0
	18～29歳	83	1.2	13.3	36.1	31.3	16.9	1.2
	30歳代	42	2.4	11.9	28.6	45.2	11.9	-
	40歳代	15	-	-	40.0	26.7	26.7	6.7
	無回答	2	-	-	100.0	-	-	-
全 体		309	1.0	8.1	38.5	35.0	13.9	3.6
発 達 障 がい の 診 断	診断を受けている	288	0.7	7.6	39.2	35.4	13.2	3.8
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	-	9.1	54.5	18.2	18.2	-
	学習障がい(LD)のみ	2	-	-	100.0	-	-	-
	アスペルガー症候群のみ	39	-	10.3	30.8	35.9	15.4	7.7
	自閉症のみ	36	-	11.1	52.8	25.0	11.1	-
	広汎性発達障がいのみ	79	2.5	8.9	35.4	34.2	15.2	3.8
	知的障がいのみ	9	-	-	77.8	-	11.1	11.1
	発達障がいの重複	112	-	5.4	34.8	44.6	11.6	3.6
	診断は受けていない	21	4.8	14.3	28.6	28.6	23.8	-
全 体		309	1.0	8.1	38.5	35.0	13.9	3.6
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題 の 有 無	二次的な問題あり	122	-	5.7	32.0	46.7	12.3	3.3
	過去に二次的な問題あり	54	-	9.3	38.9	37.0	11.1	3.7
	二次的な問題なし	124	2.4	10.5	45.2	22.6	16.9	2.4
	無回答	9	-	-	33.3	33.3	11.1	22.2

(11) 発達障がい者の就労に対して社会の理解があると思わない理由

[問31で「3」「4」を選ばれた方におたずねします]

問31-1 発達障がいのある人が働くことについて社会の理解があると思わない理由は何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-69 発達障がい者の就労に対して社会の理解があると思わない理由】

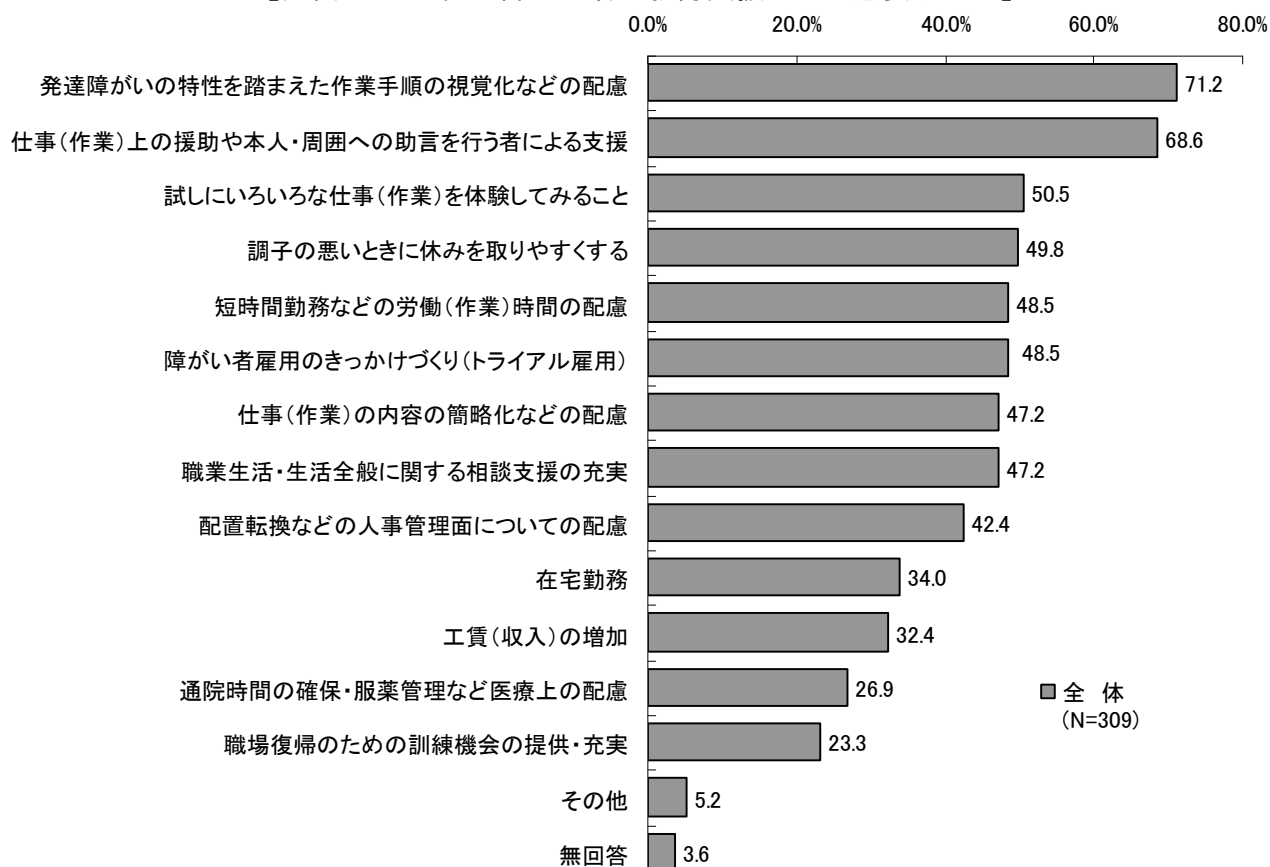


発達障がい者が働くことに対する社会の理解が「あまりあると思わない」、「あると思わない」と回答した人にその理由をたずねたところ、「発達障がいへの理解が進んでいないため」(91.2%)が9割強と最も多く、以下、「発達障がい者の働く場(雇用機会)が少ないため」(69.6%)、「発達障がい者が働くための情報提供が進んでいないため」(67.8%)、「発達障がい者が働くための相談機関が少ないため」(53.7%)、「障がい者雇用に関する制度が不十分なため」(52.0%)等の項目もそれぞれ5割を超えている。

(12) 発達障がい者の就労支援として必要なこと

問32 どのような働き方や制度があれば発達障がいのある人が働きやすいと思いますか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表9-70 発達障がい者の就労支援として必要なこと】



「発達障がいの特性を踏まえた作業手順の視覚化などの配慮」(71.2%)と「仕事(作業)上の援助や本人・周囲への助言を行う者による支援」(68.6%)が7割前後と多く、次いで「試しにいろいろな仕事(作業)を体験してみる」(50.5%)、「調子の悪いときに休みを取りやすくする」(49.8%)、「短時間勤務などの労働(作業)時間の配慮」と「障がい者雇用のきっかけづくり(トライアル雇用)」(それぞれ48.5%)が半数前後で続いている。

年齢別にみると、15歳以上では他の年代に比べて「通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮」の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、発達障がいの重複者では「仕事(作業)の内容の簡略化などの配慮」(58.0%)等の割合が高い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人に比べて「在宅勤務」(42.6%)や「通院時間の確保・服薬管理など医療上の配慮」(36.1%)の割合が高い。

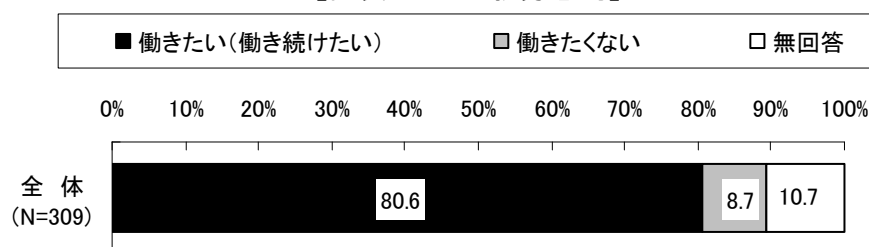
【図表9-71 年齢別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
発達障がい者の就労支援として必要なこと】(%)

		調査数（人）	発達障がい者の就労支援として必要なこと															
			発達障がいの視覚化などの配慮	仕事への助言を行う者による支援	体験してみること	試行錯誤を繰り返すこと	短時間の勤務などの労働（作業）時間	障がい者雇用のきつかけづくり（トライアル雇用）	仕事（作業）の内容の簡略化などの配慮	職業生活・生活全般に関する相談	配置転換などの人事管理面について	在宅勤務	工賃（収入）の増加	療養上の配慮	通院時間の確保・服薬管理など医療機関との連携	職場復帰のための訓練機会の提供・充実	その他	無回答
全 体		309	71.2	68.6	50.5	49.8	48.5	48.5	47.2	47.2	42.4	34.0	32.4	26.9	23.3	5.2	3.6	
年 齢	0～5歳	24	66.7	54.2	41.7	41.7	41.7	45.8	50.0	50.0	37.5	33.3	41.7	16.7	29.2	—	8.3	
	6～8歳	48	77.1	72.9	52.1	43.8	52.1	50.0	50.0	41.7	54.2	37.5	33.3	22.9	25.0	2.1	4.2	
	9～11歳	39	79.5	71.8	48.7	53.8	43.6	43.6	51.3	46.2	46.2	30.8	30.8	20.5	20.5	2.6	5.1	
	12～14歳	31	83.9	77.4	67.7	54.8	51.6	38.7	58.1	38.7	41.9	35.5	25.8	12.9	19.4	3.2	—	
	15～17歳	25	68.0	72.0	44.0	56.0	60.0	72.0	36.0	44.0	44.0	36.0	44.0	36.0	24.0	8.0	4.0	
	18～29歳	83	65.1	66.3	49.4	56.6	43.4	53.0	41.0	49.4	36.1	34.9	36.1	30.1	22.9	9.6	1.2	
	30歳代	42	66.7	64.3	47.6	42.9	52.4	42.9	45.2	54.8	38.1	26.2	23.8	38.1	23.8	4.8	2.4	
	40歳代	15	60.0	66.7	53.3	33.3	53.3	26.7	53.3	46.7	46.7	40.0	20.0	40.0	26.7	6.7	13.3	
	無回答	2	100.0	100.0	50.0	50.0	50.0	100.0	100.0	100.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—
全 体		309	71.2	68.6	50.5	49.8	48.5	48.5	47.2	47.2	42.4	34.0	32.4	26.9	23.3	5.2	3.6	
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	72.2	69.8	50.7	49.7	47.6	50.0	48.6	49.0	41.7	33.7	33.7	28.1	24.3	5.6	3.5	
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	45.5	72.7	45.5	54.5	63.6	63.6	27.3	36.4	36.4	36.4	54.5	36.4	18.2	—	—	
	学習障がい(LD)のみ	2	50.0	50.0	—	50.0	—	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—	50.0	—	—	
	アスペルガー症候群のみ	39	71.8	71.8	48.7	56.4	53.8	38.5	38.5	59.0	43.6	43.6	41.0	30.8	33.3	2.6	5.1	
	自閉症のみ	36	77.8	69.4	44.4	33.3	47.2	61.1	44.4	50.0	44.4	13.9	30.6	22.2	13.9	8.3	2.8	
	広汎性発達障がいのみ	79	73.4	67.1	55.7	53.2	40.5	55.7	48.1	46.8	41.8	34.2	30.4	26.6	22.8	3.8	3.8	
	知的障がいのみ	9	55.6	55.6	44.4	44.4	44.4	33.3	33.3	33.3	44.4	33.3	22.2	22.2	44.4	—	11.1	
	発達障がいの重複	112	74.1	72.3	51.8	50.0	50.0	46.4	58.0	49.1	40.2	36.6	33.9	30.4	24.1	8.0	2.7	
	診断は受けていない	21	57.1	52.4	47.6	52.4	61.9	28.6	28.6	23.8	52.4	38.1	14.3	9.5	9.5	—	4.8	
無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
全 体		309	71.2	68.6	50.5	49.8	48.5	48.5	47.2	47.2	42.4	34.0	32.4	26.9	23.3	5.2	3.6	
動 二 等 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題 の 有 無	二次的な問題あり	122	68.0	73.8	48.4	55.7	56.6	48.4	53.3	54.1	46.7	42.6	32.8	36.1	26.2	8.2	3.3	
	過去に二次的な問題あり	54	77.8	72.2	55.6	59.3	57.4	63.0	48.1	59.3	44.4	29.6	25.9	29.6	31.5	5.6	5.6	
	二次的な問題なし	124	72.6	62.1	50.0	41.1	37.9	40.3	43.5	35.5	38.7	27.4	34.7	16.1	16.1	2.4	2.4	
	無回答	9	55.6	66.7	55.6	33.3	33.3	77.8	11.1	44.4	22.2	33.3	33.3	33.3	33.3	—	11.1	

(13) 就労意向、希望する就労形態

問33 あなたは、今後、働きたい（働き続けたい）ですか。（○は1つだけ）

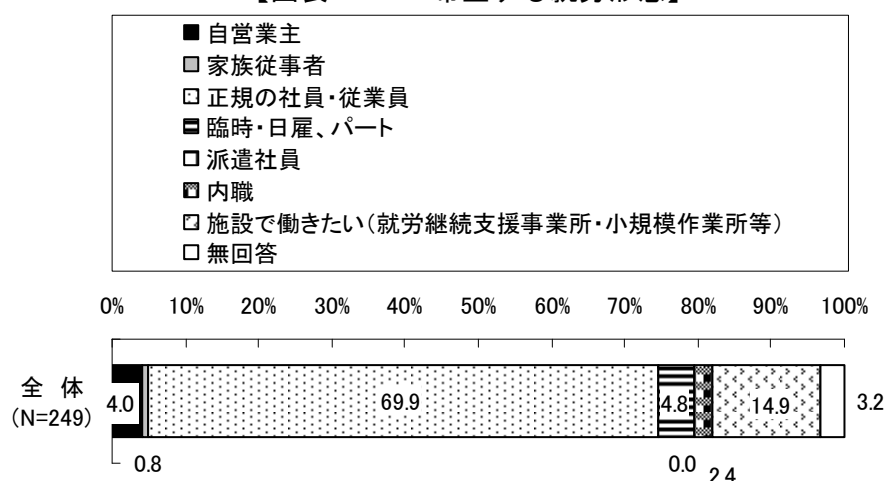
【図表9-72 就労意向】



[問33で「1」を選ばれた方におたずねします]

問33-1 どのような就労形態で働きたいですか。（○は1つだけ）

【図表9-73 希望する就労形態】



今後、働きたい（働き続けたい）と考えている人が8割（80.6%）を占めており、就労希望者のうち、7割（69.9%）の人は、「正規の社員・従業員」としての就労を希望している。

年齢別にみると、就労意向は概ね年齢が高いほど高く、18歳～29歳（88.0%）では9割弱の人が就労を希望している。

発達障がいの診断別にみると、知的障がいのみの人では他に比べて「働きたい（働き続けたい）」（55.6%）の割合が6割未満と低くなっている。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人では「働きたくない」（14.8%）の割合が1割を超えて高い。

【図表9-74 年齢別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
就労意向、希望する就労形態】(%)

		調査数(人)	就労意向			調査数(人)	希望する就労形態							
			働きたい (働き続けたい)	働きたくない	無回答		自営業主	家族従事者	正規の社員・従業員	臨時・日雇、パート	派遣社員	内職	施設で働きたい (就労継続支援 事業所・小規模作業所等)	無回答
全 体		309	80.6	8.7	10.7	249	4.0	0.8	69.9	4.8	-	2.4	14.9	3.2
年 齢	0～5歳	24	70.8	4.2	25.0	17	-	-	88.2	-	-	-	5.9	5.9
	6～8歳	48	70.8	4.2	25.0	34	5.9	-	88.2	-	-	-	5.9	-
	9～11歳	39	74.4	7.7	17.9	29	10.3	3.4	72.4	3.4	-	-	3.4	6.9
	12～14歳	31	100.0	-	-	31	9.7	3.2	51.6	6.5	-	6.5	22.6	-
	15～17歳	25	80.0	12.0	8.0	20	-	-	65.0	-	-	-	35.0	-
	18～29歳	83	88.0	8.4	3.6	73	1.4	-	71.2	4.1	-	4.1	16.4	2.7
	30歳代	42	81.0	14.3	4.8	34	2.9	-	61.8	11.8	-	2.9	17.6	2.9
	40歳代	15	60.0	33.3	6.7	9	-	-	55.6	22.2	-	-	11.1	11.1
	無回答	2	100.0	-	-	2	-	-	50.0	-	-	-	-	50.0
全 体		309	80.6	8.7	10.7	249	4.0	0.8	69.9	4.8	-	2.4	14.9	3.2
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	80.9	8.3	10.8	233	4.3	0.9	68.7	4.7	-	2.6	15.9	3.0
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	72.7	18.2	9.1	8	-	-	75.0	-	-	-	-	25.0
	学習障がい(LD)のみ	2	100.0	-	-	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	-
	アスペルガー症候群のみ	39	82.1	10.3	7.7	32	6.3	-	68.8	9.4	-	3.1	9.4	3.1
	自閉症のみ	36	94.4	-	5.6	34	2.9	-	47.1	5.9	-	-	41.2	2.9
	広汎性発達障がいのみ	79	78.5	11.4	10.1	62	3.2	-	82.3	6.5	-	4.8	3.2	-
	知的障がいのみ	9	55.6	-	44.4	5	20.0	-	60.0	-	-	-	20.0	-
	発達障がいの重複	112	80.4	8.0	11.6	90	4.4	1.1	68.9	2.2	-	2.2	17.8	3.3
	診断は受けていない	21	76.2	14.3	9.5	16	-	-	87.5	6.3	-	-	-	6.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体		309	80.6	8.7	10.7	249	4.0	0.8	69.9	4.8	-	2.4	14.9	3.2
二 次 的 情 緒 や 行 動 等 の 問 題	二次的な問題あり	122	78.7	14.8	6.6	96	6.3	-	50.0	5.2	-	4.2	28.1	6.3
	過去に二次的な問題あり	54	88.9	3.7	7.4	48	-	2.1	79.2	6.3	-	2.1	8.3	2.1
	二次的な問題なし	124	79.0	5.6	15.3	98	4.1	1.0	83.7	3.1	-	1.0	6.1	1.0
	無回答	9	77.8	-	22.2	7	-	-	85.7	14.3	-	-	-	-

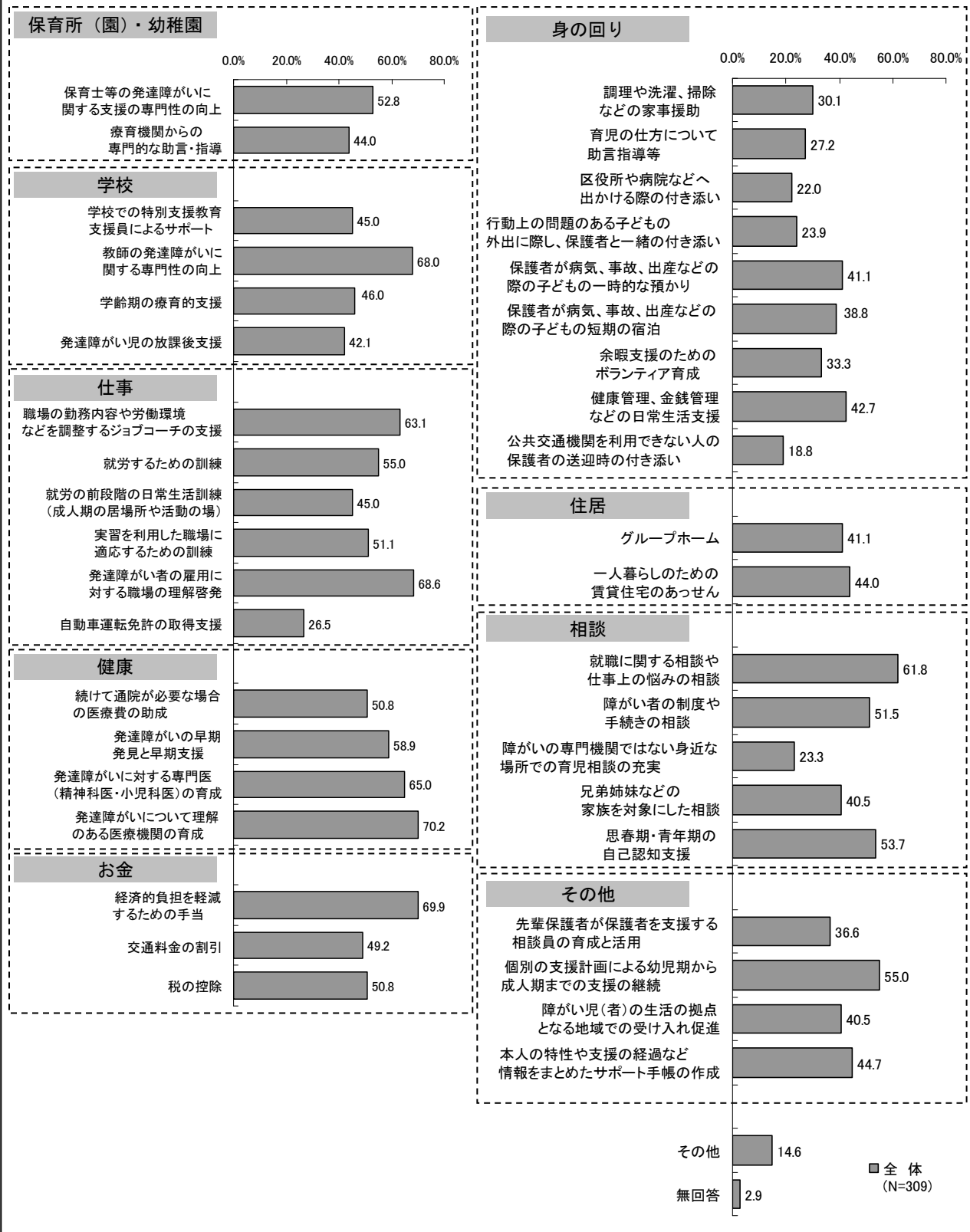
6. 利用したいサービス等について

(1) 必要なサービスや充実すべき施策

問34 利用したいサービス等についておたずねします。

(1) あなたは、これから、こんなことができればいいな、必要だなと思うサービスや充実すべき施策は何だと思われますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-75 必要なサービスや充実すべき施策】



「発達障がいについて理解のある医療機関の育成」(70.2%)、「経済的負担を軽減するための手当」(69.9%)、「発達障がい者の雇用について職場の理解啓発」(68.6%)、「教師の発達障がいに関する専門性の向上」(68.0%)等が約7割と多くなっており、医療・教育・雇用分野での関係者の理解促進や専門性向上に関する項目が上位を占めている。

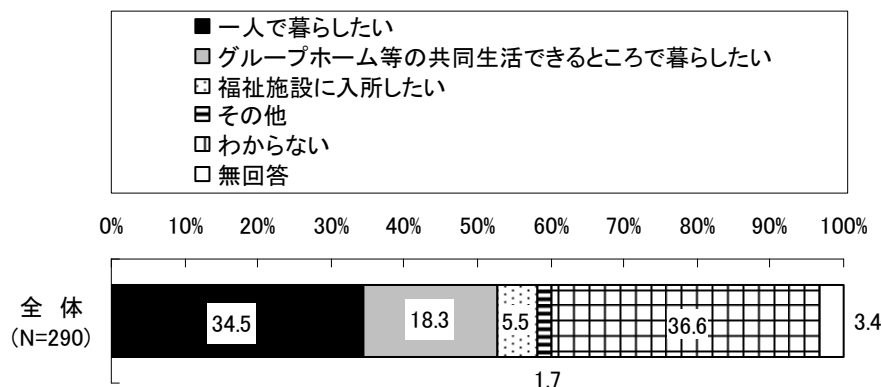
また、これらの中で最も力を入れてほしいことでは「教師の発達障がいに関する専門性の向上」(11.3%)と「発達障がい者の雇用に対する職場の理解啓発」(9.7%)、「個別の支援計画による幼児期から成人期までの支援の継続」(9.4%)がそれぞれ1割前後と比較的高くなっている。

(2) 将来、家族と同居できなくなった場合に希望する暮らし方

〔現在、ご家族と同居されている方におたずねします〕

問35-1 将来、さまざまな理由でご家族との同居ができなくなったとき、どのように暮らしたいと思いますか。(○は1つだけ)

【図表9-78 将来、家族と同居できなくなった場合に希望する暮らし方】



現在、家族と同居している人に、同居ができなくなったときの暮らし方の希望をたずねると、「一人で暮らしたい」(34.5%)が3割を超えて最も多く、次いで「グループホーム等の共同生活できる場所で暮らしたい」(18.3%)、「福祉施設に入所したい」(5.5%)となっている。また、「分からない」(36.6%)が4割弱となっている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳の所持者(知的障がいがある人)では「グループホーム等の共同生活できる場所で暮らしたい」(37.5%)や「福祉施設に入所したい」(19.4%)の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみの人やアスペルガー症候群のみの人では、一人暮らし希望者がそれぞれ6割を超えている。

【図表9-79 年齢別、療育手帳の有無別、発達障がいの診断別

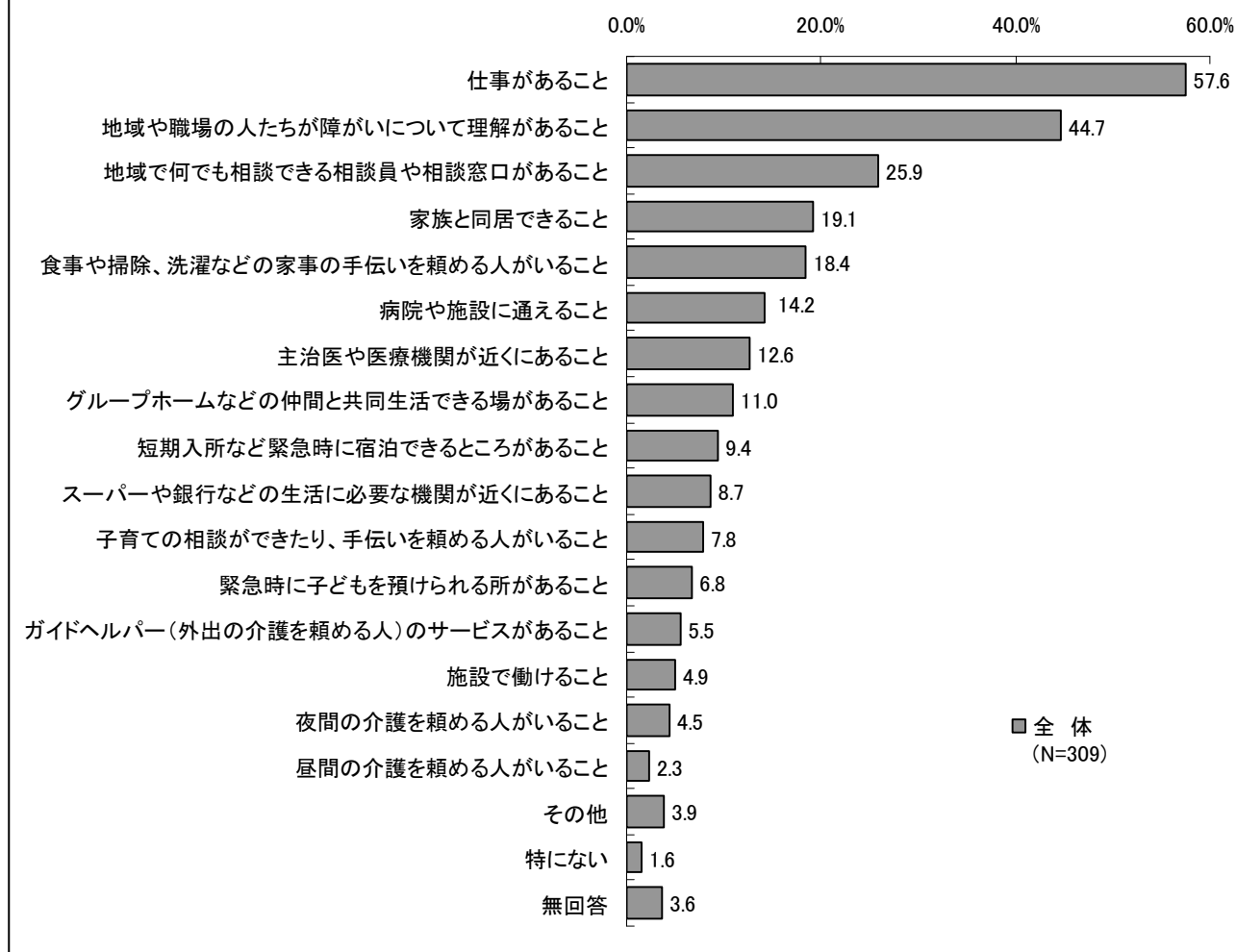
将来、家族と同居できなくなった場合に希望する暮らし方】(%)

		調査数（人）	将来、家族と同居できなくなった場合に希望する暮らし方					
			一人で暮らしたい	ろ共グ で同生 暮らし したい できる とこの	い福祉 施設に 入所した	その他	わからない	無回答
全 体		290	34.5	18.3	5.5	1.7	36.6	3.4
年 齢	0～5歳	23	17.4	21.7	8.7	－	34.8	17.4
	6～8歳	47	27.7	12.8	4.3	2.1	51.1	2.1
	9～11歳	39	35.9	5.1	－	2.6	56.4	－
	12～14歳	31	25.8	25.8	9.7	－	38.7	－
	15～17歳	25	44.0	16.0	12.0	－	28.0	－
	18～29歳	77	42.9	19.5	5.2	2.6	26.0	3.9
	30歳代	34	29.4	26.5	5.9	2.9	29.4	5.9
	40歳代	12	50.0	33.3	－	－	16.7	－
	無回答	2	50.0	－	－	－	50.0	－
全 体		290	34.5	18.3	5.5	1.7	36.6	3.4
有 療 帳 育 無 の 手 手 帳	療育手帳あり	72	15.3	37.5	19.4	－	18.1	9.7
	療育手帳なし	211	41.2	11.4	0.9	2.4	42.7	1.4
	無回答	7	28.6	28.6	－	－	42.9	－
全 体		290	34.5	18.3	5.5	1.7	36.6	3.4
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	270	34.4	19.3	5.6	1.9	35.2	3.7
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	10	70.0	20.0	－	－	10.0	－
	学習障がい(LD)のみ	2	50.0	50.0	－	－	－	－
	アスペルガー症候群のみ	32	62.5	9.4	－	－	25.0	3.1
	自閉症のみ	33	21.2	36.4	12.1	－	27.3	3.0
	広汎性発達障がいのみ	75	33.3	14.7	5.3	4.0	37.3	5.3
	知的障がいのみ	8	37.5	12.5	－	－	37.5	12.5
	発達障がいの重複	110	27.3	20.0	6.4	1.8	41.8	2.7
	診断は受けていない	20	35.0	5.0	5.0	－	55.0	－
	無回答	－	－	－	－	－	－	－

(3) 自宅や地域で生活するために必要なこと

問36 自宅や地域で生活するためには、どのような条件が必要だと思いますか。(〇は3つまで)

【図表9-80 自宅や地域で生活するために必要なこと】



「仕事があること」(57.6%)が6割弱を占めて最も多く、次いで「地域や職場の人たちが障がいについて理解があること」(44.7%)、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」(25.9%)となっている。

年齢別にみると、「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」、「地域で何でも相談できる相談員や相談窓口があること」等は18歳～40歳代で他の年代に比べて割合が高くなっている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人(知的障がいがある人)は、所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて、「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」(21.6%)や「短期入所など緊急時に宿泊できる場所があること」(20.3%)等の割合が高い一方、所持していない人(知的障がいを伴わない人)では「仕事があること」(65.5%)等の割合が高くなっている。

発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの人では「主治医や医療機関が近くにあること」(23.1%)、自閉症のみの人では「グループホームなどの仲間と共同生活できる場があること」(33.3%)の割合がそれぞれ他に比べて高い。

【図表9-81 年齢別、療育手帳の有無別 自宅や地域で生活するために必要なこと】(%)

		調査数（人）	自宅や地域で生活するために必要なこと															
			仕事があること	障がいについて理解があること	地域や職場の人たちが	ある地域でも相談窓口が	家族と同居できること	の家事の手伝いを頼めること	食事や掃除、洗濯など	と病院や施設に通えること	主治医や医療機関が近くにあること	場があること	仲間と共同生活できること	グループホームなどの	宿泊できるところがあること	短期入所など緊急時に	生活に必要な機関が近くにあること	スーパーや銀行などの
全 体		309	57.6	44.7	25.9	19.1	18.4	14.2	12.6	11.0	9.4	8.7						
年 齢	0～5歳	24	45.8	45.8	25.0	20.8	16.7	8.3	8.3	—	4.2	4.2						
	6～8歳	48	60.4	47.9	18.8	29.2	12.5	10.4	10.4	6.3	10.4	6.3						
	9～11歳	39	64.1	41.0	20.5	17.9	7.7	17.9	23.1	—	2.6	2.6						
	12～14歳	31	54.8	51.6	19.4	25.8	41.9	12.9	6.5	12.9	22.6	—						
	15～17歳	25	60.0	48.0	20.0	20.0	20.0	12.0	8.0	12.0	8.0	4.0						
	18～29歳	83	56.6	41.0	30.1	13.3	16.9	16.9	10.8	16.9	10.8	19.3						
	30歳代	42	61.9	45.2	40.5	14.3	23.8	19.0	16.7	16.7	4.8	9.5						
	40歳代	15	46.7	40.0	26.7	13.3	13.3	—	20.0	20.0	6.7	6.7						
	無回答	2	50.0	50.0	—	50.0	—	50.0	—	—	50.0	—						
全 体		309	57.6	44.7	25.9	19.1	18.4	14.2	12.6	11.0	9.4	8.7						
有 帳 無 の 手 帳	療育手帳あり	74	36.5	36.5	23.0	20.3	25.7	8.1	8.1	21.6	20.3	6.8						
	療育手帳なし	226	65.5	47.8	27.0	18.1	15.9	15.9	14.2	7.5	5.8	9.7						
	無回答	9	33.3	33.3	22.2	33.3	22.2	22.2	11.1	11.1	11.1	—						

		調査数(人)	自宅や地域で生活するために必要なこと									
			が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人	が、子育ての相手が頼める人
全 体		309	7.8	6.8	5.5	4.9	4.5	2.3	3.9	1.6	3.6	
年 齢	0～5歳	24	16.7	16.7	—	16.7	12.5	—	—	—	8.3	
	6～8歳	48	18.8	8.3	—	4.2	2.1	—	4.2	—	4.2	
	9～11歳	39	12.8	12.8	5.1	5.1	—	—	5.1	5.1	2.6	
	12～14歳	31	9.7	12.9	6.5	—	6.5	3.2	—	—	—	
	15～17歳	25	4.0	4.0	16.0	8.0	8.0	4.0	8.0	—	4.0	
	18～29歳	83	1.2	2.4	9.6	3.6	1.2	1.2	7.2	2.4	2.4	
	30歳代	42	2.4	—	—	4.8	7.1	7.1	—	2.4	2.4	
	40歳代	15	—	6.7	—	—	13.3	6.7	—	—	13.3	
	無回答	2	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—	
全 体		309	7.8	6.8	5.5	4.9	4.5	2.3	3.9	1.6	3.6	
有 帳 無 の 手 帳	療育手帳あり	74	8.1	10.8	13.5	8.1	9.5	2.7	6.8	1.4	5.4	
	療育手帳なし	226	8.0	5.8	3.1	3.5	3.1	2.2	3.1	1.3	2.7	
	無回答	9	—	—	—	11.1	—	—	—	11.1	11.1	

【図表9-82 発達障がいの診断別 自宅や地域で生活するために必要なこと】(%)

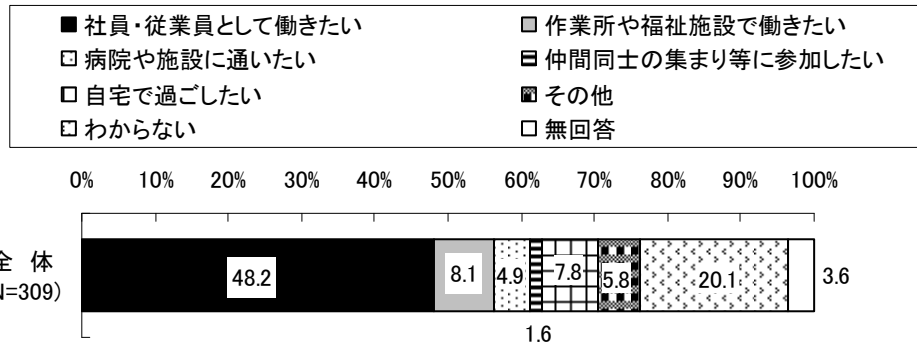
		調査数（人）	自宅や地域で生活するために必要なこと													
			仕事があること	障がいについて理解があること	地域や職場の人たちが	ある相談員や相談窓口ができる	地域でも相談できる	家族と同居できること	の家事の手伝いを頼める	食事や掃除、洗濯など	と病院や施設に通えること	主治医や医療機関が近くにあること	場があること	仲間や共同生活できる	グループホームなどの	宿泊できる場所が緊急時に
全 体		309	57.6	44.7	25.9	19.1	18.4	14.2	12.6	11.0	9.4	8.7				
発達障がいの診断	診断を受けている	288	56.6	45.1	26.0	18.8	19.8	15.3	12.5	11.8	10.1	8.7				
	注意欠陥多動性障がい（ADHD）のみ	11	72.7	36.4	27.3	18.2	9.1	18.2	9.1	—	9.1	18.2				
	学習障がい（LD）のみ	2	50.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—				
	アスペルガー症候群のみ	39	53.8	46.2	35.9	12.8	25.6	15.4	23.1	10.3	2.6	12.8				
	自閉症のみ	36	41.7	38.9	16.7	19.4	16.7	5.6	2.8	33.3	22.2	5.6				
	広汎性発達障がいのみ	79	59.5	46.8	31.6	21.5	19.0	12.7	11.4	7.6	10.1	6.3				
	知的障がいのみ	9	66.7	22.2	11.1	11.1	22.2	11.1	11.1	—	—	11.1				
	発達障がいの重複	112	58.0	48.2	22.3	19.6	20.5	20.5	13.4	10.7	9.8	8.9				
	診断は受けていない	21	71.4	38.1	23.8	23.8	—	—	14.3	—	—	9.5				
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—				

	調査数(人)	自宅や地域で生活するために必要なこと									
		がりがい、子育ての相手を頼めること	子育の手伝いを頼めること	緊急時に子どもを預けられる場所があること	のガイドヘルパー(外出サビズがあること)	施設で働けること	が夜の介護を頼める人	が昼間の介護を頼める人	その他	特にな	無回答
全 体	309	7.8	6.8	5.5	4.9	4.5	2.3	3.9	1.6	3.6	
発達障がいの診断	診断を受けている	288	7.6	6.9	5.6	5.2	4.9	2.1	4.2	1.4	2.8
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	-	-	-	-	9.1	-	-	9.1	-
	学習障がい(LD)のみ	2	50.0	50.0	-	-	-	-	-	-	-
	アスペルガー症候群のみ	39	7.7	7.7	2.6	5.1	2.6	2.6	-	2.6	2.6
	自閉症のみ	36	5.6	8.3	13.9	11.1	8.3	2.8	8.3	-	5.6
	広汎性発達障がいのみ	79	7.6	10.1	1.3	7.6	5.1	2.5	3.8	1.3	2.5
	知的障がいのみ	9	22.2	-	22.2	11.1	-	-	-	-	11.1
	発達障がいの重複	112	7.1	4.5	6.3	1.8	4.5	1.8	5.4	0.9	1.8
	診断は受けていない	21	9.5	4.8	4.8	-	-	4.8	-	4.8	14.3
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(4) 希望する日中の過ごし方

問37 あなたは、今後、日中、主に何をして過ごしたいと思いますか。(〇は1つだけ)

【図表9-83 希望する日中の過ごし方】



「社員・従業員として働きたい」(48.2%) が半数弱を占めて最も多く、次いで「わからない」(20.1%) となっている。その他はいずれも1割未満である。

年齢別にみると、18～29歳と30歳代では「社員・従業員として働きたい」が6割前後を占めて高くなっている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持していない人（知的障がいを伴わない人）は、所持している人（知的障がいがある人）に比べて「社員・従業員として働きたい」(53.1%) の割合が高く、半数強を占めている。

発達障がいの診断別にみると、自閉症のみの人は他に比べて「作業所や福祉施設で働きたい」(33.3%) の割合が3割強と高い。

【図表9-84 年齢別、療育手帳の有無別、発達障がいの診断別 希望する日中の過ごし方】(%)

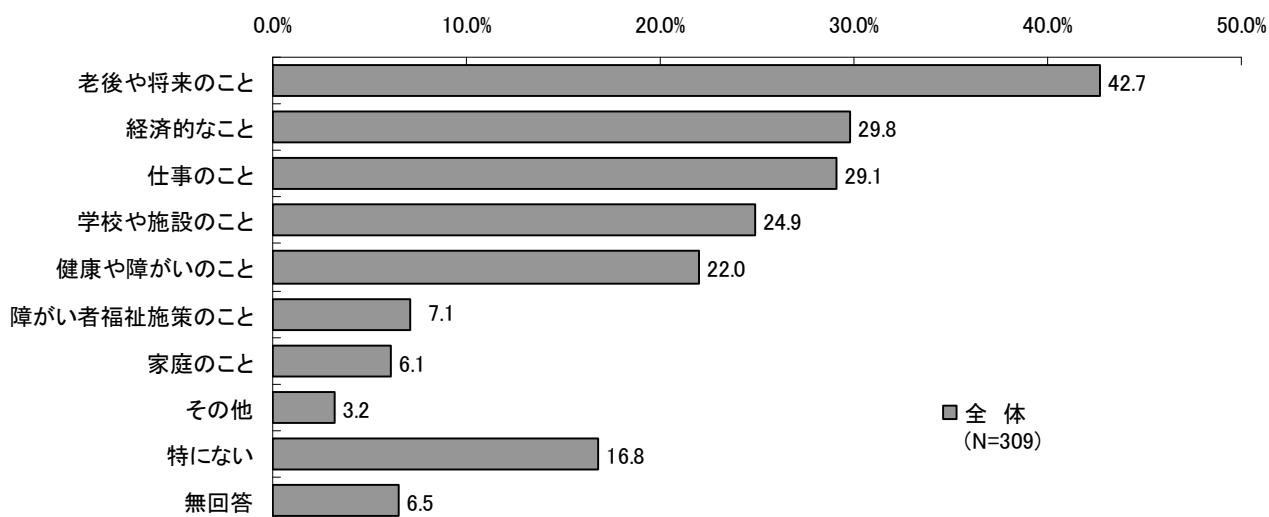
		調査数（人）	希望する日中の過ごし方							
			いと社員・従業員として働きた	い施設や働きた	作業所や福祉	通病院や施設に	しまり等に参加	仲間同士に集	たい自宅で過ごし	その他
全 体		309	48.2	8.1	4.9	1.6	7.8	5.8	20.1	3.6
年 齢	0～5歳	24	41.7	－	12.5	4.2	－	4.2	25.0	12.5
	6～8歳	48	37.5	2.1	2.1	－	6.3	12.5	35.4	4.2
	9～11歳	39	41.0	2.6	－	－	7.7	7.7	35.9	5.1
	12～14歳	31	35.5	12.9	3.2	6.5	16.1	9.7	16.1	－
	15～17歳	25	48.0	16.0	8.0	－	12.0	4.0	12.0	－
	18～29歳	83	57.8	13.3	4.8	－	8.4	3.6	9.6	2.4
	30歳代	42	64.3	4.8	7.1	2.4	7.1	－	11.9	2.4
	40歳代	15	46.7	13.3	6.7	6.7	－	－	20.0	6.7
無回答		2	－	－	－	－	－	50.0	50.0	－
全 体		309	48.2	8.1	4.9	1.6	7.8	5.8	20.1	3.6
療育手帳の有無	療育手帳あり	74	35.1	27.0	9.5	1.4	6.8	2.7	12.2	5.4
	療育手帳なし	226	53.1	1.8	3.1	1.8	8.0	6.6	23.0	2.7
	無回答	9	33.3	11.1	11.1	－	11.1	11.1	11.1	11.1
全 体		309	48.2	8.1	4.9	1.6	7.8	5.8	20.1	3.6
発達障がいの診断	診断を受けている	288	47.6	8.7	5.2	1.7	8.3	5.9	19.1	3.5
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	45.5	－	－	－	－	18.2	27.3	9.1
	学習障がい(LD)のみ	2	－	50.0	－	－	－	－	－	50.0
	アスペルガー症候群のみ	39	48.7	5.1	5.1	2.6	12.8	5.1	17.9	2.6
	自閉症のみ	36	41.7	33.3	8.3	－	－	5.6	8.3	2.8
	広汎性発達障がいのみ	79	53.2	2.5	2.5	1.3	13.9	7.6	15.2	3.8
	知的障がいのみ	9	44.4	－	11.1	－	11.1	－	11.1	22.2
	発達障がいの重複	112	46.4	7.1	6.3	2.7	6.3	4.5	25.9	0.9
	診断は受けていない	21	57.1	－	－	－	－	4.8	33.3	4.8
無回答		－	－	－	－	－	－	－	－	

8. 情報収集や相談について

(1) 困っていることや心配なこと

問38 あなたは、今の生活の中で困っていることや心配なこと、悩んでいることがありますか。
(○は3つまで)

【図表9-85 困っていることや心配なこと】



「老後や将来のこと」(42.7%)が4割を超えて最も多く、次いで「経済的なこと」(29.8%)、「仕事のこと」(29.1%)、「学校や施設のこと」(24.9%)となっている。

年齢別にみると、「老後や将来のこと」や「経済的なこと」、「仕事のこと」等は15歳以上で割合が高くなっている。

療育手帳の有無別にみると、所持している人(知的障がいがある人)は、療育手帳を所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて「老後や将来のこと」(58.1%)や「学校や施設のこと」(33.8%)の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの人では「経済的なこと」(48.7%)の割合が高く、半数弱となっている。また、自閉症のみの人では「老後や将来のこと」(55.6%)や「障がい者福祉施策のこと」(22.2%)の割合がそれぞれ他に比べて高い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「経済的なこと」(41.0%)や「健康や障がいのこと」(34.4%)割合が高くなっている。

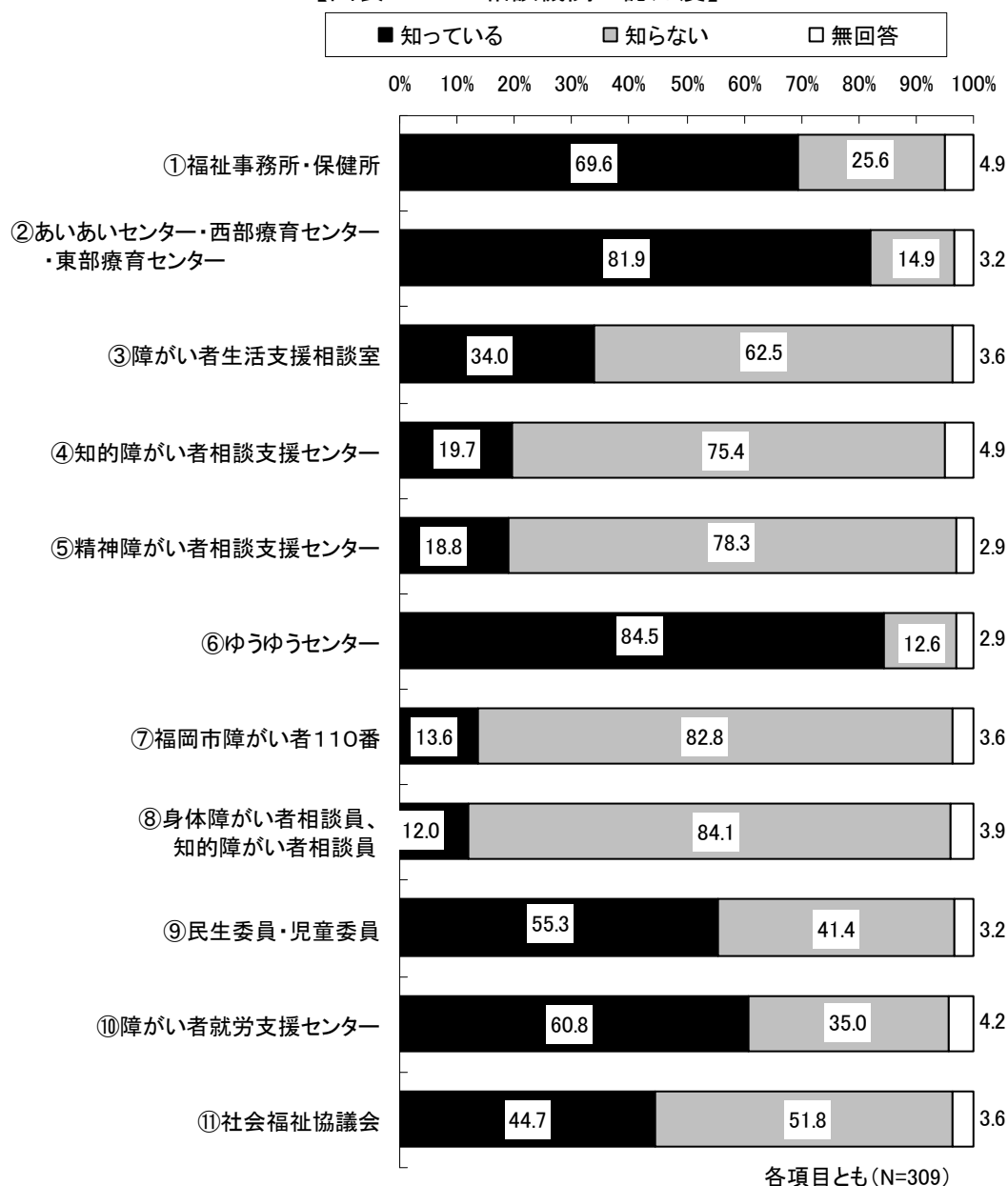
【図表9-86 年齢別、療育手帳の有無別、発達障がいの診断別、
二次的な情緒や行動等の問題の有無別 困っていることや心配なこと】(%)

		調査数(人)	困っていることや心配なこと									
			老後や将来のこと	経済的なこと	仕事のこと	学校や施設のこと	と健康や障がいのこと	障がい者福祉施策	家庭のこと	その他	特にない	無回答
全 体		309	42.7	29.8	29.1	24.9	22.0	7.1	6.1	3.2	16.8	6.5
年 齢	0～5歳	24	41.7	12.5	16.7	66.7	33.3	4.2	4.2	-	4.2	4.2
	6～8歳	48	20.8	10.4	4.2	31.3	6.3	2.1	2.1	2.1	39.6	14.6
	9～11歳	39	20.5	17.9	20.5	48.7	10.3	2.6	5.1	2.6	25.6	5.1
	12～14歳	31	45.2	9.7	12.9	45.2	19.4	9.7	9.7	6.5	25.8	-
	15～17歳	25	52.0	40.0	28.0	32.0	24.0	8.0	4.0	4.0	8.0	4.0
	18～29歳	83	57.8	44.6	49.4	6.0	27.7	9.6	7.2	2.4	8.4	4.8
	30歳代	42	50.0	50.0	47.6	-	28.6	9.5	7.1	2.4	4.8	9.5
	40歳代	15	53.3	33.3	26.7	-	40.0	13.3	6.7	6.7	13.3	6.7
	無回答	2	-	50.0	-	-	-	-	50.0	50.0	50.0	-
全 体		309	42.7	29.8	29.1	24.9	22.0	7.1	6.1	3.2	16.8	6.5
有 帳 無 の 療 育 手 帳	療育手帳あり	74	58.1	31.1	23.0	33.8	27.0	10.8	5.4	-	12.2	4.1
	療育手帳なし	226	37.2	29.6	30.5	22.6	20.4	5.8	6.6	4.4	18.6	7.1
	無回答	9	55.6	22.2	44.4	11.1	22.2	11.1	-	-	11.1	11.1
全 体		309	42.7	29.8	29.1	24.9	22.0	7.1	6.1	3.2	16.8	6.5
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	43.8	29.5	28.5	25.7	22.9	7.3	6.3	3.5	16.0	6.6
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	36.4	27.3	36.4	27.3	18.2	9.1	9.1	-	9.1	18.2
	学習障がい(LD)のみ	2	-	-	-	100.0	-	-	-	-	-	-
	アスペルガー症候群のみ	39	48.7	48.7	41.0	7.7	28.2	5.1	5.1	-	20.5	2.6
	自閉症のみ	36	55.6	33.3	27.8	16.7	19.4	22.2	2.8	2.8	13.9	5.6
	広汎性発達障がいのみ	79	41.8	22.8	31.6	27.8	20.3	3.8	11.4	5.1	12.7	6.3
	知的障がいのみ	9	22.2	22.2	22.2	44.4	11.1	-	11.1	-	-	33.3
	発達障がいの重複	112	42.9	27.7	22.3	30.4	25.9	6.3	3.6	4.5	19.6	5.4
	診断は受けていない	21	28.6	33.3	38.1	14.3	9.5	4.8	4.8	-	28.6	4.8
	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全 体		309	42.7	29.8	29.1	24.9	22.0	7.1	6.1	3.2	16.8	6.5
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題	二次的な問題あり	122	50.8	41.0	26.2	18.0	34.4	12.3	6.6	3.3	9.8	6.6
	過去に二次的な問題あり	54	51.9	25.9	44.4	25.9	20.4	7.4	9.3	7.4	7.4	5.6
	二次的な問題なし	124	30.6	21.0	25.0	30.6	11.3	2.4	4.8	1.6	28.2	6.5
	無回答	9	44.4	22.2	33.3	33.3	11.1	-	-	-	11.1	11.1

(2) 相談機関の認知度

問39 福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる場として、次のような場所（機関）があります。あなたは、これらの相談場所（機関）があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。さらに、今後利用したいと思いますか。①～⑪の項目ごとに、認知度と利用状況・利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

【図表9-87 相談機関の認知度】



相談機関の認知度（「知っている」の割合）は、「⑥ゆうゆうセンター」（84.5%）と「②あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」（81.9%）が8割を超えており、以下「①福祉事務所・保健所」（69.6%）、「⑩障がい者就労支援センター」（60.8%）、「⑨民生委員・児童委員」（55.3%）となっている。

年齢別にみると、「②あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」は概ね年齢が低いほど認知度も高く、14歳以下では8割以上が認知している。また、「⑩障がい者就労支援センター」は概ね年齢が上がるほど認知度も高く、40歳代では9割弱（86.7%）が知っている。

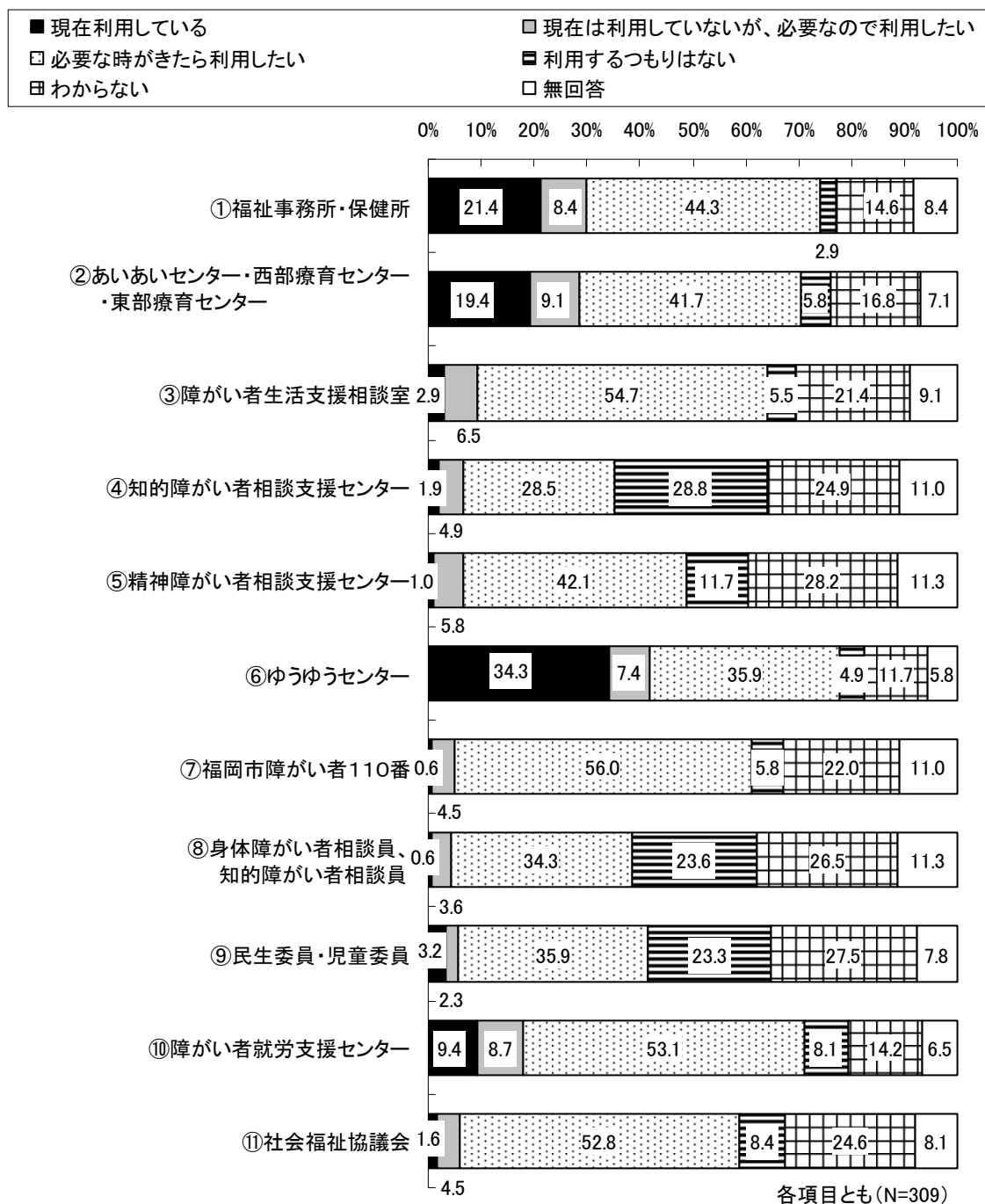
【図表9-88 年齢別 相談機関の認知度（知っている）】（％）

		調査数（人）	相談機関の認知度（知っている）										
			① 福祉事務所・保健所	② あいあいセンター・東部療育センター	③ 障がい者生活支援相談室	④ 知的障がい者相談支援センター	⑤ 精神障がい者相談支援センター	⑥ ゆうゆうセンター	⑦ 福岡市障がい者１１０番	⑧ 身体的障がい者相談員、知的障がい者相談員	⑨ 民生委員・児童委員	⑩ 障がい者就労支援センター	⑪ 社会福祉協議会
全 体		309	69.6	81.9	34.0	19.7	18.8	84.5	13.6	12.0	55.3	60.8	44.7
年 齢	０～５歳	24	87.5	95.8	45.8	12.5	16.7	70.8	8.3	16.7	66.7	50.0	45.8
	６～８歳	48	68.8	91.7	41.7	18.8	16.7	87.5	10.4	10.4	64.6	54.2	52.1
	９～１１歳	39	56.4	87.2	28.2	15.4	15.4	92.3	7.7	10.3	53.8	41.0	30.8
	１２～１４歳	31	71.0	83.9	25.8	19.4	6.5	100.0	19.4	9.7	80.6	54.8	64.5
	１５～１７歳	25	60.0	76.0	32.0	28.0	20.0	92.0	20.0	28.0	52.0	60.0	44.0
	１８～２９歳	83	71.1	77.1	31.3	19.3	21.7	79.5	15.7	7.2	44.6	69.9	38.6
	３０歳代	42	73.8	69.0	33.3	23.8	28.6	71.4	9.5	11.9	47.6	73.8	47.6
	４０歳代	15	80.0	80.0	46.7	26.7	20.0	93.3	26.7	20.0	46.7	86.7	40.0
無回答		2	-	100.0	-	-	-	100.0	-	-	50.0	-	50.0

(3) 相談機関の利用状況・利用意向

問39 福岡市には、障がいのある方からのさまざまな相談事に応じる場として、次のような場所（機関）があります。あなたは、これらの相談場所（機関）があることを知っていましたか。また、利用したことがありますか。さらに、今後利用したいと思いますか。①～⑪の項目ごとに、認知度と利用状況・利用意向のそれぞれについて○をつけてください。

【図表9-89 相談機関の利用状況・利用意向】



相談機関の利用状況・利用意向についてみると、利用状況は「⑥ゆうゆうセンター」(34.3%)や「①福祉事務所・保健所」(21.4%)、「②あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」(19.4%)で高い。

「現在利用している」と「現在は利用していないが、必要なので利用したい」の合計を『利用意向』として整理すると、「⑥ゆうゆうセンター」(41.7%)が4割以上で最も多く、これに「①福祉事務所・保健所」(29.8%)、「②あいあいセンター・西部療育センター・東部療育センター」(28.5%)、「⑩障がい者就労支援センター」(18.1%)が2割前後で続いている。

年齢別、発達障がいの診断別にみても大きな違いはみられない。

【図表9-90 年齢別、発達障がいの診断別

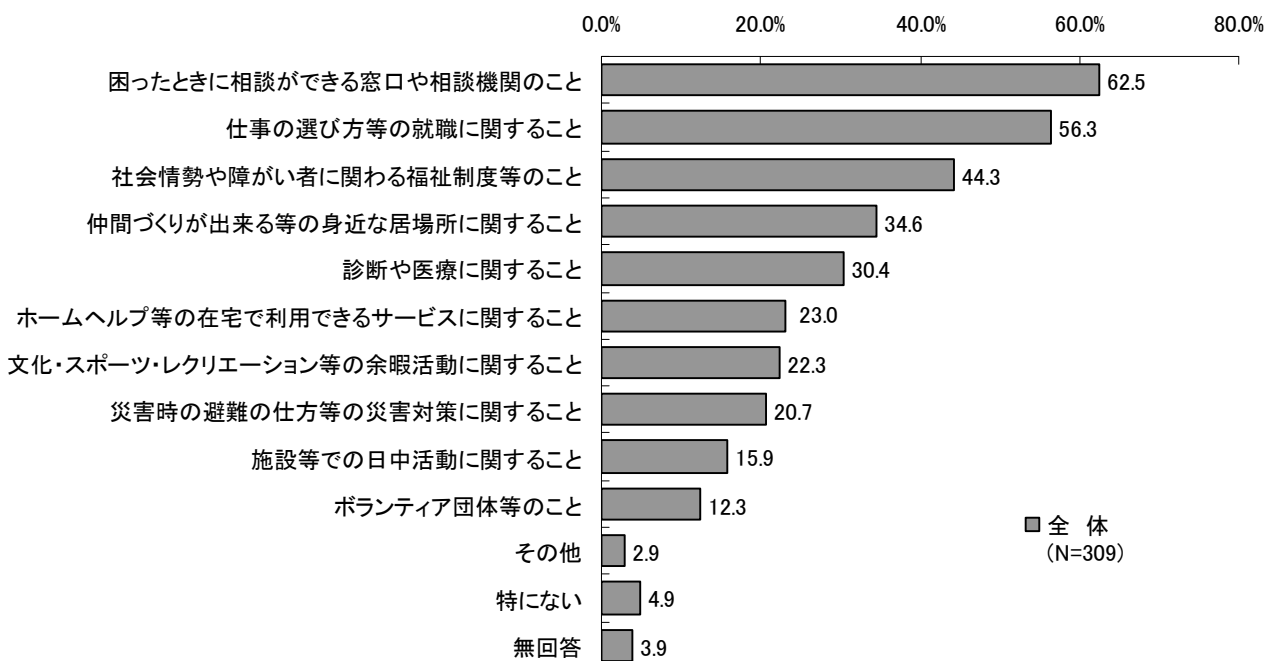
相談機関の利用意向（現在利用＋必要で利用したい）】(%)

		調査数(人)	相談機関の利用意向(現在利用＋必要で利用したい)										
			①福祉事務所・保健所	②あいあいセンター・西部療育センター	③障がい者生活支援相談室	④知的障がい者相談支援センター	⑤精神障がい者相談支援センター	⑥ゆうゆうセンター	⑦福岡市障がい者110番	⑧障がい者相談員、知的身体障がい者相談員	⑨民生委員・児童委員	⑩障がい者就労支援センター	⑪社会福祉協議会
全 体		309	29.8	28.5	9.4	6.8	6.8	41.7	5.2	4.2	5.5	18.1	6.1
年 齢	0～5歳	24	25.0	95.8	8.3	—	—	16.7	—	—	—	4.2	—
	6～8歳	48	14.6	39.6	8.3	4.2	—	31.3	—	2.1	4.2	—	6.3
	9～11歳	39	20.5	20.5	5.1	10.3	—	48.7	—	5.1	5.1	5.1	2.6
	12～14歳	31	22.6	19.4	6.5	6.5	6.5	54.8	9.7	3.2	12.9	6.5	3.2
	15～17歳	25	40.0	12.0	8.0	16.0	12.0	60.0	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
	18～29歳	83	39.8	18.1	10.8	7.2	9.6	41.0	6.0	3.6	6.0	36.1	6.0
	30歳代	42	33.3	19.0	11.9	2.4	14.3	35.7	9.5	7.1	4.8	38.1	11.9
	40歳代	15	46.7	33.3	20.0	13.3	13.3	60.0	13.3	6.7	—	20.0	13.3
	無回答	2	—	50.0	—	—	—	50.0	—	—	—	—	—
全 体		309	29.8	28.5	9.4	6.8	6.8	41.7	5.2	4.2	5.5	18.1	6.1
発 達 障 がい の 診 断	診断を受けている	288	30.9	29.9	9.7	6.6	6.9	42.0	5.6	4.5	5.6	18.4	5.6
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	9.1	27.3	9.1	—	9.1	27.3	9.1	9.1	9.1	9.1	—
	学習障がい(LD)のみ	2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	アスペルガー症候群のみ	39	23.1	7.7	7.7	—	10.3	33.3	5.1	2.6	5.1	23.1	7.7
	自閉症のみ	36	47.2	41.7	22.2	22.2	11.1	58.3	11.1	11.1	22.2	33.3	16.7
	広汎性発達障がいのみ	79	27.8	38.0	12.7	5.1	5.1	34.2	3.8	2.5	—	19.0	1.3
	知的障がいのみ	9	33.3	33.3	22.2	—	—	44.4	—	—	—	11.1	11.1
	発達障がいの重複	112	33.0	28.6	3.6	6.3	6.3	47.3	5.4	4.5	4.5	13.4	4.5
	診断は受けていない	21	14.3	9.5	4.8	9.5	4.8	38.1	—	—	4.8	14.3	14.3
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(4) 知りたい情報

問40 あなたは、生活に関することで、どのような情報が知りたいですか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表9-91 知りたい情報】



「困ったときに相談ができる窓口や相談機関のこと」(62.5%)が6割強と最も多く、次いで「仕事の選び方等の就職に関すること」(56.3%)、「社会情勢や障がい者に関わる福祉制度等のこと」(44.3%)、「仲間づくりが出来る等の身近な居場所に関すること」(34.6%)となっている。

年齢別にみると、12～17歳では他の年代に比べて「仕事の選び方等の就職に関すること」の割合が高く、7割前後を占めている。

療育手帳の有無別にみると、所持している人(知的障がいがある人)は、療育手帳を所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて「文化・スポーツ・レクリエーション等の余暇活動に関すること」(37.8%)や「施設等での日中活動に関すること」、「災害時の避難の仕方等の災害対策に関すること」(それぞれ33.8%)、「ボランティア団体等のこと」(24.3%)等の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、アスペルガー症候群のみの人では他に比べて「仕事の選び方等の就職に関すること」(79.5%)の割合が高くなっている。また、自閉症のみの人では「社会情勢や障がい者に関わる福祉制度等のこと」(66.7%)や「文化・スポーツ・レクリエーション等の余暇活動に関すること」(38.9%)等の割合が高い。

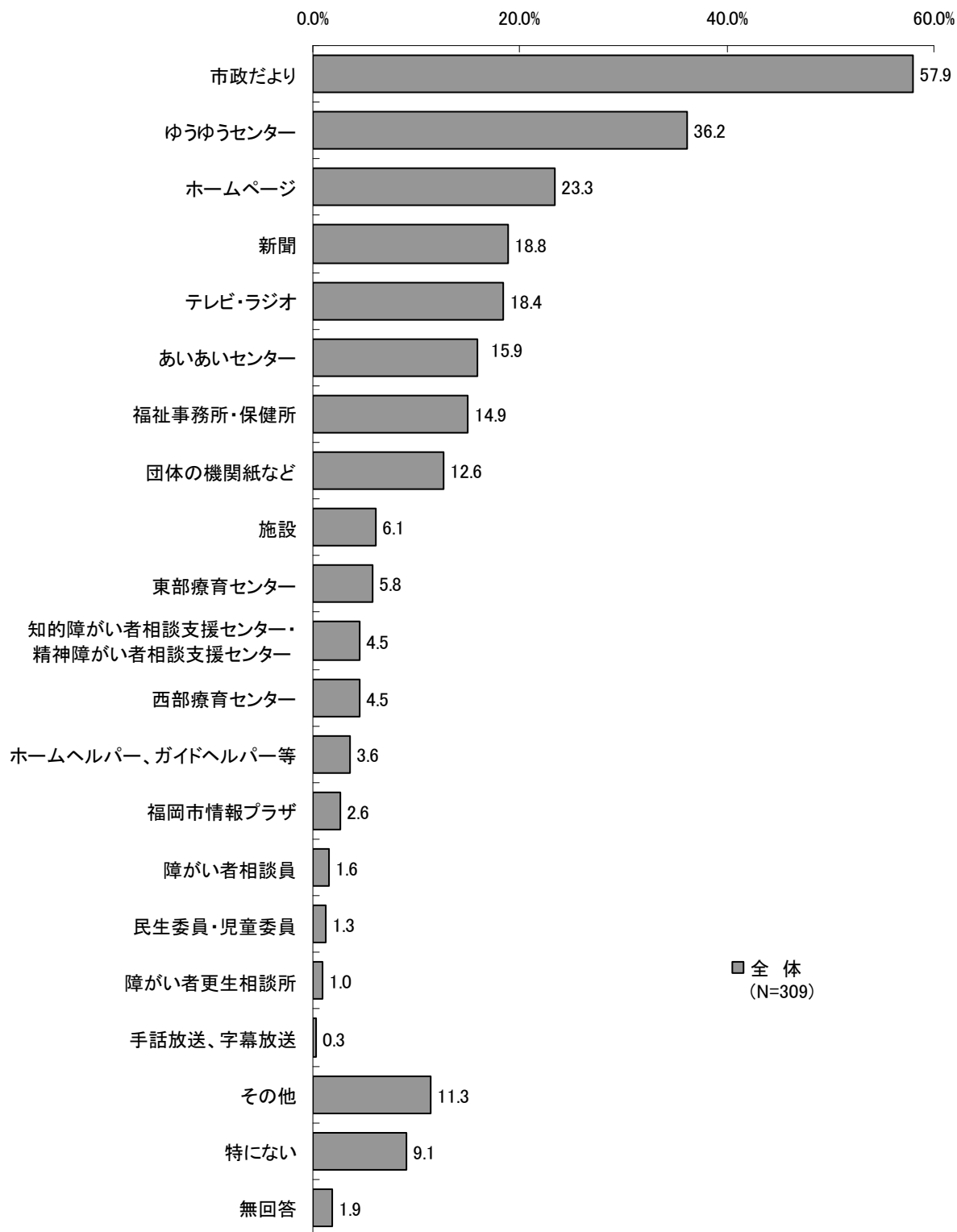
【図表9-92 年齢別、療育手帳の有無別、発達障がいの診断別 知りたい情報】(%)

		調 査 数 （ 人 ）	知 り た い 情 報															
			相 談 機 関 の こ と	困 っ た と き に 相 談 が で き る 窓 口 や	と 仕 事 の 選 び 方 等 の 就 職 に 関 す る こ と	制 度 等 の こ と	社 会 情 勢 や 障 が い 者 に 関 わ る 福 祉	場 所 に 関 す る こ と	仲 間 づ く り が 出 来 る 等 の 身 近 な 居	診 断 や 医 療 に 関 す る こ と	ホ ー ム ヘル プ 等 の 在 宅 で 利 用 で き	文 化 ・ ス ポ ー ツ ・ レ ク リ エ ー シ ョ ン 等 の 余 暇 活 動 に 関 す る こ と	災 害 時 の 避 難 の 仕 方 等 の 災 害 対 策 に 関 す る こ と	施 設 等 で の 日 中 活 動 に 関 す る こ と	ボ ラ ン テ ィ ア 団 体 等 の こ と	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		309	62.5	56.3	44.3	34.6	30.4	23.0	22.3	20.7	15.9	12.3	2.9	4.9	3.9			
年 齢	0～5歳	24	50.0	45.8	29.2	25.0	33.3	16.7	16.7	25.0	29.2	8.3	—	8.3	8.3			
	6～8歳	48	58.3	54.2	37.5	33.3	25.0	8.3	16.7	6.3	10.4	12.5	6.3	6.3	2.1			
	9～11歳	39	79.5	64.1	35.9	46.2	25.6	10.3	28.2	15.4	15.4	5.1	—	7.7	2.6			
	12～14歳	31	64.5	71.0	54.8	38.7	35.5	29.0	22.6	32.3	22.6	16.1	—	3.2	—			
	15～17歳	25	48.0	68.0	44.0	36.0	28.0	20.0	32.0	28.0	24.0	24.0	4.0	4.0	—			
	18～29歳	83	65.1	54.2	54.2	33.7	37.3	30.1	25.3	30.1	13.3	15.7	6.0	4.8	2.4			
	30歳代	42	64.3	50.0	42.9	33.3	26.2	33.3	16.7	11.9	11.9	7.1	—	2.4	9.5			
	40歳代	15	53.3	40.0	40.0	13.3	26.7	33.3	20.0	6.7	6.7	6.7	—	—	13.3			
無回答	2	50.0	50.0	50.0	100.0	—	50.0	—	50.0	50.0	—	—	—	—				
全 体		309	62.5	56.3	44.3	34.6	30.4	23.0	22.3	20.7	15.9	12.3	2.9	4.9	3.9			
療 育 手 帳 の 有 無	療育手帳あり	74	59.5	40.5	54.1	33.8	32.4	31.1	37.8	33.8	33.8	24.3	2.7	5.4	4.1			
	療育手帳なし	226	63.3	61.1	41.2	35.0	30.1	19.9	17.3	16.8	10.2	8.8	3.1	4.9	4.0			
	無回答	9	66.7	66.7	44.4	33.3	22.2	33.3	22.2	11.1	11.1	—	—	—	—			
全 体		309	62.5	56.3	44.3	34.6	30.4	23.0	22.3	20.7	15.9	12.3	2.9	4.9	3.9			
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	62.2	58.0	45.5	35.8	30.2	23.6	23.6	22.2	16.7	12.8	3.1	4.2	4.2			
	注意欠陥多動性障がい （ADHD）のみ	11	54.5	54.5	36.4	27.3	36.4	9.1	—	9.1	9.1	9.1	9.1	—	18.2			
	学習障がい（LD）のみ	2	100.0	50.0	50.0	50.0	—	—	50.0	—	—	—	—	—	—			
	アスペルガー症候群のみ	39	59.0	79.5	43.6	38.5	30.8	25.6	17.9	17.9	12.8	5.1	—	—	5.1			
	自閉症のみ	36	58.3	41.7	66.7	27.8	25.0	30.6	38.9	30.6	30.6	13.9	8.3	2.8	5.6			
	広汎性発達障がいのみ	79	65.8	57.0	41.8	31.6	30.4	17.7	17.7	17.7	11.4	11.4	2.5	6.3	3.8			
	知的障がいのみ	9	66.7	55.6	44.4	22.2	44.4	11.1	22.2	22.2	—	11.1	11.1	—	11.1			
	発達障がいの重複	112	61.6	57.1	42.9	42.0	30.4	27.7	26.8	25.9	19.6	17.0	1.8	5.4	1.8			
	診断は受けていない	21	66.7	33.3	28.6	19.0	33.3	14.3	4.8	—	4.8	4.8	—	14.3	—			
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—			

(5) 福岡市の福祉施策情報の入手先

問 4 1 福岡市が実施している福祉施策について、あなたが知る手掛りとなっているのは、次のどれですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-93 福岡市の福祉施策情報の入手先】



「市政だより」(57.9%) が6割弱と最も多く、次いで「ゆうゆうセンター」(36.2%)、「ホームページ」(23.3%)、「新聞」(18.8%) となっている。

年齢別にみると、0～5歳では他の年代に比べて「東部療育センター」（50.0％）や「西部療育センター」（16.7％）等の割合が高くなっている。また、12～14歳では「市政だより」（80.6％）等の割合が高い。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人（知的障がいがある人）では所持していない人（知的障がいを伴わない人）に比べて「市政だより」（70.3％）や「福祉事務所・保健所」（25.7％）等の割合が高くなっている。

【図表9-94 年齢別、療育手帳の有無別 福岡市の福祉施策情報の入手先】（％）

		調 査 数 （ 人 ）	福岡市の福祉施策情報の入手先										
			市 政 だ よ り	ゆ う ゆ う セ ン タ ー	ホ ー ム ペ ー ジ	新 聞	テ レ ビ ・ ラ ジ オ	あい あい セ ン タ ー	福 祉 事 務 所 ・ 保 健 所	団 体 の 機 関 紙 な ど	施 設	東 部 療 育 セ ン タ ー	知的障がい者相談センター・精神障がい者相談センター
全 体		309	57.9	36.2	23.3	18.8	18.4	15.9	14.9	12.6	6.1	5.8	4.5
年 齢	0～5歳	24	62.5	4.2	29.2	8.3	8.3	25.0	8.3	－	4.2	50.0	－
	6～8歳	48	66.7	31.3	29.2	18.8	20.8	14.6	18.8	8.3	2.1	6.3	2.1
	9～11歳	39	61.5	48.7	20.5	5.1	17.9	12.8	7.7	7.7	－	－	－
	12～14歳	31	80.6	41.9	16.1	22.6	16.1	6.5	9.7	16.1	3.2	6.5	－
	15～17歳	25	56.0	56.0	28.0	16.0	20.0	4.0	12.0	8.0	4.0	－	－
	18～29歳	83	44.6	34.9	19.3	21.7	16.9	20.5	16.9	19.3	12.0	1.2	9.6
	30歳代	42	47.6	33.3	28.6	31.0	26.2	16.7	21.4	16.7	9.5	－	7.1
	40歳代	15	73.3	40.0	20.0	20.0	20.0	20.0	20.0	13.3	6.7	－	13.3
無回答		2	50.0	50.0	－	－	－	50.0	－	－	－	－	－
全 体		309	57.9	36.2	23.3	18.8	18.4	15.9	14.9	12.6	6.1	5.8	4.5
有 帳 療 育 手 無 の 手	療育手帳あり	74	70.3	29.7	23.0	16.2	17.6	12.2	25.7	17.6	13.5	16.2	9.5
	療育手帳なし	226	54.0	38.9	23.0	19.0	17.3	16.4	11.5	11.5	3.5	2.7	3.1
	無回答	9	55.6	22.2	33.3	33.3	55.6	33.3	11.1	－	11.1	－	－

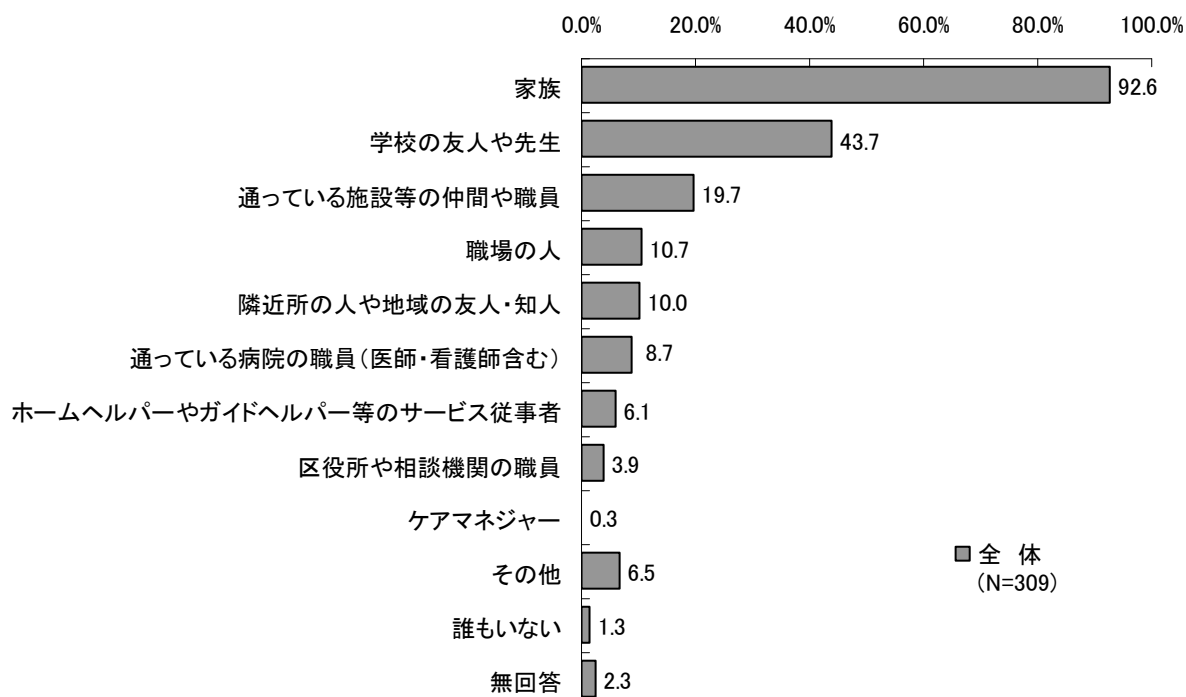
		調 査 数 （ 人 ）	福岡市の福祉施策情報の入手先									
			西 部 療 育 セ ン タ ー	ホ ー ム ヘル パー 等	福 岡 市 情 報 プ ラ ザ	障 が い 者 相 談 員	民 生 委 員 ・ 児 童 委 員	障 が い 者 更 生 相 談 所	手 話 放 送 、 字 幕 放 送	そ の 他	特 に な い	無 回 答
全 体		309	4.5	3.6	2.6	1.6	1.3	1.0	0.3	11.3	9.1	1.9
年 齢	0～5歳	24	16.7	－	4.2	－	－	－	－	－	4.2	4.2
	6～8歳	48	10.4	2.1	－	2.1	4.2	－	－	8.3	6.3	2.1
	9～11歳	39	7.7	－	－	－	－	－	－	17.9	10.3	－
	12～14歳	31	－	3.2	－	－	－	－	－	12.9	6.5	－
	15～17歳	25	－	4.0	－	－	－	－	－	16.0	12.0	－
	18～29歳	83	2.4	8.4	4.8	3.6	2.4	1.2	1.2	12.0	16.9	1.2
	30歳代	42	－	2.4	4.8	2.4	－	4.8	－	11.9	2.4	7.1
	40歳代	15	－	－	6.7	－	－	－	－	6.7	－	－
無回答		2	－	－	－	－	－	－	－	－	－	
全 体		309	4.5	3.6	2.6	1.6	1.3	1.0	0.3	11.3	9.1	1.9
有 帳 療 育 手 無 の 手	療育手帳あり	74	6.8	10.8	2.7	4.1	4.1	2.7	1.4	13.5	6.8	2.7
	療育手帳なし	226	4.0	1.3	2.7	0.4	0.4	0.4	－	10.2	10.2	1.8
	無回答	9	－	－	－	11.1	－	－	－	22.2	－	－

9. 地域とのかかわり・福祉施策全般について

(1) 一緒に過ごしたり会話をする人

問42 あなたは、ふだんどのような人と一緒にすごしたり、会話をする人が多いですか。
(○はあてはまるものすべて)

【図表9-95 一緒に過ごしたり会話をする人】



「家族」(92.6%)が9割を超えて最も多く、次いで「学校の友人や先生」(43.7%)等の割合が高くなっている。

年齢別にみると、6～17歳では「学校の友人や先生」の割合が他の年代に比べて高く、8割弱～9割弱となっている。

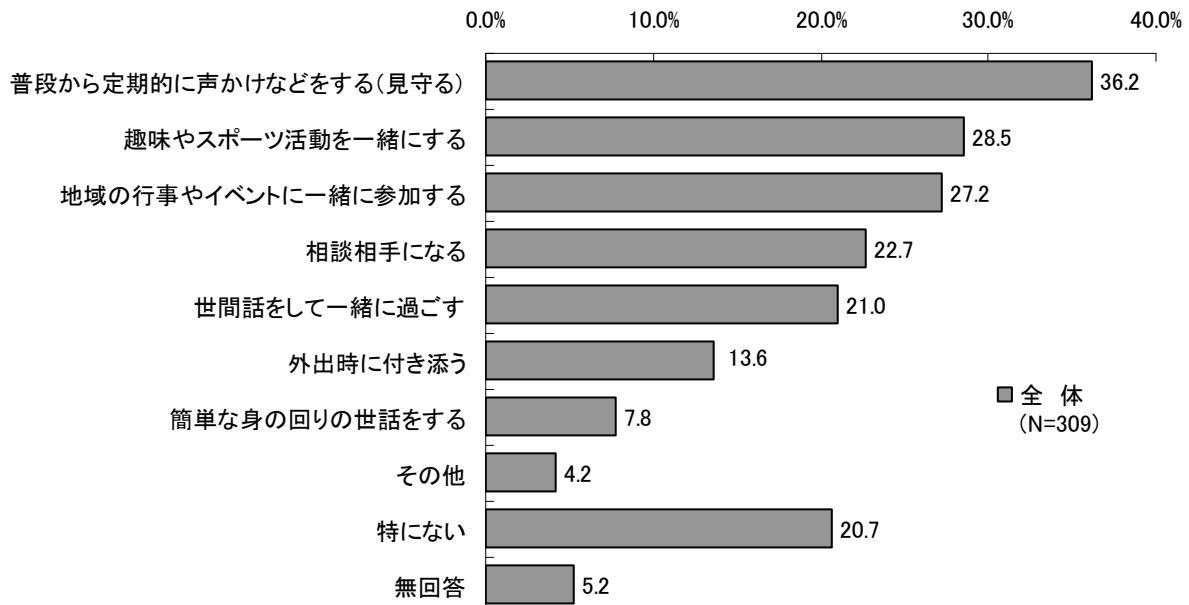
【図表9-96 年齢別 一緒に過ごしたり会話をする人】(%)

	調査数(人)	一緒に過ごしたり会話をする人											
		家族	学校の友人や先生	通っている施設等の仲間や職員	職場の人	隣近所の人や地域の友人・知人	通っている病院の職員(医師・看護師含む)	ホームヘルパーやガイドヘルパー等のサービス従事者	区役所や相談機関の職員	ケアマネジャー	その他	誰もいない	無回答
全 体	309	92.6	43.7	19.7	10.7	10.0	8.7	6.1	3.9	0.3	6.5	1.3	2.3
年 齢	0～5歳	24	91.7	25.0	54.2	—	4.2	8.3	—	—	8.3	—	4.2
	6～8歳	48	95.8	87.5	6.3	—	14.6	—	2.1	—	—	—	2.1
	9～11歳	39	97.4	76.9	2.6	—	20.5	—	2.6	—	5.1	—	—
	12～14歳	31	100.0	77.4	—	—	12.9	—	9.7	—	9.7	—	—
	15～17歳	25	100.0	76.0	—	—	16.0	16.0	8.0	4.0	—	—	—
	18～29歳	83	91.6	14.5	31.3	26.5	3.6	12.0	10.8	9.6	8.4	3.6	2.4
	30歳代	42	81.0	2.4	28.6	21.4	7.1	19.0	7.1	2.4	7.1	2.4	7.1
	40歳代	15	80.0	—	33.3	13.3	6.7	20.0	6.7	6.7	20.0	—	—
	無回答	2	100.0	50.0	50.0	—	—	—	—	—	—	—	—

(2) 地域から受けた支援・交流の内容

問43 あなたは、地域の方が何かボランティア活動をしたいと思っている場合、どのような支援・交流があったらいいと思いますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-97 地域から受けた支援・交流の内容】



「普段から定期的に声かけなどをする(見守る)」(36.2%)が4割弱を占めて最も多く、次いで「趣味やスポーツ活動と一緒にする」(28.5%)、「地域の行事やイベントに参加する」(27.2%)となっている。また、「特にない」(20.7%)が2割となっている。

年齢別にみると、15～17歳では他の年代に比べて「外出時に付き添う」(28.0%)の割合が高い。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人(知的障がいがある人)では所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて「普段から定期的に声かけなどをする(見守る)」(50.0%)や「地域の行事やイベントと一緒に参加する」、「趣味やスポーツ活動と一緒にする」(それぞれ36.5%)の割合が高くなっている。

【図表9-98 年齢別、療育手帳の有無別 地域から受けた支援・交流の内容】(%)

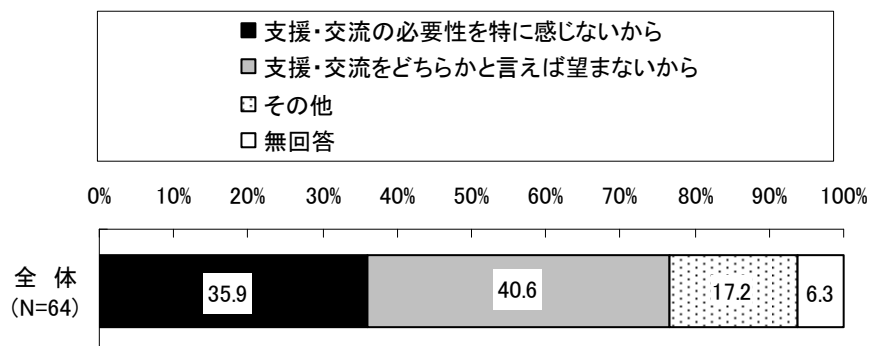
		調査数（人）	地域から受けた支援・交流の内容									
			（見守る） （声かけなどをする）	普段から定期的に （普段から定期的）	趣味やスポーツ活 （動を一緒にする）	地域の行事や参加ベ （ントに一緒に参加）	相談相手になる	世間話をして一緒 （に過ごす）	外出時に付き添う	簡単な身の回りの （世話を）	その他	特にない
全 体		309	36.2	28.5	27.2	22.7	21.0	13.6	7.8	4.2	20.7	5.2
年 齢	0～5歳	24	50.0	41.7	37.5	20.8	12.5	16.7	8.3	－	8.3	8.3
	6～8歳	48	43.8	20.8	31.3	16.7	16.7	12.5	2.1	2.1	14.6	6.3
	9～11歳	39	41.0	33.3	38.5	30.8	28.2	10.3	12.8	7.7	20.5	－
	12～14歳	31	45.2	32.3	22.6	16.1	25.8	19.4	9.7	3.2	9.7	3.2
	15～17歳	25	40.0	28.0	24.0	32.0	16.0	28.0	12.0	4.0	16.0	－
	18～29歳	83	33.7	32.5	28.9	25.3	22.9	12.0	4.8	3.6	24.1	4.8
	30歳代	42	16.7	19.0	19.0	21.4	16.7	7.1	9.5	4.8	38.1	9.5
	40歳代	15	20.0	13.3	－	13.3	26.7	6.7	13.3	6.7	26.7	13.3
	無回答	2	50.0	50.0	－	－	50.0	50.0	－	50.0	－	－
全 体		309	36.2	28.5	27.2	22.7	21.0	13.6	7.8	4.2	20.7	5.2
有 帳 療 育 手 帳 無 の 手	療育手帳あり	74	50.0	36.5	36.5	24.3	24.3	29.7	8.1	5.4	8.1	6.8
	療育手帳なし	226	32.3	26.5	25.2	22.1	20.4	8.8	8.0	4.0	23.9	4.4
	無回答	9	22.2	11.1	－	22.2	11.1	－	－	－	44.4	11.1

(3) 地域からの支援・交流を望まない理由

[問43で「9」を選ばれた方におたずねします]

問43-1 それはなぜですか。(○は1つだけ)

【図表9-99 地域からの支援・交流を望まない理由】

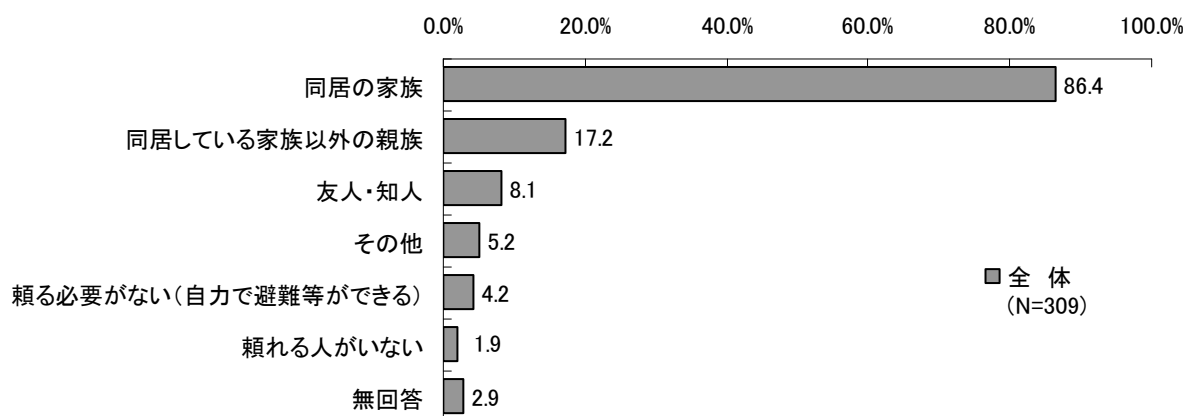


「支援・交流の必要性を特に感じないから」が35.9%、「支援・交流をどちらかと言えば望まないから」が40.6%となっている。

(4) 災害時に頼れる人

問44 あなたは、水害や地震などが発生したときに、安全の確保などで頼れる人はどなたですか。(○はあてはまるものすべて)

【図表9-100 災害時に頼れる人】



「同居の家族」(86.4%)が8割弱と最も多く、次いで「同居している家族以外の親族」(17.2%)となっている。

年齢別にみても大きな違いはみられない。

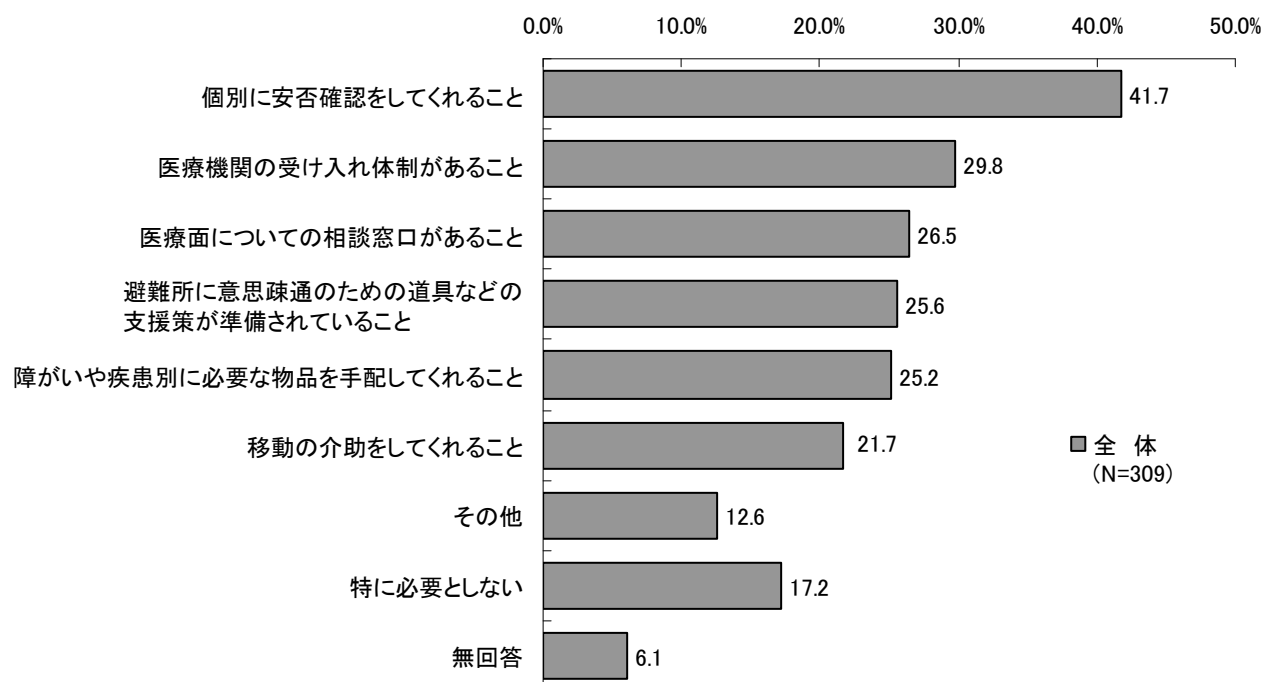
【図表9-101 年齢別 災害時に頼れる人】(%)

	調査数 (人)	災害時に頼れる人						
		同居の家族	族同居以外 の親族 の親	友人・知人	その他	が（自力で避難 できる）	頼る必要が ない	い頼れる人 がいな
全 体	309	86.4	17.2	8.1	5.2	4.2	1.9	2.9
年 齢	0～5歳	24	95.8	20.8	—	—	—	4.2
	6～8歳	48	95.8	14.6	12.5	6.3	—	2.1
	9～11歳	39	94.9	23.1	10.3	—	—	—
	12～14歳	31	96.8	19.4	9.7	6.5	—	—
	15～17歳	25	88.0	16.0	12.0	—	8.0	4.0
	18～29歳	83	79.5	16.9	6.0	6.0	8.4	3.6
	30歳代	42	71.4	11.9	9.5	9.5	4.8	9.5
	40歳代	15	73.3	13.3	—	13.3	13.3	—
	無回答	2	100.0	50.0	—	—	—	—

(5) 災害時に必要な支援

問 4 5 あなたは、災害時には行政や地域などからどのような支援を必要としますか。(○はあてはまるものすべて)

【図表9-102 災害時に必要な支援】



「個別に安否確認をしてくれること」(41.7%)が4割強を占めて最も多く、次いで「医療機関の受け入れ体制があること」(29.8%)、「医療面についての相談窓口があること」(26.5%)、「避難所に意思疎通のための道具などの支援策が準備されていること」(25.6%)、「障がいや疾患別に必要な物品を手配してくれること」(25.2%)となっている。

年齢別にみると、0～5歳では他に比べて「避難所に意思疎通のための道具などの支援策が準備されていること」(50.0%)の割合が高く、半数を占めている。また、40歳代では「医療機関の受け入れ態勢があること」、18～29歳では「医療面についての相談窓口があること」の割合がそれぞれ他の年代に比べて高い。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人(知的障がいがある人)では所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて、全ての項目において必要としている人の割合が高い。

発達障がいの診断別にみると、自閉症のみの人では「個別に安否確認をしてくれること」(61.1%)や「避難所に意思疎通のための道具などの支援策が準備されていること」(38.9%)、「移動の介助をしてくれること」と「障がいや疾患別に必要な物品を手配してくれること」(それぞれ36.1%)等の割合が高くなっている。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「医療機関の受け入れ体制があること」(41.8%)や「医療面についての相談窓口があること」(35.2%)、「移動の介助をしてくれること」(28.7%)等の割合が高くなっている。

【図表9-103 年齢別、療育手帳の有無別、発達障がいの診断別、

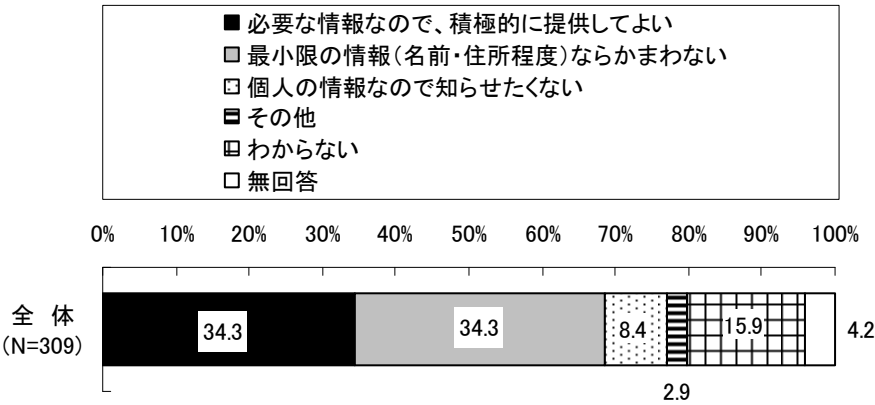
二次的な情緒や行動等の問題の有無別 災害時に必要な支援】(%)

		調査数（人）	災害時に必要な支援																																																																													
			個別に 安否確認 を して ける こと	医療 機関 の 受 け 入 れ 体 制 が あ る こ と	医療 面 に つ い て の 相 談 窓 口 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と	避難 所 に 意 思 疎 通 の た が め 道 具 な ど の 支 援 の 策 が あ る こ と

(6) 災害時支援のための事前の個人情報提供意向

問 4 6 あなたは、災害時に行政や地域などからの支援を受けるため、あらかじめ、個人情報（お名前、住所、世帯の状況、障がいの状況、緊急連絡先等）を福岡市などに提供することについて、どう思いますか。（○は1つだけ）

【図表9-104 災害時支援のための事前の個人情報提供意向】



「必要の情報なので、積極的に提供してよい」と「最小限の情報（名前・住所程度）ならかまわない」（34.3%）がそれぞれ3割を超えて多くっており、「個人の情報なので知らせたくない」（8.4%）との回答は1割に満たなかった。

年齢別にみると、18～29歳では「個人の情報なので知らせたくない」（14.5%）の割合がやや高く、1割を超えている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人（知的障がいがある人）では、所持していない人（知的障がいを伴わない人）に比べて「必要の情報なので、積極的に提供してよい」（52.7%）の割合が高く、過半数となっている。

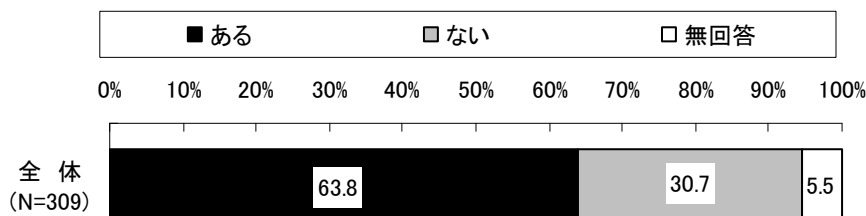
【図表9-105 年齢別、療育手帳の有無別 災害時支援のための事前の個人情報提供意向】（%）

		調査数（人）	災害時支援のための事前の個人情報提供意向					
			極必要に情報提供してよい、積極	ない住所最小程度（名前・住所程度）ならかまわない	せた個人の情報なので知らせたくない	その他	わからない	無回答
全 体		309	34.3	34.3	8.4	2.9	15.9	4.2
年 齢	0～5歳	24	45.8	20.8	4.2	4.2	12.5	12.5
	6～8歳	48	35.4	41.7	4.2	2.1	14.6	2.1
	9～11歳	39	35.9	30.8	5.1	2.6	25.6	—
	12～14歳	31	45.2	35.5	6.5	3.2	9.7	—
	15～17歳	25	36.0	36.0	8.0	—	20.0	—
	18～29歳	83	34.9	31.3	14.5	4.8	9.6	4.8
	30歳代	42	16.7	42.9	9.5	2.4	21.4	7.1
	40歳代	15	20.0	33.3	6.7	—	26.7	13.3
無回答		2	100.0	—	—	—	—	—
全 体		309	34.3	34.3	8.4	2.9	15.9	4.2
有 帳 育 手 無 の 帳	療育手帳あり	74	52.7	29.7	2.7	1.4	8.1	5.4
	療育手帳なし	226	29.6	35.4	9.7	3.5	18.1	3.5
	無回答	9	—	44.4	22.2	—	22.2	11.1

(7) 差別を受けたり、いやな思いをした経験

問47 あなたは、これまでに障がいがあるため、差別を受けたりいやな思いをしたことがありますか。(○は1つだけ)

【図表9-106 差別を受けたり、いやな思いをした経験】



「ある」(63.8%)が6割強となっており、「ない」(30.7%)を上回っている。

年齢別にみると、差別やいやな思いをした経験がある人の割合は12～17歳で他の年代に比べて高く、7割を超えている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人(知的障がいがある人)では所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて、差別やいやな思いをした経験がある人の割合が8割強(81.1%)と高い。

発達障がいの診断別にみると、自閉症のみの人と発達障がいの重複の人では差別やいやな思いをした経験がある人の割合が7割を超えて高くなっている。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人と過去にあった人では、ない人に比べて差別やいやな思いをした経験がある人の割合が高く、7割を占めている。

【図表9-107 年齢別、療育手帳の有無別、発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別 差別を受けたり、いやな思いをした経験】(%)

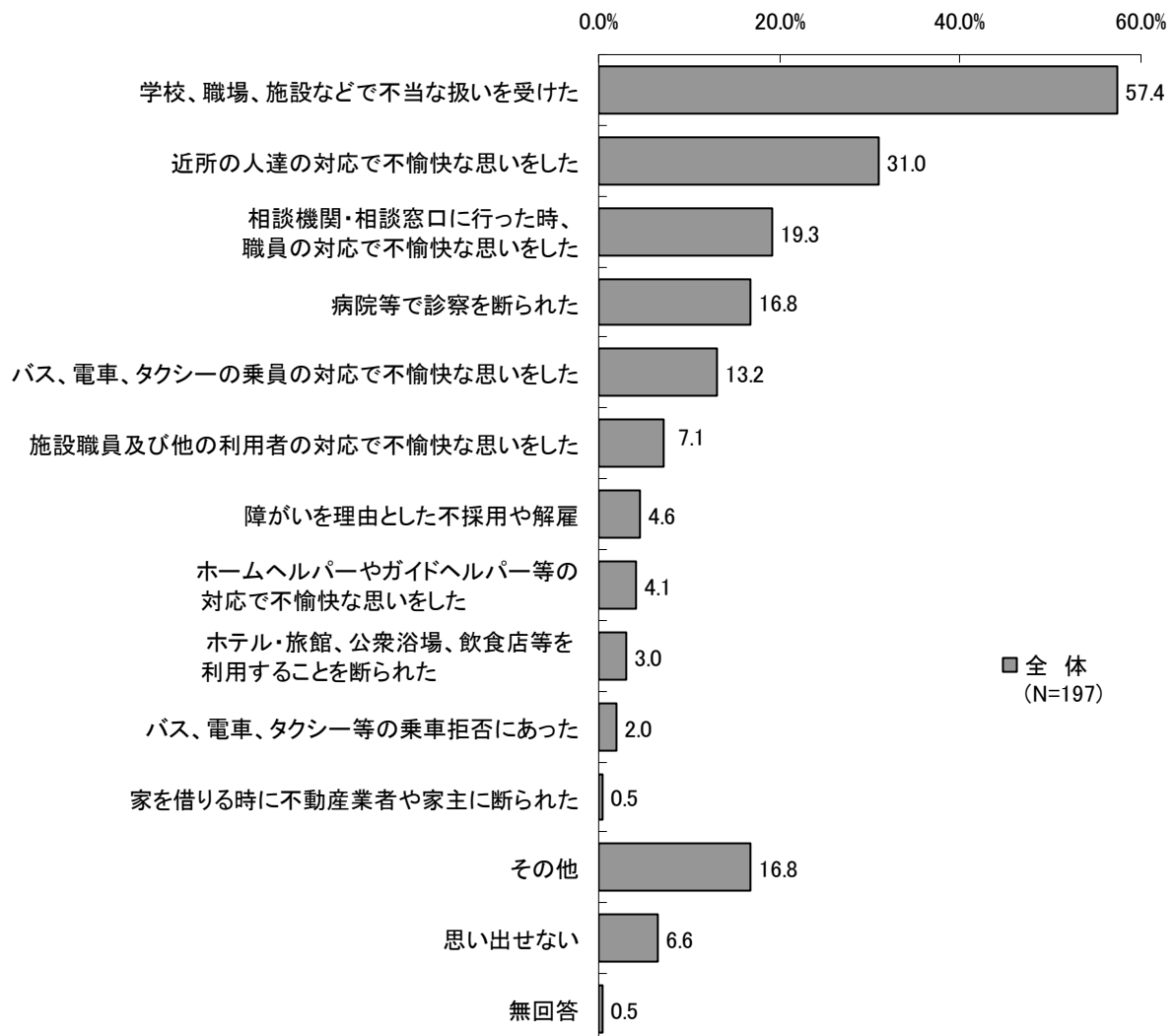
		(人調査数)	差別を受けたり、いやな思いをした経験		
			ある	ない	無回答
全 体		309	63.8	30.7	5.5
年 齢	0～5歳	24	50.0	41.7	8.3
	6～8歳	48	52.1	45.8	2.1
	9～11歳	39	66.7	30.8	2.6
	12～14歳	31	74.2	22.6	3.2
	15～17歳	25	72.0	24.0	4.0
	18～29歳	83	65.1	30.1	4.8
	30歳代	42	64.3	21.4	14.3
	40歳代	15	73.3	20.0	6.7
無回答		2	50.0	50.0	—
全 体		309	63.8	30.7	5.5
有 療育手帳	療育手帳あり	74	81.1	13.5	5.4
	療育手帳なし	226	58.0	37.2	4.9
	無回答	9	66.7	11.1	22.2
全 体		309	63.8	30.7	5.5
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	64.2	29.9	5.9
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	54.5	36.4	9.1
	学習障がい(LD)のみ	2	50.0	50.0	—
	アスペルガー症候群のみ	39	56.4	35.9	7.7
	自閉症のみ	36	75.0	19.4	5.6
	広汎性発達障がいのみ	79	53.2	40.5	6.3
	知的障がいのみ	9	66.7	22.2	11.1
	発達障がいの重複	112	72.3	23.2	4.5
	診断は受けていない	21	57.1	42.9	—
無回答		—	—	—	—
全 体		309	63.8	30.7	5.5
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 等 の 問 題	二次的な問題あり	122	69.7	22.1	8.2
	過去に二次的な問題あり	54	68.5	29.6	1.9
	二次的な問題なし	124	57.3	40.3	2.4
	無回答	9	44.4	22.2	33.3

(8) 差別を受けたり、いやな思いをした内容

[問47で「1」を選ばれた方におたずねします]

問47-1 どのようなことで、いやな思いをしましたか。(〇はあてはまるものすべて)

【図表9-108 差別を受けたり、いやな思いをした内容】



障がいのために差別を受けたり、いやな思いをしたことがある人に、その内容をたずねたところ、「学校、職場、施設などで不当な扱いを受けた」(57.4%)が6割弱と最も多く、次いで「近所の人達の対応で不愉快な思いをした」(31.0%)、「相談機関・相談窓口に行った時、職員の対応で不愉快な思いをした」(19.3%)となっている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人(知的障がいがある人)では所持していない人(知的障がいを伴わない人)に比べて、「病院等で診察を断られた」(28.3%)の割合が3割弱と高い。

【図表9-109 療育手帳の有無別 差別を受けたり、いやな思いをした内容】(%)

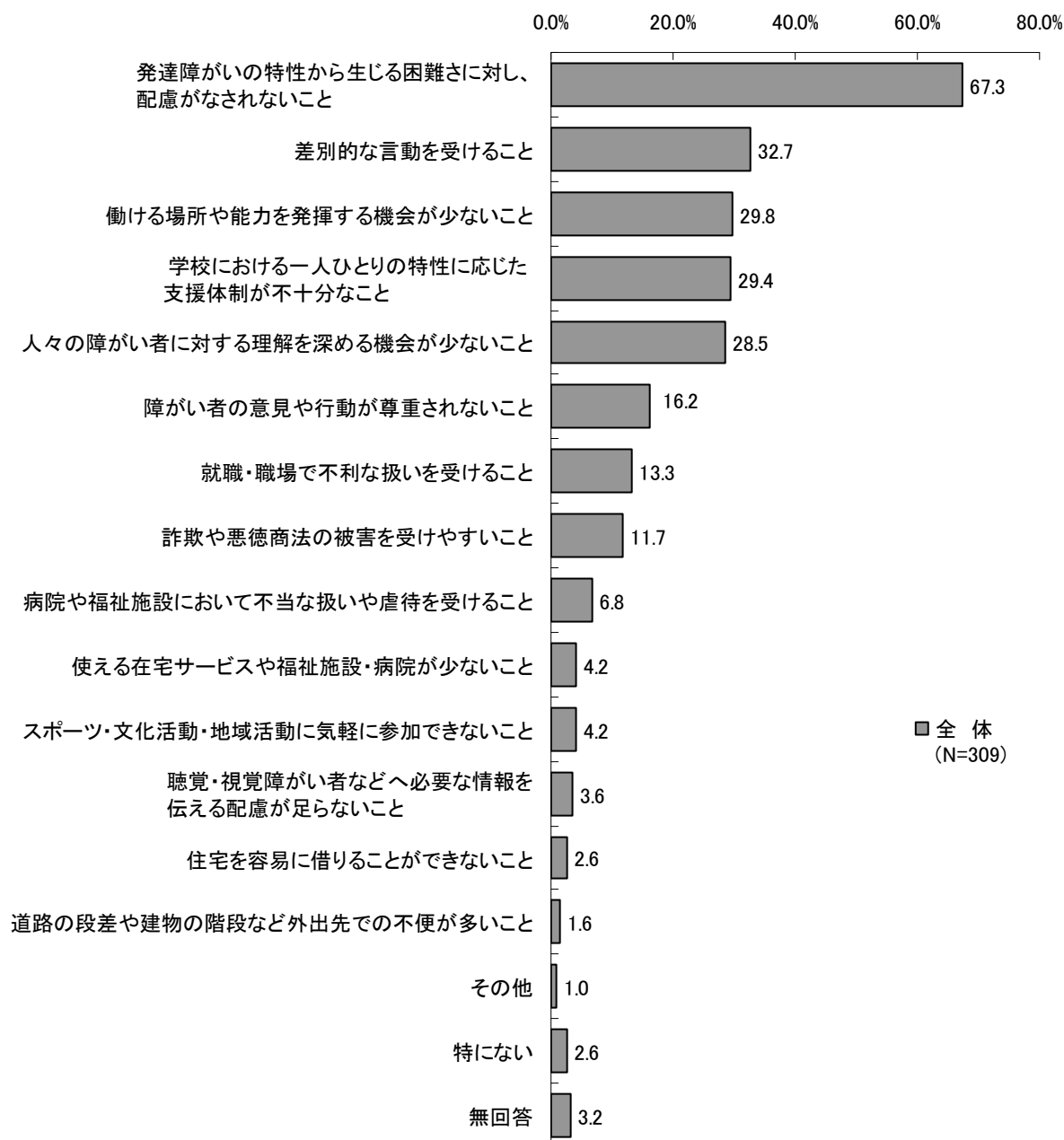
		調査数（人）	差別を受けたり、いやな思いをした内容						
			で学校、職場、施設など 不当な扱いを受けた	近所の人達の対応で不 愉快な思いをした	行った時、職員への対応 不愉快な思いをした	相談機・相談窓口にて 対応	病院等で診察を断られ た	バス、電車、タクシーの 乗員の対応で不快な 思いをした	施設の職員及び他の利用 者の対応で不快な思 いをした
全 体		197	57.4	31.0	19.3	16.8	13.2	7.1	4.6
有 療育手帳あり 無 療育手帳なし 無回答	療育手帳あり	60	50.0	36.7	25.0	28.3	20.0	6.7	1.7
	療育手帳なし	131	61.8	28.2	16.8	12.2	9.9	7.6	6.1
	無回答	6	33.3	33.3	16.7	-	16.7	-	-

		調査数(人)	差別を受けたり、いやな思いをした内容						
			ドホームヘルパー等の対応で不快な思いをした	ホーム・レストラン、旅館、公共浴場、ホテル等を利用した	バス、電車、タクシー	業者や家主に断られた	その他	思い出せない	無回答
全 体		197	4.1	3.0	2.0	0.5	16.8	6.6	0.5
有 療育手帳あり 無 療育手帳なし 無回答	療育手帳あり	60	8.3	10.0	5.0	-	20.0	6.7	-
	療育手帳なし	131	2.3	-	0.8	0.8	14.5	6.9	0.8
	無回答	6	-	-	-	-	33.3	-	-

(9) 障がい者の人権に関して問題があると思うこと

問 4 8 障がい者に関する事柄で、特に人権上問題があると思われるのはどのようなことですか。(〇は3つまで)

【図表9-110 障がい者の人権に関して問題があると思うこと】



「発達障がいの特性から生じる困難さに対し、配慮がなされないこと」(67.3%)が7割弱と最も多く、以下「差別的な言動を受けること」(32.7%)や「働ける場所や能力を発揮する機会が少ないこと」(29.8%)、「学校における一人ひとりの特性に応じた支援体制が不十分なこと」(29.4%)、「人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと」(28.5%)が3割前後で続いている。

年齢別にみると、「学校における一人ひとりの特性に応じた支援体制が不十分なこと」の割合は6～11歳で高く、「差別的な言動を受けること」の割合は12～14歳(54.8%)で過半数となっている。

【図表9-111 年齢別 障がい者の人権に関して問題があると思うこと】(%)

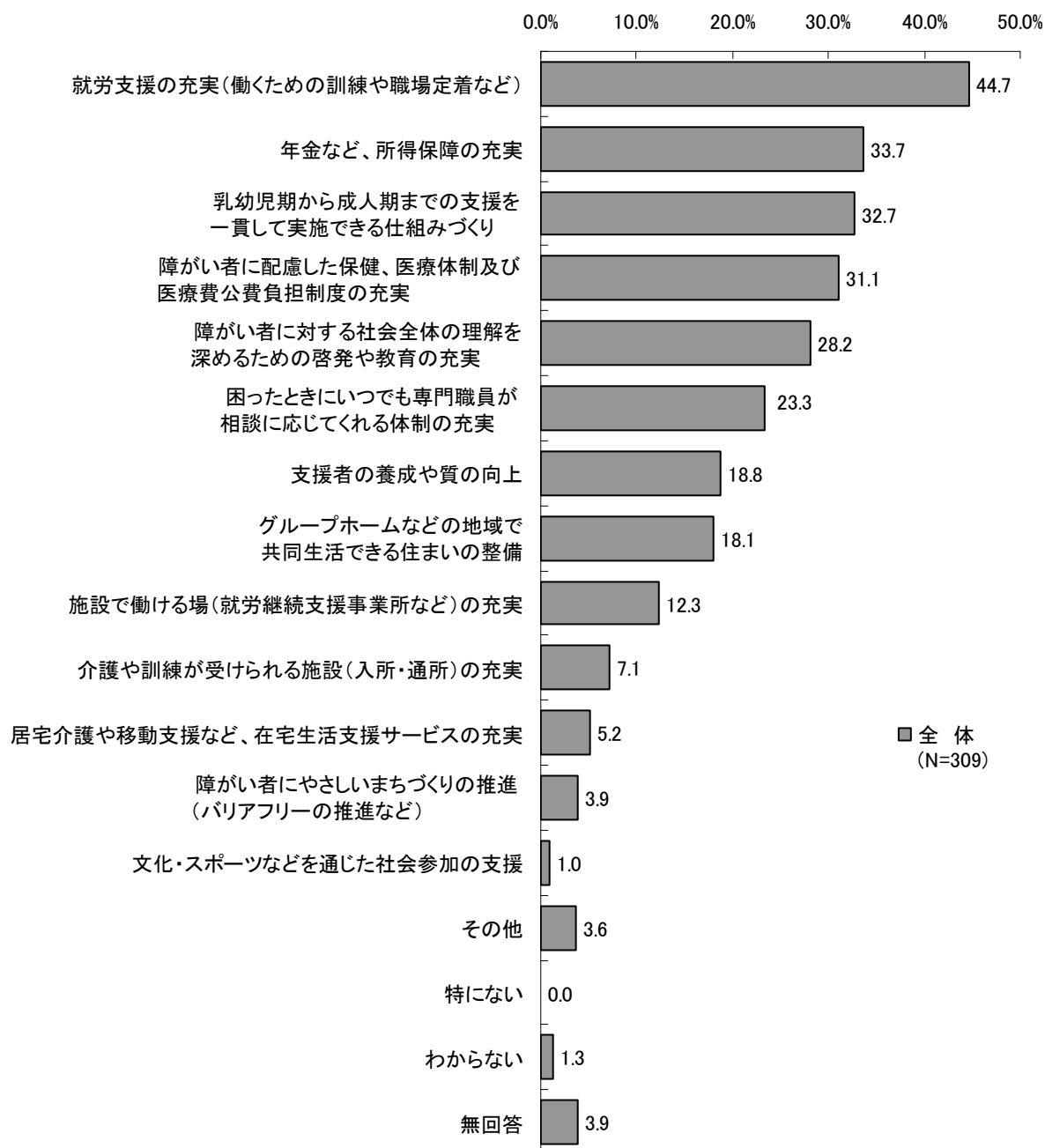
		調査数（人）	障がい者の人権に関して問題があると思うこと								
			発達障がいの特性から生じる困難さに対する配慮がなされないこと	差別的な言動を受けること	働く場所や能力を十分に発揮する機会が少ないこと	学校における一人ひとりの特性に応じた支援体制が不十分なこと	人々の障がい者に対する理解を深める機会が少ないこと	障がい者の意見や行動が尊重されないこと	就職・職場で不利な扱いを受けること	詐欺や悪徳商法の被害を受けやすいこと	病院や福祉施設において不当な扱いや虐待を受けること
全 体		309	67.3	32.7	29.8	29.4	28.5	16.2	13.3	11.7	6.8
年 齢	0～5歳	24	50.0	33.3	16.7	33.3	37.5	25.0	4.2	12.5	8.3
	6～8歳	48	68.8	33.3	12.5	43.8	29.2	4.2	10.4	6.3	6.3
	9～11歳	39	69.2	25.6	33.3	48.7	33.3	7.7	10.3	10.3	5.1
	12～14歳	31	83.9	54.8	32.3	29.0	22.6	12.9	9.7	12.9	9.7
	15～17歳	25	60.0	40.0	32.0	32.0	8.0	24.0	4.0	8.0	4.0
	18～29歳	83	65.1	31.3	33.7	22.9	31.3	19.3	21.7	13.3	6.0
	30歳代	42	66.7	23.8	42.9	11.9	26.2	23.8	11.9	16.7	4.8
	40歳代	15	73.3	20.0	33.3	6.7	40.0	20.0	26.7	13.3	6.7
	無回答	2	100.0	50.0	-	50.0	-	-	-	-	100.0

		調 査 数 （ 人 ）	障がい者の人権に関して問題があると思うこと							
			い 福 祉 施 設 ・ 病 院 が 少 な い こ と	使 え る 在 宅 サ ー ビ ス や 病 院 が 少 な い こ と	地 域 活 動 に 気 軽 に 参 加 ・ ス ポ ー ツ ・ 文 化 活 動 ・ 配 慮 が 足 ら な い こ と	ど へ 必 要 な 情 報 を 伝 え な い こ と	聴 覚 ・ 視 覚 障 が い 者 な い こ と	住 宅 を 容 易 に 借 り る こ と が で き な い こ と	道 路 の 段 差 や 建 物 の 不 便 が 多 い こ と	そ の 他
全 体		309	4.2	4.2	3.6	2.6	1.6	1.0	2.6	3.2
年 齢	0～5歳	24	-	12.5	-	-	4.2	-	-	8.3
	6～8歳	48	-	-	12.5	2.1	6.3	2.1	2.1	4.2
	9～11歳	39	2.6	2.6	10.3	5.1	-	2.6	5.1	-
	12～14歳	31	-	6.5	-	-	-	-	-	3.2
	15～17歳	25	8.0	8.0	-	-	4.0	-	4.0	8.0
	18～29歳	83	6.0	3.6	1.2	2.4	-	1.2	2.4	1.2
	30歳代	42	11.9	2.4	-	4.8	-	-	4.8	4.8
	40歳代	15	-	6.7	-	6.7	-	-	-	-
	無回答	2	-	-	-	-	-	-	-	-

(10) 障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと

問 4 9 障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、国や県、市に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

【図表9-112 障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと】



「就労支援の充実(働くための訓練や職場定着など)」(44.7%)が4割を超えて最も多く、次いで「年金など、所得保障の充実」(33.7%)、「乳幼児期から成人期までの支援を一貫して実施できる仕組みづくり」(32.7%)、「障がい者に配慮した保健、医療体制及び医療費公費負担制度の充実」(31.1%)、「障がい者に対する社会全体の理解を深めるための啓発や教育の充実」(28.2%)となっている。

年齢別にみると、「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」、「困ったときにいつでも専門職員が相談に応じてくれる体制の充実」等は概ね年齢が高いほど割合も高く、30・40歳代ではそれぞれ3割前後を占めている。

療育手帳の有無別にみると、療育手帳を所持している人（知的障がいがある人）は、所持していない人（知的障がいを伴わない人）に比べて、「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」（39.2%）等の割合が高い。

【図表9-113 年齢別、療育手帳の有無別、
障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと】（%）

		調 査 数 （ 人 ）	障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと											
			な た め の 訓 練 や 職 場 定 着 （ 等 ）	就 労 支 援 の 充 実 （ 働 く ）	充 実 金 な ど 、 所 得 保 障 の 充 実	施 で の 支 援 仕 組 み づ く り 実 ま	乳 幼 児 期 か ら 成 人 期 ま で の 支 援 の 充 実	健 公 費 負 担 制 度 及 び 充 実 の 充 実	障 が い 者 に 配 慮 し た 保 障 の 充 実	全 体 の 啓 発 理 解 を 深 め る 充 実	専 門 職 員 の 体 制 の 充 実	困 った と き に い つ も 支 援 者 の 養 成 や 質 の 向 上	上 支 援 者 の 養 成 や 質 の 向 上	住 ま い の 整 備
全 体		309	44.7	33.7	32.7	31.1	28.2	23.3	18.8	18.1	12.3			
年 齢	0～5歳	24	37.5	25.0	66.7	16.7	29.2	12.5	20.8	8.3	4.2			
	6～8歳	48	54.2	22.9	54.2	25.0	27.1	16.7	16.7	6.3	14.6			
	9～11歳	39	46.2	25.6	43.6	33.3	38.5	20.5	20.5	2.6	12.8			
	12～14歳	31	58.1	32.3	38.7	25.8	22.6	25.8	25.8	12.9	12.9			
	15～17歳	25	36.0	48.0	20.0	28.0	28.0	16.0	20.0	20.0	20.0			
	18～29歳	83	42.2	39.8	18.1	34.9	30.1	24.1	15.7	27.7	9.6			
	30歳代	42	42.9	38.1	19.0	38.1	19.0	35.7	19.0	28.6	11.9			
	40歳代	15	33.3	40.0	6.7	46.7	33.3	33.3	20.0	33.3	20.0			
無回答		2	-	-	50.0	-	-	50.0	-	50.0	-			
全 体		309	44.7	33.7	32.7	31.1	28.2	23.3	18.8	18.1	12.3			
帳療 無の育 有手	療育手帳あり	74	27.0	37.8	36.5	29.7	21.6	18.9	21.6	39.2	17.6			
	療育手帳なし	226	49.6	31.4	32.3	31.9	31.0	23.9	17.7	10.6	10.2			
	無回答	9	66.7	55.6	11.1	22.2	11.1	44.4	22.2	33.3	22.2			

		調 査 数 （ 人 ）	障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと							
			の 充 実	介 護 や 訓 練 が 受 け ら れ （ 入 所 ・ 通 所 ）	ビ ス の 充 実	居 宅 の 充 実 （ 移 住 支 援 ）	ア フ リ ー の 推 進 （ バ リ マ ）	障 が い 者 に や さ し い ま ち づ く の 推 進	文 化 ・ ス ポ ー ツ な ど を 通 じ た 社 会 参 加 の 支 援	そ の 他
全 体		309	7.1	5.2	3.9	1.0	3.6	-	1.3	3.9
年 齢	0～5歳	24	20.8	-	4.2	-	-	-	-	12.5
	6～8歳	48	6.3	4.2	6.3	-	6.3	-	2.1	2.1
	9～11歳	39	5.1	2.6	5.1	2.6	5.1	-	2.6	-
	12～14歳	31	9.7	3.2	3.2	-	3.2	-	-	3.2
	15～17歳	25	12.0	12.0	-	-	4.0	-	-	-
	18～29歳	83	3.6	6.0	6.0	2.4	3.6	-	1.2	3.6
	30歳代	42	7.1	7.1	-	-	2.4	-	2.4	7.1
	40歳代	15	-	6.7	-	-	-	-	-	-
無回答		2	-	-	-	-	-	-	-	50.0
全 体		309	7.1	5.2	3.9	1.0	3.6	-	1.3	3.9
帳療 無の育 有手	療育手帳あり	74	12.2	10.8	2.7	-	1.4	-	-	5.4
	療育手帳なし	226	5.8	3.5	4.4	1.3	4.4	-	1.8	3.5
	無回答	9	-	-	-	-	-	-	-	-

発達障がいの診断別にみると、自閉症のみ的人はその他に比べて「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」(44.4%)等の割合が高い。

二次的な情緒や行動等の問題の有無別にみると、二次的な問題がある人はない人等に比べて「年金など、所得保障の充実」(39.3%)や「グループホームなどの地域で共同生活できる住まいの整備」(26.2%)等の割合が高い。

【図表9-114 発達障がいの診断別、二次的な情緒や行動等の問題の有無別
障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと】(%)

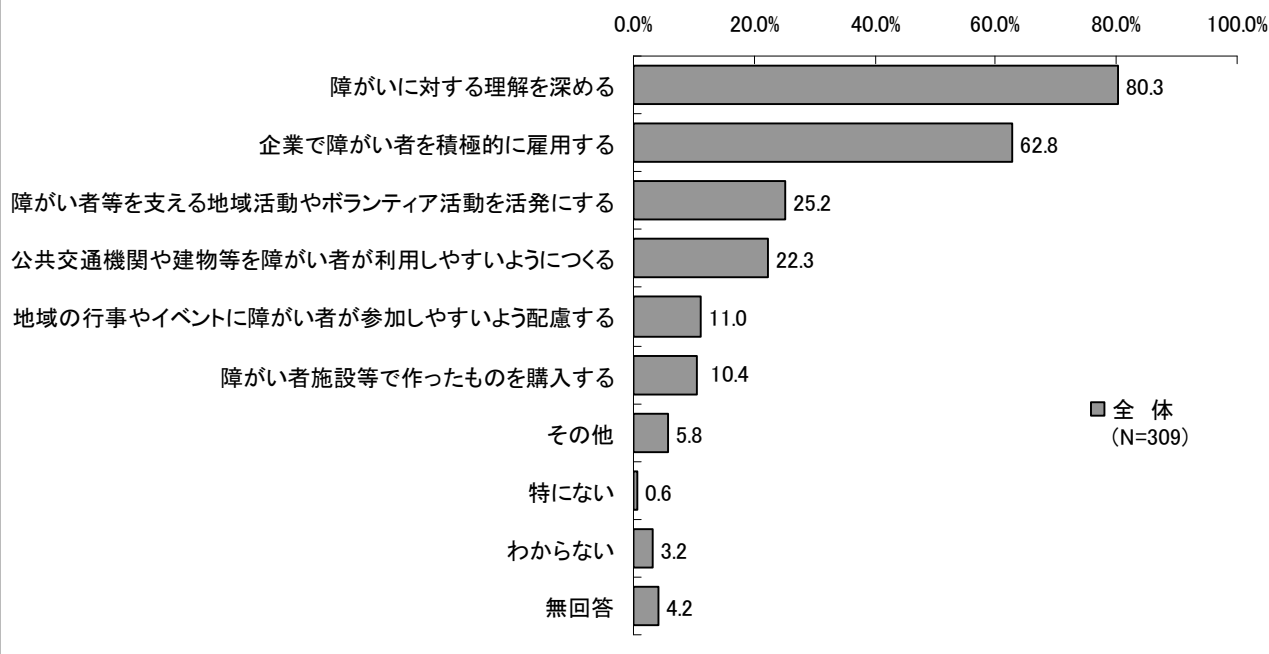
		調 査 数 （ 人 ）	障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと														
			な た め の 訓 練 や 職 場 定 着	就 業 支 援 の 充 実 （ 働 く	充 実 な ど 、 所 得 保 障 の	施 で の 支 援 を 一 貫 し て 実 施 す 組 み づ く り	乳 幼 児 期 か ら 成 人 期 ま で の 支 援 を 一 貫 し て 実 施 す 組 み づ く り	健 公 費 医 療 費 の 充 実	障 が い 者 に 対 し た 医 療 保 障 の 充 実	全 体 の 啓 発 や 教 育 の 充 実	障 が い 者 に 対 す る 社 会 的 支 援 の 充 実	専 門 的 な 職 員 の 体 制 の 充 実	困 難 な と き に い つ で も 支 援 の 充 実	上 等 の 支 援 の 充 実	住 居 の 支 援 の 充 実	グ ル ー プ ホ ー ム な ど の 支 援 の 充 実	其 他 の 支 援 の 充 実
全 体		309	44.7	33.7	32.7	31.1	28.2	23.3	18.8	18.1	12.3						
発 達 障 が い の 診 断	診断を受けている	288	44.4	33.3	33.0	30.6	27.8	24.3	18.1	18.8	12.8						
	注意欠陥多動性障がい（ADHD）のみ	11	54.5	54.5	36.4	18.2	18.2	—	9.1	—	36.4						
	学習障がい（LD）のみ	2	50.0	—	—	50.0	—	50.0	—	—	50.0						
	アスペルガー症候群のみ	39	56.4	51.3	17.9	38.5	30.8	25.6	20.5	20.5	10.3						
	自閉症のみ	36	25.0	36.1	19.4	22.2	25.0	13.9	27.8	44.4	22.2						
	広汎性発達障がいのみ	79	46.8	22.8	40.5	29.1	36.7	26.6	17.7	16.5	3.8						
	知的障がいのみ	9	44.4	22.2	55.6	33.3	11.1	33.3	—	—	11.1						
	発達障がいの重複	112	43.8	33.0	35.7	32.1	24.1	26.8	17.0	15.2	14.3						
	診断は受けていない	21	47.6	38.1	28.6	38.1	33.3	9.5	28.6	9.5	4.8						
	無回答	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—						
全 体		309	44.7	33.7	32.7	31.1	28.2	23.3	18.8	18.1	12.3						
二 次 的 な 情 緒 や 行 動 の 問 題 有 無	二次的な問題あり	122	35.2	39.3	27.0	36.1	23.8	23.0	18.9	26.2	11.5						
	過去に二次的な問題あり	54	50.0	27.8	27.8	25.9	37.0	22.2	18.5	16.7	13.0						
	二次的な問題なし	124	50.0	30.6	40.3	29.8	29.0	24.2	19.4	11.3	12.1						
	無回答	9	66.7	33.3	33.3	11.1	22.2	22.2	11.1	11.1	22.2						

		調査数(人)	障がい者福祉施策として国や県、市に力を入れてほしいこと									
			の 充 実 等	介 護 の 充 実 等	居 宅 の 充 実 等	ア チ ブ の 充 実 等	障 が い の 支 援 の 充 実 等	通 じ た ・ 社 会 の 支 援 の 充 実 等	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体		309	7.1	5.2	3.9	1.0	3.6	-	1.3	3.9		
発達障がいの診断	診断を受けている	288	7.6	5.6	3.8	1.0	3.8	-	1.0	3.8		
	注意欠陥多動性障がい(ADHD)のみ	11	-	-	-	-	-	-	9.1	9.1		
	学習障がい(LD)のみ	2	-	-	-	-	-	-	-	-		
	アスペルガー症候群のみ	39	2.6	2.6	2.6	2.6	2.6	-	-	-		
	自閉症のみ	36	5.6	16.7	-	-	2.8	-	-	-	5.6	
	広汎性発達障がいのみ	79	6.3	3.8	3.8	1.3	5.1	-	-	-	6.3	
	知的障がいのみ	9	-	11.1	-	-	11.1	-	11.1	-	11.1	
	発達障がいの重複	112	12.5	4.5	6.3	0.9	3.6	-	0.9	1.8	4.8	
	診断は受けていない	21	-	-	4.8	-	-	-	4.8	4.8	-	
全 体	無回答	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全 体		309	7.1	5.2	3.9	1.0	3.6	-	1.3	3.9		
二次的な情緒や行動等の問題の有無別	二次的な問題あり	122	8.2	7.4	3.3	0.8	3.3	-	-	6.6		
	過去に二次的な問題あり	54	7.4	9.3	3.7	3.7	7.4	-	-	3.7		
	二次的な問題なし	124	6.5	1.6	4.0	-	2.4	-	3.2	0.8		
	無回答	9	-	-	11.1	-	-	-	-	11.1		

(11) 障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと

問50 障がいのある人が暮らしやすい社会をつくるために、地域社会や企業に、特に力を入れてほしいと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

【図表9-115 障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと】



「障がいに対する理解を深める」(80.3%)が8割と最も多く、次いで「企業で障がい者を積極的に雇用する」(62.8%)、「障がい者等を支える地域活動やボランティア活動を活発にする」(25.2%)、「公共交通機関や建物等を障がい者が利用しやすいようにつくる」(22.3%)となっている。

年齢別にみても大きな違いはみられないが、15～17歳と30歳代では「障がい者施設等で作ったものを購入する」の割合が2割強と高い。

【図表9-116 年齢別 障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと】(%)

	調査数 (人)	障がい者支援として地域社会や企業等に望むこと									
		深障 めが い に 対 す る 理 解 を	的企 業に 雇 用 す る 障 が い 者 を 積 極 的 に 雇 用 す る	活 域 活 動 を 動 員 し て 支 援 を 受 け る 機 会 を 創 出 す こ と	す を 公 共 交 通 機 関 等 に 利 用 し て 支 援 を 受 け る こ と	す に 地 域 の 行 事 に 参 加 し て 支 援 を 受 け る こ と	た 障 が い 者 の 購 入 設 等 を 受 け る こ と	そ の 他	特 に な い	わ か ら な い	無 回 答
全 体	309	80.3	62.8	25.2	22.3	11.0	10.4	5.8	0.6	3.2	4.2
年 齢	0～5歳	24	87.5	54.2	20.8	29.2	12.5	4.2	4.2	—	8.3
	6～8歳	48	79.2	60.4	31.3	16.7	14.6	4.2	6.3	—	4.2
	9～11歳	39	76.9	53.8	28.2	10.3	10.3	—	2.6	—	5.1
	12～14歳	31	83.9	77.4	35.5	29.0	6.5	16.1	6.5	—	—
	15～17歳	25	76.0	64.0	24.0	28.0	12.0	24.0	8.0	—	—
	18～29歳	83	78.3	65.1	20.5	19.3	15.7	9.6	6.0	—	3.6
	30歳代	42	83.3	66.7	21.4	23.8	4.8	21.4	2.4	—	7.1
	40歳代	15	80.0	53.3	26.7	40.0	—	6.7	13.3	—	6.7
	無回答	2	100.0	50.0	—	100.0	—	—	50.0	—	—